熊本県文化財調査報告書第203集

沼 山 津 遺 跡

一般県道小池竜田線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2001．12

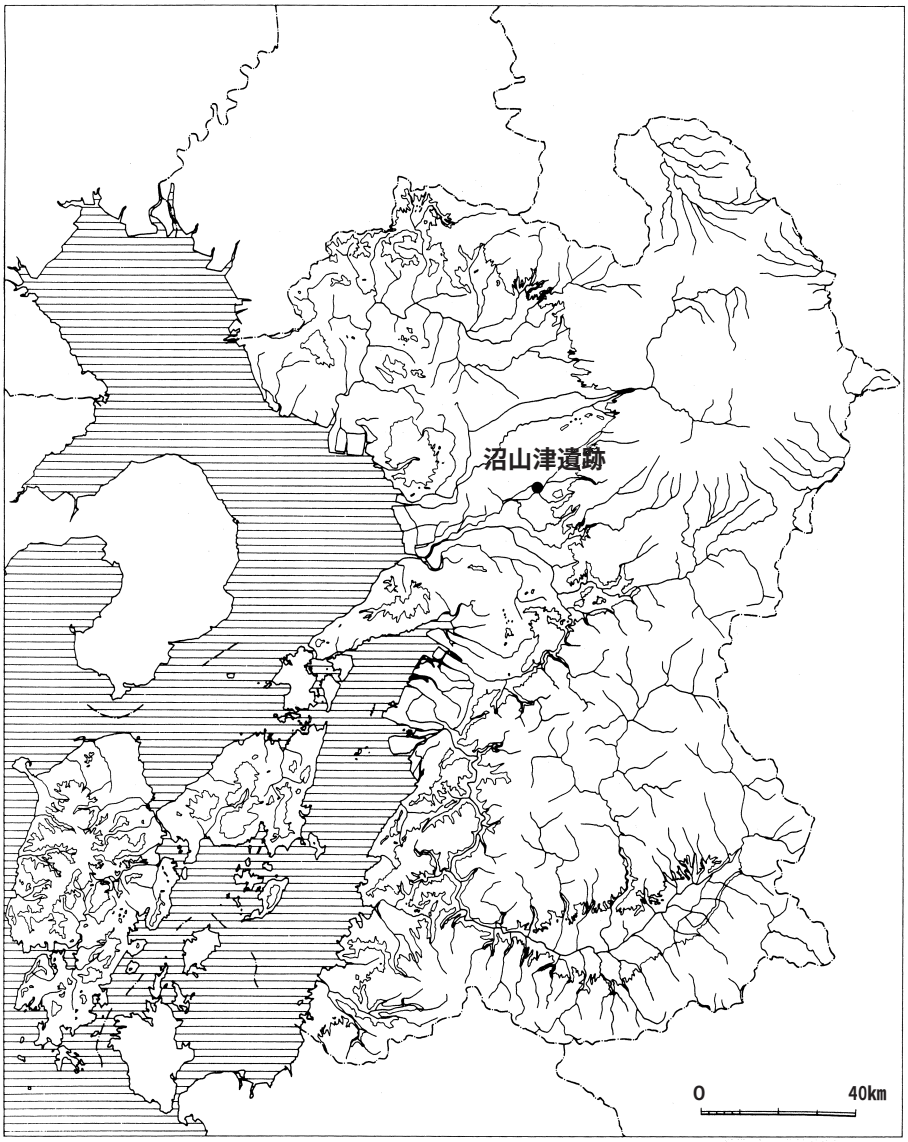
熊 本 県 教 育 委 員 会

熊本県文化財調査報告書第２０３集

沼山津遺跡

（ぬやまづ）

― 熊本市桜木４丁目所在 ―

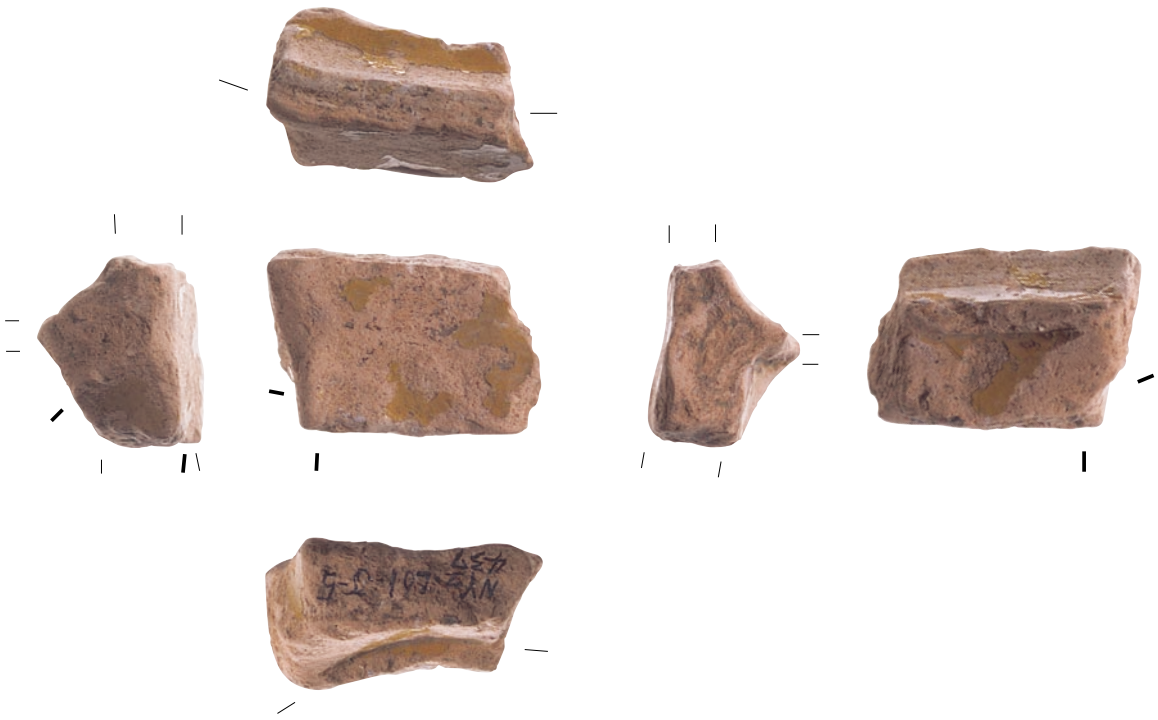


2001．12

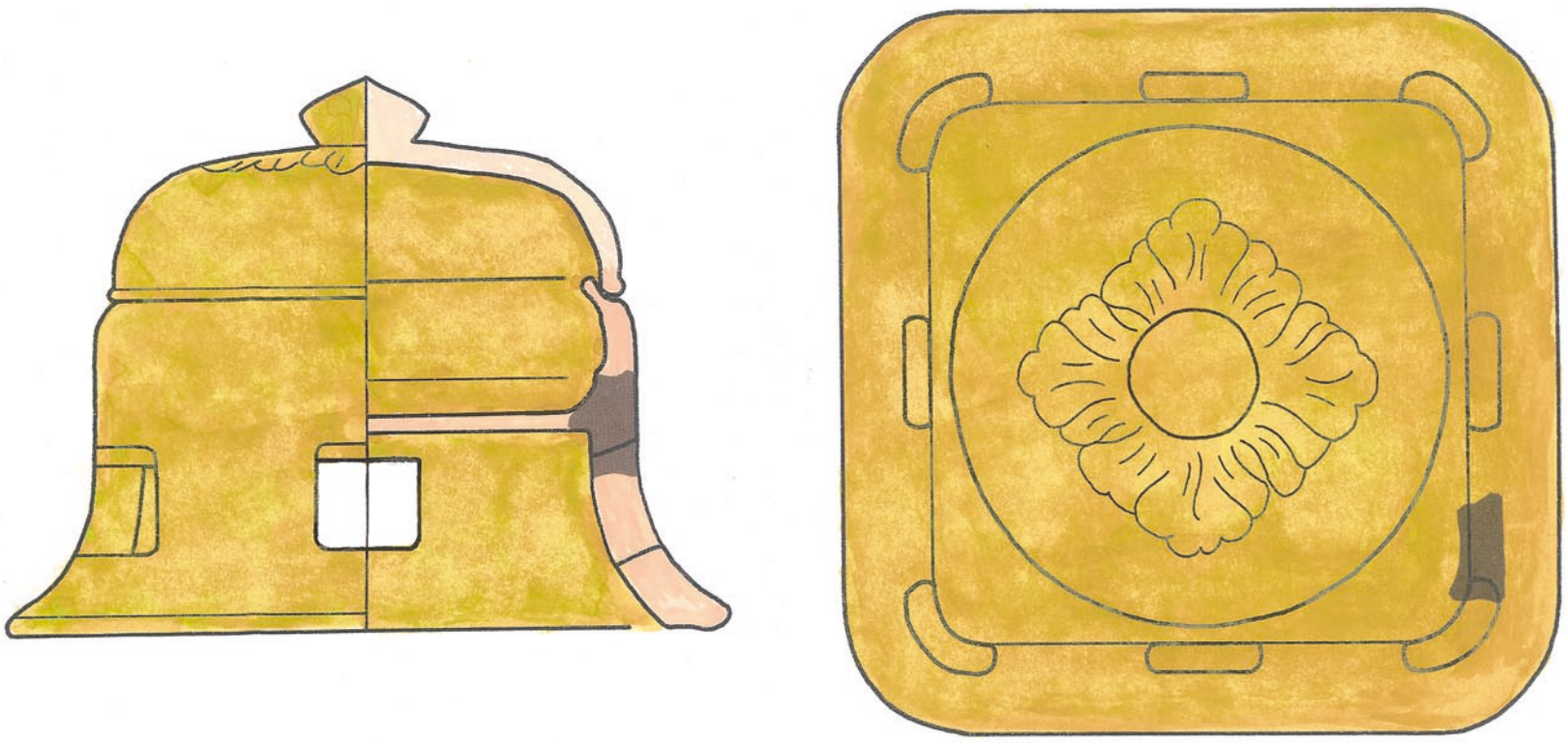
熊本県教育委員会

写真（PL）１　遺跡遠景（南西より）

写真（PL）２　遺跡遠景（南南東より）



写真(PL)３　出土遺物（48：緑釉陶器－香炉）６面展開写真　S＝1/1



図(Fig)1　緑釉陶器（香炉）復元想像図

※熊本市教育委員会の網田龍生氏の御教示による。

写真(PL) 4　２区－３　東壁土層断面（ポイントＡ－Ｂの間）

写真(PL) 5　S019　完掘状況（東より）

序　　文

熊本県教育委員会では、一般県道小池竜田線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、熊本市桜木４丁目に所在する沼山津遺跡の発掘調査を実施しました。

調査の結果、縄文時代中～後期から近世までの遺物・遺構が発見されました。特に縄文時代後～晩期と古代(平安時代初期)の遺物が多く出土しました。その中でも９世紀前半ごろに京都の洛北で焼かれた緑釉陶器の破片(香炉の身)が出土したことは当時の政治や物の流通を考える上で非常に興味深いことです。

この報告書が県民の皆様を始め多くの方々に活用され、埋蔵文化財に対する関心と理解を深めて頂く一助となれば、喜びに堪えません。

なお、調査の円滑な実施に御理解と御協力をいただいた地元の方々、並びに関係機関、そして調査に対する指導、助言をいただいた諸先生方に対して厚くお礼申し上げます。

平成13年12月28日

熊本県教育長　　田　中　力　男

例　　言

1．本書は、平成10年（1998）６月～８月にかけて実施した熊本県熊本市桜木４丁目に所在する沼山津遺跡の発掘調査報告書であり、熊本県文化財調査報告書第203集である。
2．調査は、平成10年度一般県道小池竜田線緊急地方道路整備事業に伴う緊急調査として事業の事前に実施した。
3．調査は、熊本県土木部道路建設課の依頼を受け、熊本県教育庁文化課が実施し、遺物の整理・保管は熊本県文化財収蔵庫で行った。
4．整理報告は平成12年度（2000）に行った。
5．国土座標軸による測量基準杭の設定は、(有)ダイチプランに委託し行った。
6．本書で使用した航空写真は、九州航空株式会社に委託し撮影したものである。
7．現場での遺構実測・写真撮影・遺物取り上げは、安達武敏・河津攝・岡本真也が行った。遺物実測は、岡田基子が中心となり、平川恵里子・平木智子・河合章行・岡本が行った。遺構製図及び遺物製図は、岡田が行った。遺物写真撮影は、池田朋生・後藤貴美子・村田百合子の指導を受け、岡本が行い、川井田久子が補助した。
8．英文要約は、岡本が作成し、村田がこれを校閲した。
9．本文の執筆は、岡本が行った。
10．本書の編集は、岡本があたり、校正に際しては岡田が補助した。
11．遺物は、熊本県文化財収蔵庫に保管している。

凡　　例

1．写真図版のキャプションにある矢印は撮影方向を示す。又、写真の縮尺は不統一である。

本　文　目　次

口絵（遺跡の空撮写真・緑釉陶器・地層・遺構）
序文
例言・凡例

第Ⅰ章　調査の経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の組織 …… 1
　第３節　調査の過程 …… 1

第Ⅱ章　位置と環境 …… 3
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3

第Ⅲ章　調査の概要 …… 16
　第１節　調査の方法 …… 16
　第２節　調査区の設定 …… 16
　第３節　層位と包含層 …… 16

第Ⅳ章　調査の結果 …… 21
　第１節　遺構 …… 21
　第２節　遺物 …… 29

第Ⅴ章　総　括 …… 42
引用・参考文献 …… 51
summary …… 53
写真図版 …… 57
あとがき
報告書抄録

挿　図　目　次

図(Fig) 1　緑釉陶器（香炉）復元想像
図(Fig) 2　沼山津遺跡周辺遺跡分布図　S＝1/50,000 …… 4
図(Fig) 3　地形断面図　S＝1/50,000 …… 5
図(Fig) 4　熊本平野周辺遺跡分布図（縄文後～晩期）S＝1/200,000 …… 8
図(Fig) 5　熊本平野周辺遺跡分布図（古代）S＝1/200,000 …… 9
図(Fig) 6　基本土層図 ……17
図(Fig) 7　沼山津遺跡調査区配置図　S＝1/800 ……18
図(Fig) 8　２区－３　東壁土層断面図　S＝1/40 ……19
図(Fig) 9　２区－１　東壁及び南壁土層断面図　S＝1/40 ……20
図(Fig)10　２区－３　遺構配置図　S＝1/100 ……22
図(Fig)11　２区－１・２　遺構配置図　S＝1/100 ……23
図(Fig)12　竪穴住居跡（S019）・土坑（S020，S021）実測図　S＝1/40 ……24
図(Fig)13　遺構内出土遺物実測図（1～7）S＝1/2 ……26
図(Fig)14　道路状遺構（S022）実測図　S＝1/40 ……27
図(Fig)15　１区遺構配置図及び土層断面図 S＝1/80 ……28
図(Fig)16　２区－３　遺物分布図（ⅡB層）　S＝1/100 ……30
図(Fig)17　２区－３　遺物分布図（ⅡC層）　S＝1/100 ……31
図(Fig)18　出土遺物実測図
縄文（８：凹線文系土器、９：沈線刺突文系土器、10：磨消縄文系土器、
11～22：黒色磨研土器様式）S＝1/2……34
図(Fig)19　出土遺物実測図（23：弥生後期、24～26：古墳）S＝1/2 ……35
図(Fig)20　出土遺物実測図
古代（27～33：土師器、34,35：黒色土器A、36～47：須恵器）S＝1/2 ……36
図(Fig)21　出土遺物実測図　古代（48：緑釉陶器ー香炉）S＝1/1 ……37
図(Fig)22　出土遺物実測図　中世（49：須恵器、50,51：青磁）
近世以降（52：磁器、53：土人形）S＝1/2……37
図(Fig)23　出土石器実測図（１～６：打製石鏃、７,８：磨製石斧）S＝1/1,1/2 ……38
図(Fig)24　出土石器実測図（９：凹石、10：磨り石、11：石皿）S＝1/2 ……39
図(Fig)25　熊本県下の二彩・三彩・白釉・緑釉出土地 ……43

表　目　次

表(Tab) 1　周辺遺跡一覧表 ⑴ …… 6
表(Tab) 2　周辺遺跡一覧表 ⑵ …… 7
表(Tab) 3　熊本平野周辺遺跡一覧表 ⑴ …… 10
表(Tab) 4　熊本平野周辺遺跡一覧表 ⑵ …… 11
表(Tab) 5　熊本平野周辺遺跡一覧表 ⑶ …… 12
表(Tab) 6　熊本平野周辺遺跡一覧表 ⑷ …… 13
表(Tab) 7　熊本平野周辺遺跡一覧表 ⑸ …… 14
表(Tab) 8　熊本平野周辺遺跡一覧表 ⑹ …… 15
表(Tab) 9　出土遺物の層別個数一覧表 …… 32
表(Tab)10　出土土器観察表 …… 40
表(Tab)11　出土石器観察表 …… 41
表(Tab)12　熊本県下の二彩・三彩・白釉・緑釉出土地一覧表 …… 44
表(Tab)13　ピットのデータ ⑴ (S023～S091) …… 45
表(Tab)14　ピットのデータ ⑵ (S092～S161) …… 46
表(Tab)15　ピットのデータ ⑶ (S162～S231) …… 47
表(Tab)16　ピットのデータ ⑷ (S232～S301) …… 48
表(Tab)17　ピットのデータ ⑸ (S302～S371) …… 49
表(Tab)18　ピットのデータ ⑹ (S372～S413) …… 50

写　真　図　版

写真(PL) 1　遺跡遠景（南西より）
写真(PL) 2　遺跡遠景（南南東より）
写真(PL) 3　出土遺物（48：緑釉陶器－香炉）６面展開写真
写真(PL) 4　２区－３　東壁土層断面（ポイントＡ－Ｂの間）
写真(PL) 5　S019　完掘状況（東より）
写真(PL) 6　１区　完掘状況 …… 57

写真(PL)７　２区－１　完掘状況 ……57
写真(PL)８　２区－２・３　完掘状況 ……57
写真(PL)９　２区－２・３　完掘状況 ……58
写真(PL)10　２区－２・３　完掘状況 ……58
写真(PL)11　２区－２・３　完掘状況 ……58
写真(PL)12　S019、S020　周辺完掘状況 ……59
写真(PL)13　S019　発掘状況 ……59
写真(PL)14　S019　完掘状況 ……59
写真(PL)15　S020　遺物出土状況 ……60
写真(PL)16　２区－３　遺物出土状況 ……60
写真(PL)17　２区－３　遺物出土状況 ……60
写真(PL)18　古墳時代の土師器(26)出土状況（ⅡＣ層） ……61
写真(PL)19　磨製石斧⑻出土状況（ⅡＣ層） ……61
写真(PL)20　凹石⑼出土状況（ⅡＣ層） ……61
写真(PL)21　発掘作業風景 ……62
写真(PL)22　水越小学校体験発掘風景 ……62
写真(PL)23　子供達、先生方と作業員さん方 ……62
写真(PL)24　遺構内出土遺物（１：S019、２：S020、４：S030、５：S157） ……63
写真(PL)25　遺構内出土遺物（３：S020） ……63
写真(PL)26　出土遺物　縄文（７：黒色磨研土器様式、８：凹線文系土器、９：沈線刺突文系土器、
10：磨消縄文系土器） ……64
写真(PL)27　出土遺物　縄文（12～15：黒色磨研土器様式） ……64
写真(PL)28　出土遺物　縄文（５,16～18,21：黒色磨研土器様式） ……65
写真(PL)29　出土遺物　縄文（11,19,20,22：黒色磨研土器様式） ……65
写真(PL)30　出土遺物（23：弥生後期、24～26：古墳時代） ……66
写真(PL)31　出土遺物　古代（27～33：土師器） ……67
写真(PL)32　出土遺物　古代（34,35黒色土器Ａ、41,45～47：須恵器） ……67
写真(PL)33　出土遺物　古代（36,40,42,44：須恵器） ……68
写真(PL)34　出土遺物　中世（49：須恵器、50,51：青磁）近世以降（52：磁器、53：土人形） ……68
写真(PL)35　出土石器（１～６打製石鏃） ……69
写真(PL)36　出土石器（７,８：磨製石斧、９：凹石、10：磨り石、11：石皿） ……69

第Ⅰ章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯

本遺跡の調査は、一般県道小池竜田線緊急地方道路整備事業によるもので、県道の拡幅工事である。第２空港線ができたことにより車の交通量が増えたこと、新設された桜木東小学校の通学路として安全な歩道を確保することがこの事業の大きな目的であった。

事業の実施に先立ち予定地内に埋蔵文化財が存在する可能性が高いことから、試掘調査を実施した。その結果、縄文時代後～晩期から古代の土器片やピット（穴）が発見され、遺跡の存在が確認された。その後、埋蔵文化財の発掘調査が必要な範囲を熊本土木事務所へ連絡し、協議を重ねた上で、調査を行う運びとなった。

第２節　調査の組織

確認調査は平成９年度、発掘調査は平成10年度、報告書作成は平成12年度に行った。

【平成９年度（1997）　確認調査】

調査主体　熊本県教育委員会
調査責任者　豊田貞二（文化課長）
　丸山秀人（教育審議員兼課長補佐）
調査総括　島津義昭（主幹兼調査第２係長）
調査事務局　石原昭宏（課長補佐）
　江尻靖子（総務係長）
　岸本誠司（主　事）
　川口久夫（主　事）
　東　　修（主　事）
調査担当　三木ますみ（学芸員）
　中川裕二（嘱　託）

【平成10年度（1998）　本調査】

調査主体　熊本県教育委員会
調査責任者　豊田貞二（教育審議員兼文化課長）
　川上康治（課長補佐）
調査総括　島津義昭（課長補佐調査第２係担当）
調査事務局　伊津野博（課長補佐）
　小斉久代（総務係長）
　岸本誠司（主　事）
　川口久夫（主　事）
　東　　修（主　事）
調査担当　岡本真也（文化財保護主事）
　安達武敏（嘱　託）
　河津　攝（嘱　託）

【平成12年度（2000）　報告書作成】

調査主体　熊本県教育委員会
調査責任者　阪井大文（文化課長）
　島津義昭（課長補佐）
調査総括　江本　直（主幹兼調査第２係長）
調査事務局　川上康治（課長補佐）
　中村幸宏（主幹兼総務係長）
　廣瀬泰之（参　事）
　上村修治（参　事）
　杉村輝彦（主　事）
調査担当　岡本真也（文化財保護主事）
　岡田基子（嘱　託）

調査指導及び協力者（順不同・敬称略）
高橋照彦（奈良国立博物館）
牛嶋　茂・杉本和樹（奈良国立文化財研究所）
美濃口雅郎・網田龍生・稲津暢洋・松村真紀子（熊本市教育委員会）
花岡興史（文化財環境整備研究所）
豊野町教育委員会
藤木　聡（熊本大学大学院生）
那須利八（県畜産課）
高本隆綱（益城町）

第３節　調査の過程

本調査は平成10年６月１日(月)から８月17日(月)まで行った。

【６月上旬】

調査開始間もなく梅雨入り。約100㎡の調査１区は約１週間で終了。包含層は耕作により撹乱されており、遺物はほとんど発見されなかった。芋穴、区画溝が確認された。約800㎡の調査区２区は、２区－３の北側だけに残されていた包含層を掘り下げる。

４日、奈文研の牛嶋・杉本両氏が井寺古墳撮影のため来熊、偶然立ち寄られ、指導を受ける。

８日、御船町立水越小学校３・４年生３名、教諭２名の計５名体験発掘実施。

11日、九州航空による第１回目の空撮実施。

【６月中旬】

雨天で作業ができない日が続き、なかなか作業がはかどらない。２区－３ではⅡＢ，ⅡＣ層の包含層の掘り下げ、ピットなどの検出を行う。２区－２の包含層は無く、ピットの検出のみを行う。遺物はほとんどない。

15日、１区深掘りトレンチ内でアシボソガラスの幼鳥を発見。御船町の県鳥獣保護センターへ持っていき、そこで保護してもらう。

【６月下旬】

２区－２・３のピットで掘立柱建物などを想定して遺構検出を行う。ピット内埋土の色分け（８種類）を行い、現地と図面上で検証するがうまく並ばない。２区－３の東側に竪穴住居跡らしいプランと土坑を確認し掘り下げる。梅雨の合間の晴れた日は日差しが強く、気温も高い。

25日、作業員さんの１人が気分が悪くなられたので、救急車で近くの病院に搬送してもらう。幸い無事。夏の休憩は適宜多めにとるように心掛ける。

【７月上旬】

調査区の隣にある桜木中学校の２年生女子６名がよく休み時間中に見学に来るようになった。

ピットを半裁して樹痕か否かを判断し、掘立柱建物等の遺構検出を行うが、依然としてうまく並ばない。竪穴住居跡から古代須恵器の坏、土坑から古代土師器の甕が出土。また、竪穴住居跡の中に厚く確認される硬化層は道路跡の可能性が高いことも分かってきた。

９日、熊本市教育委員会の網田・松村・美濃口氏が来跡。出土遺物の中に香炉の一部分と考えられる緑釉陶器１点が含まれていることを教えてもらう。作業スペースが少ないことから２班に分けて交互に作業を行う。梅雨はまだ明けず。

【７月中旬】

ピットを完掘する。完掘した状態で再度、樹痕かピットかの判断を調査員３人で行う。かなりの数をピットとして確認する。しかし、掘立柱建物としてはうまく並ばない。

【７月下旬】

２区－２・３の完掘、清掃完了。

24日、第２回目の空撮実施。２区－１に仮置きしていた排土をダンプで搬出。

【８月上旬】

いよいよ調査も大詰めに入る。２区－１のピットを完掘し、遺構検出を行うが、２区－２・３と同様でうまく検出できず。２区－３の一部（３m×３m）で旧石器をめざして、ローム層以下を掘り下げるが、遺物は確認されず。

熊本市教育委員会の稲津氏来跡。

11日、無事に作業が終了。梅雨はとうとう明けず、異常に暑い夏を乗り切れたのも作業員さん方のお陰である。心から感謝したい。第３回目の空撮実施。

【８月中旬】

２区のコンタラインを入れる作業、図面整理、道具整理などを行い、撤収の準備を進める。

17日、県文化財収蔵庫へ引き上げ、全ての作業を終了する。

第Ⅱ章　位置と環境

第１節　　地理的環境

沼山津遺跡が所在する熊本市桜木４丁目は、緑川の支流である木山川、秋津川の北側の河岸段丘面に位置し、標高約19～20mである。図２の周辺遺跡分布図と図３の地形断面図をみるとその様子が窺える。この段丘面は託麻台地になり、阿蘇の俵山から西側に伸びる丘陵地帯に続いている。土地分類基本調査図（御船）の表層地質図によるとこの遺跡周辺は礫・砂・泥の段丘堆積物（洪積世）となっている。

調査期間中、桜木中学校の体育館（沼山津遺跡の北側に位置する）を建設する際、基礎を打つため深掘りを行ったところ数メートルもある巨石がいくつもあったという情報を入手した。これは、おそらく阿蘇４火砕流の発生（約９万年前）以降、カルデラ湖から水が流れ出た際に生じたと考えられる託麻礫層の可能性が高いと考えられる。付近にはこのような阿蘇中央火口丘から流れ出た火砕流堆積物や古生代、中生代の堆積岩などが基盤層として形成されているものと考えられる。

遺跡周辺の河岸段丘上は肥沃な黒色土が発達しており、昔から畑地としての利用がなされていたと考えられる。このことは調査区から芋穴や区画溝が検出されたことからも窺える。

第２節　歴史的環境

図４・５は熊本平野を中心として緑川流域、白川流域まで広げた縄文時代後～晩期と古代の遺跡分布図である。この分布図は熊本県遺跡地図を参考にして作成したが、各市町村の遺跡地図や市町村史がある場合はその情報を優先的に活用した。時代がはっきりしない遺跡もあり、例えば弥生～中世という時代区分の場合、古代も含まれるものとして考えた。

ここでは図２を中心に沼山津遺跡周辺の各時代の歴史的環境を概観してみたい。

【旧石器時代】（～約13,000年前）

現在、熊本県下には300を越える旧石器時代の遺跡が確認されている。その中でも白川を中心とする阿蘇外輪山一帯や球磨川上流域を中心とする球磨盆地一帯など集中して発見されている地域がある。

近年の発掘調査で遺跡の数も増加しているが、託麻台地でもその例外ではなく、平成10年度に開催された「くまもと未来国体」主会場であった熊本市平山町の石の本遺跡からは、県内最古である約３万年前（後期旧石器時代初頭）の石器群（局部磨製石斧、台形様石器など）が発見された。また沼山津遺跡周辺では、熊本市戸島町葉山の葉山遺跡群（図２の51）が旧石器時代の包蔵地（詳細は不明）となっている他、梨木遺跡（図２の86）では縄文時代の包含層よりナイフ形石器が２点出土している。

【縄文時代】（約13,000年前～2,300年前）

熊本平野周辺の縄文時代の遺跡は多く、特に後期（約4,000年前～3,000年前）～晩期（約3,000年前～2,300年前）にかけての遺跡は託麻台地に集中して存在する。これらの遺跡は磨消縄文土器様式・黒色磨研土器様式の時期であり、土偶・埋甕といった熊本の縄文文化を特徴づける各種の遺構・遺物を伴うことが多い。また、集落遺跡・貝塚・遺物包含層ともこの時期に該当する遺跡が最も多い。熊本市鳥井原遺跡、北久根遺跡、太郎迫遺跡や益城町古閑遺跡（図２の91）などの標識遺跡も存在する。

縄文時代早期（約10,000年前～6,000年前）の遺跡は主に丘陵よりやや標高の高い、山麓で多く検出されており、県内で最初の住居跡の報告となった熊本市庵ノ前遺跡、大型配石遺構や炉穴を検出した菊池郡大津町瀬田裏遺跡などが有名である。

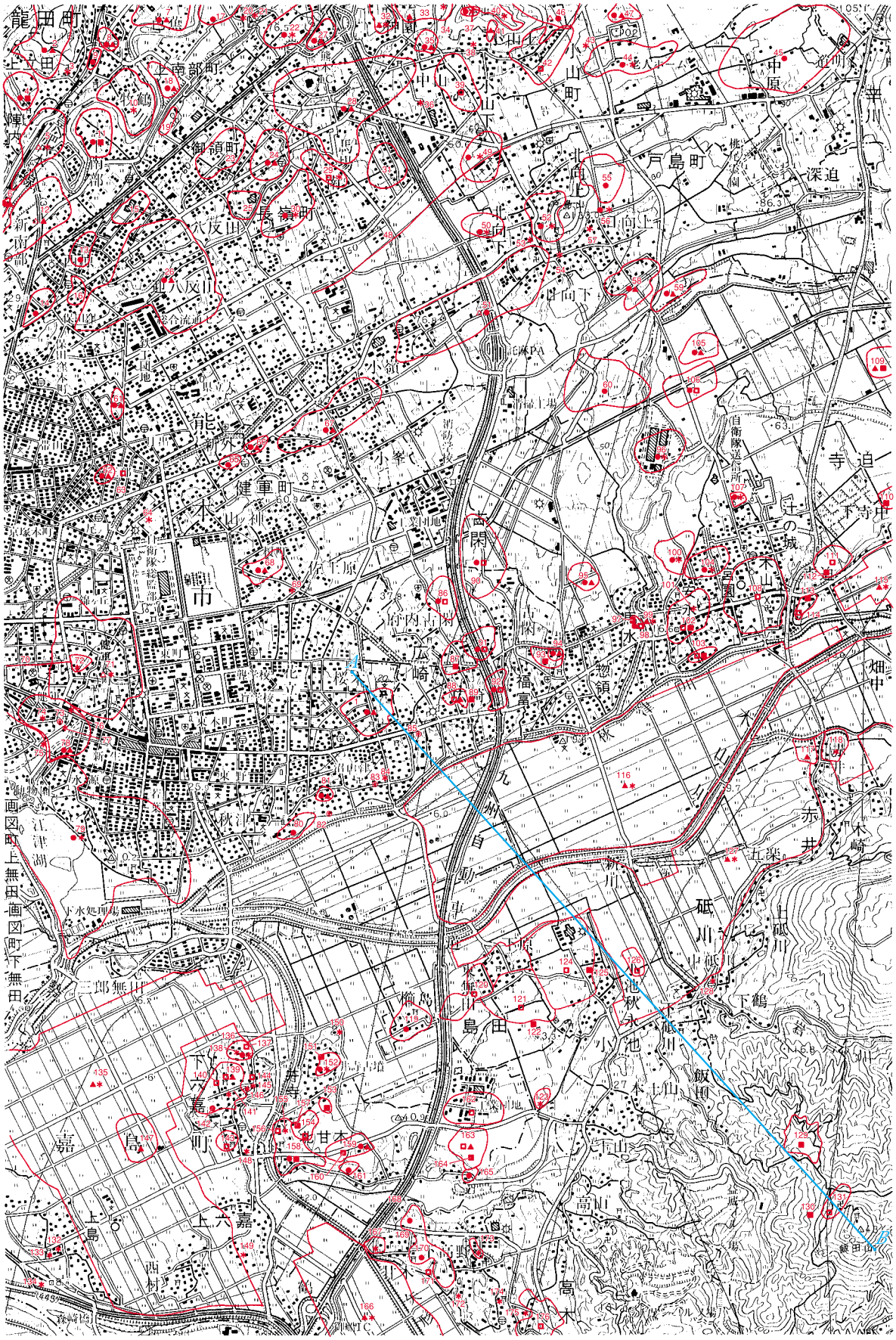
近くの古閑北遺跡（図２の90）からは縄文時代草創期（約13,000年前～10,000年前）の有舌尖頭器１点が出土している。

【弥生時代】（約2,300年前～1,700年前）

沼山津遺跡周辺の弥生時代の遺跡で特筆すべき遺跡を取り上げてみると、八反田遺跡（図２の126）では出土した甕棺に弥生前期の板付式土器と縄文的色彩が強い夜臼式土器が使用されていることや秋永遺跡（図２の124）では弥生時代中期の甕棺墓、環濠集落の一部と思われる断面Ｖ字形の溝、後期の水田遺構などが検出されていることである。

【古墳時代】（約1,700年前～1,400年前）

沼山津遺跡周辺には畿内政権と強い関わりのある人物の墳墓と考えられる前方後円墳は存在しないが



△旧石器時代　●縄文時代　□弥生時代　■古墳時代　▲古代　＊中世　◉近世
【記号は時代幅を表示［例：●▲縄文～古代、●・▲縄文・古代］】

図(Fig)２　沼山津遺跡周辺遺跡分布図　S=1/50,000

在地の大小の支配者階層の人々の墳墓がみられる。

前期から中期にかけての墳墓としては、安山岩製板石で造られた箱式石棺が周辺の河岸段丘上に見られる。円墳である城ノ本古墳（図２の113)、方形周溝墓がある秋永遺跡（図２の124）があげられる。

中期後半には直弧文で有名な石障系の装飾古墳である井寺古墳（円墳・横穴式石室）(図２の151）が造られた。

後期になると鬼塚古墳（図２の122)、遠見塚古墳(図２の110）などの円墳で横穴式石室の古墳のほか、阿蘇溶結凝灰岩のある崖面には横穴墓が造られるようになる。

【歴史時代】（約1,400年前～　）

古代は、律令体制の導入に伴い、肥後国においても行政組織の整備、条里の施行が進められ、その影響が周囲に及んでくる。

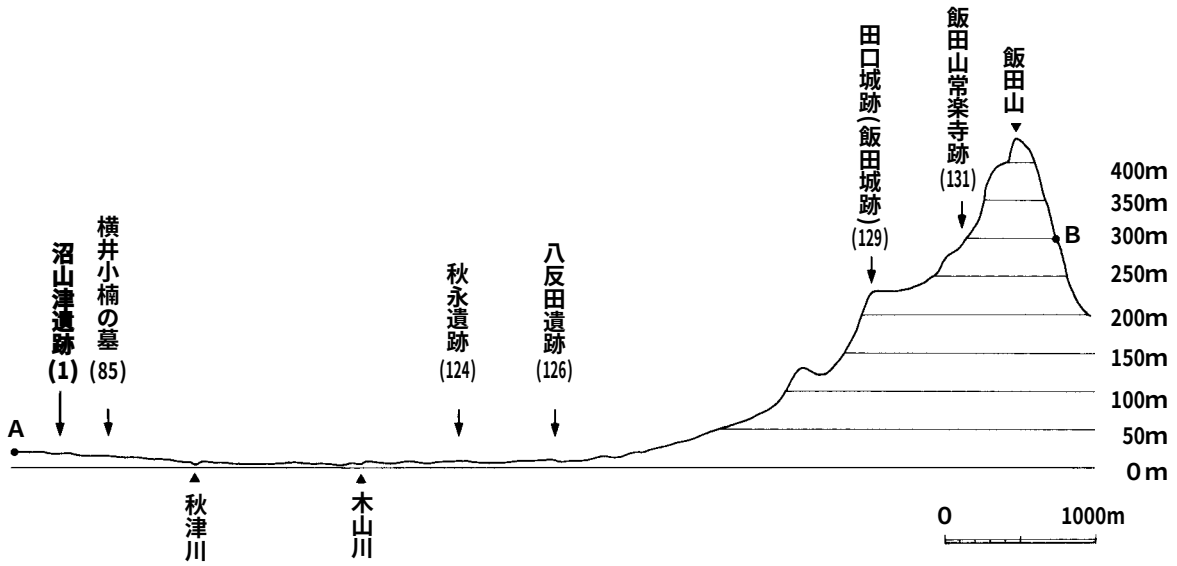
肥後の国府は一般的には、奈良期の託麻国府（現熊本市国府２丁目～４丁目及び国府本町）から９世紀中頃に託麻国府（現熊本市二本木２丁目）へ移ったとされているが、託麻国府に先立ち益城国府が天平年間（729～749年）以前に現城南町周辺に存在したとする説がある。

沼山津遺跡周辺は益城郡と託麻郡の境界付近に位置すると考えられ、益城郡に属する場合、「和名抄」にある小按郷として、託麻郡に属する場合は津森に比定される可能性が高いと考えられる。

図２を見ると当該期の遺跡の広がりは託麻台地を中心として各地に点在している様子が窺える。

中世には、沼山津遺跡周辺は木山郷に属していた。付近の中世城跡には赤井城、砥川城や田口平城（飯田城）(図２の129）などがある。

近世になり肥後藩は寛永９（1632）年に加藤氏の移封に伴い細川氏の支配になった。惣庄屋を長とした行政区画である手永制が設けられ、沼山津遺跡周辺は上益城郡沼山津手永に属した。このころから台地上の開拓が行われるようになった。



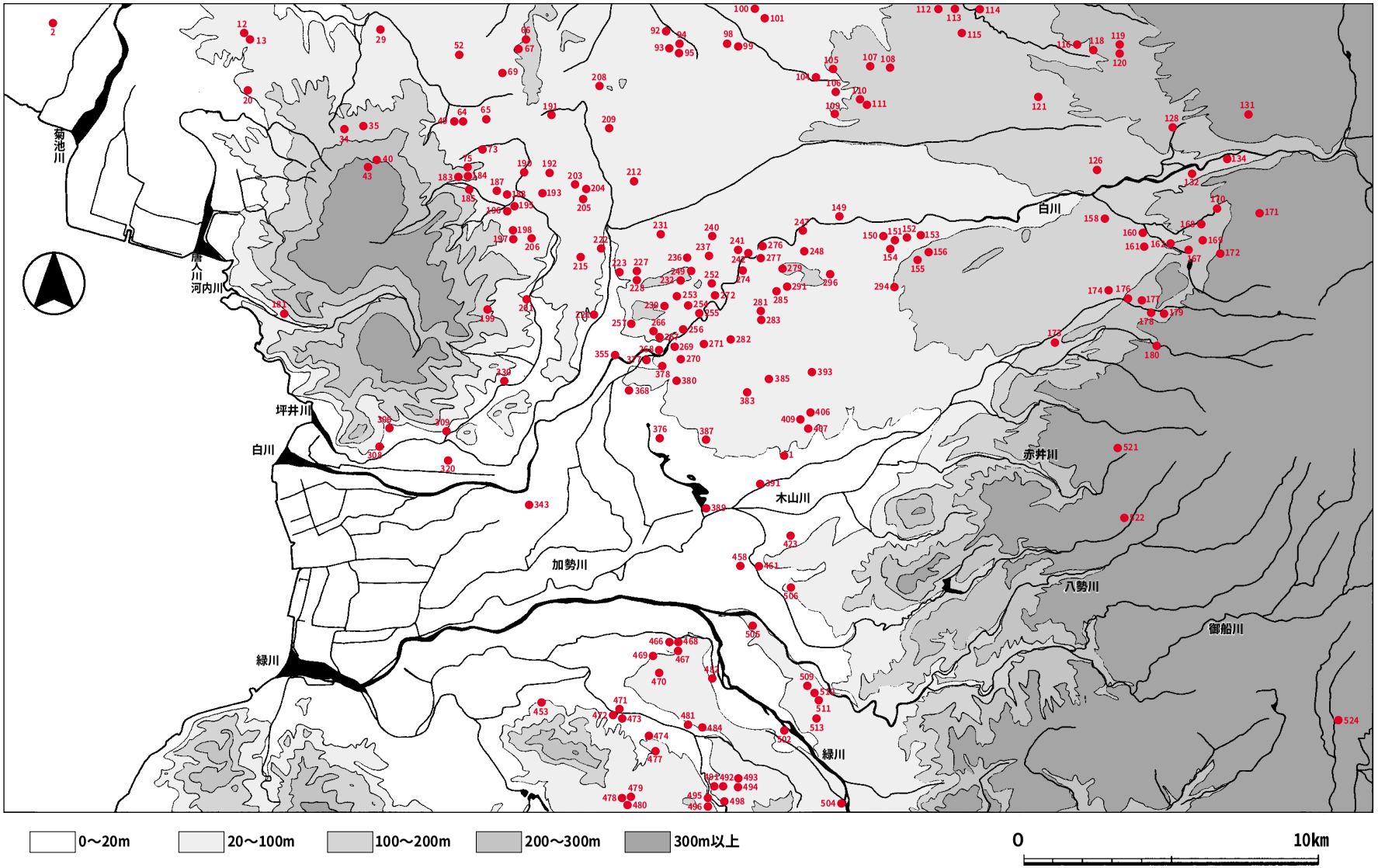
図(Fig)３　地形断面図　S=1/50,000

遺跡番号	遺　跡　名	所　在　地	時　代	種別	備　　考
1	沼山津	秋津	弥生～平安	包蔵地	
2	迫ノ上遺跡群	龍田町陣内・上立田ほか	縄文～平安	包蔵地	堂の前窯跡は平安期か？
3	伝龍田将監墓・古塔碑群	龍田町上立田	中世	石造物	五輪塔
4	陣内上の園遺跡群	龍田町上立田	縄文～古墳	包蔵地	御手洗Ａ式、押型文、須玖式甕棺、方形周溝墓
5	竜田陣内遺跡群	龍田町陣内	旧石器～中世	包蔵地	曽畑式、三万田・御領式、黒川・山の寺式,県報告あり
6	竜田口	龍田町、黒髪７丁目	縄文～平安	包蔵地	
7	竹ノ後・芭蕉遺跡群	龍田町上立田竹ノ後	縄文～平安	包蔵地	縄文後期(御領式)、合口甕棺、土偶
8	堂前畑	龍田町	縄文～平安	包蔵地	
9	三の宮（牧鶴宮脇）	龍田町上立田	縄文	包蔵地	
10	牧鶴遺跡群	龍田町上立田	古墳	包蔵地	
11	下南部	下南部町下山	縄文～古墳	包蔵地	須玖式甕棺
12	新南部遺跡群	新南部町	旧石器～平安	包蔵地	北久根山式、御領式、田辺昭三調査
13	市営託麻団地	新南部託麻団地	縄文	包蔵地	押型文、御領式
14	西原	新南部	縄文	包蔵地	押型文、御領式
15	松の窪	西原		包蔵地	
16	南原	西原		包蔵地	
17	上南部	上南部町村下	縄文	包蔵地	縄文前期,後晩(北久根山・鳥井原・御領・黒川・山ノ寺)集落発掘調査、市報告書
18	王田	上南部町王田	縄文～平安	包蔵地	黒髪式合口甕棺
19	平の山	上南部町		包蔵地	縄文前期、後期、晩期集落発掘調査
20	乙姫宮	上南部町	中世	寺　社	
21	上南部板碑	上南部町	中世	石造物	元亀２年供養
22	供合松ノ上	上南部町	縄文～中世	包蔵地	
23	北小迫	御領町	縄文･奈良･平安	包蔵地	
24	南小迫	御領町	縄文～平安	包蔵地	
25	八反田居屋敷	長嶺町		包蔵地	
26	乾原・迎八反田	長嶺町乾原・迎八反田	縄文～平安	包蔵地	乾原縄文後晩期中心、迎八反田縄文早期中心
27	神園	長嶺町上西原	縄文～平安	包蔵地	
28	長嶺遺跡群	長嶺町	縄文～平安	包蔵地	石陣碑天文18年銘
29	長嶺南	長嶺町南居屋敷	弥生～中世	包蔵地	須玖式甕棺、寛文・延宝・元禄・正徳の記念碑銘
30	八反田遺跡群	長嶺町八反田	縄文・中世	包蔵地	縄文後晩期、土偶
31	長嶺油出	長嶺町		包蔵地	
32	神園田淵屋敷	長嶺町、小山町	平安・中世	包蔵地	
33	神園山遺跡群	長嶺町、小山町	奈良・平安	包蔵地	
34	正平塔（石灯籠）	小山町	中世	石造物	諏訪神社、正平12年銘、擬灰岩製、石工藤原助次
35	中山	小山町	縄文～平安	包蔵地	早中期、南福寺・黒川・山ノ寺式
36	中山畜犬管理所五輪塔	小山町	中世	石造物	
37	小山上の山	小山町	縄文～中世	包蔵地	
38	楳国寺境内古塔碑群	小山町	中世	石造物	宝篋印塔、一字一石、五輪塔
39	小山山伏塚	小山町	弥生	墳　墓	甕棺墓、銅剣出土
40	小山城跡	小山町	中世	城	
41	楳国寺瓦窯跡群	小山町	奈良・平安	生　産	
42	小山上	小山町	弥生	包蔵地	
43	御船塚墓地群	小山町	中世	墓　地	
44	御船塚	小山町御船塚	縄文・中世	包蔵地	
45	中原道明	小山町	縄文	包蔵地	縄文早期、後晩期
46	平山石ノ本	平山町	旧石器～縄文	集　落	国体会場、県調査報告書あり
47	御船塚山	平山町	縄文～古代	包蔵地	
48	南郷住環跡	戸島町、長嶺町	近世	交　通	
49	上黒迫	戸島町	縄文・中世	包蔵地	二岡中学校校庭
50	戸島京塚	戸島町	縄文～中世	包蔵地	
51	葉山遺跡群	戸島町葉山	旧石器・縄文	包蔵地	
52	戸島北向（戸島西）	戸島町	縄文・中世	包蔵地	
53	北向下の五輪塔	戸島町	中世	石造物	農家の庭先、近くに寺院か
54	戸島神社入口古塔碑群	戸島町	中世	石造物	宝篋印塔、五輪塔
55	戸島東	戸島町日向	縄文	包蔵地	
56	戸島経塚跡	戸島町日向	縄文・中世	包蔵地	経塚一字一石埋納
57	円通寺跡	戸島町	中世	寺　社	地蔵堂、観音堂、塔碑
58	戸島桑鶴	戸島町	縄文～平安	包蔵地	
59	下佐土原	戸島町	縄文～平安	包蔵地	
60	日向桟敷尾	戸島町日向	縄文	包蔵地	
61	保田窪東一本松		縄文～平安	包蔵地	
62	三郎塚	健軍町	縄文～平安	包蔵地	
63	三郎塚古墳	健軍町三郎	古墳	古　墳	
64	蒙古宝印塔	健軍町	中世	石造物	元は天福寺境内にあった
65	新外Ａ	健軍町小峰	縄文	包蔵地	御領式
66	新外Ｂ	健軍町小峰	縄文～平安	包蔵地	
67	小峰	健軍町小峰	縄文～平安	包蔵地	
68	佐土原	健軍町佐土原	縄文～平安	包蔵地	
69	佐土原芥川板碑	健軍町佐土原	中世	石造物	線刻観音板碑
70	健軍神社杉馬場	健軍２丁目ほか	江戸	参　道	市指定史跡
71	健軍神社周辺遺跡群	健軍２丁目	旧石器～中世	包蔵地	縄文後期炭化米出土、北久根山・鳥井原・御領式、市報告書あり
72	健軍神社境内	健軍本町	中世	寺　社	市指定史跡
73	真宗寺入口地蔵	健軍４丁目	江戸	石造物	寛永４年
74	妙見の芥川板碑	健軍４丁目	中世	石造物	
75	健軍の一字一石塔	健軍４丁目	中世	石造物	安永９年
76	ミョウケンジ屋敷板碑	健軍４丁目	中世	石造物	阿弥陀、天正14年
77	真宗寺板碑	健軍町４丁目	中世	石造物	天文14年
78	江津湖東岸	健軍４丁目、新生１丁目	縄文～平安	包蔵地	
79	江津湖遺跡群	神水町、画図町ほか	縄文～中世	包蔵地	早前中期、太郎迫・三万田・鳥居原・黒川・山ノ寺式
80	沼山津貝塚	秋津町３丁目沼山津	縄文	貝　塚	縄文中期、南福寺・御手洗Ａ・鐘ヶ崎・北玖根式
81	下津代里	秋津町	縄文～平安	包蔵地	
82	四時軒及び四時軒跡	秋津町沼山津	江戸	建造物	市指定建造物及び史跡
83	沼山津会所跡	秋津町	江戸	包蔵地	
84	沼山津板碑群	秋津町	中世	石造物	天文９年、永禄11年
85	横井小楠の墓	秋津町沼山津	明治	墓	明治２年
86	梨木	広崎　梨木	縄文～弥生	包蔵地	出水・御手洗・市木・北久根山・鐘ヶ崎式
87	広崎六本木	広崎　六本木	古墳	包蔵地	
88	葉山	広崎　葉山・西原	弥生～古代	包蔵地	
89	葉山古墳	広崎　葉山	古墳	古　墳	稲荷さん
90	古閑北	古閑　崎久保・横道	縄文～弥生	包蔵地	出水・御手洗・北久根山式
91	古閑	古閑　宅地	縄文・弥生	包蔵地	縄文・弥生・土師器外の遺物包含
92	福富	古閑　石井川ほか	弥生	包蔵地	縄文・弥生・土師器外の遺物包含、瓦片
93	高木箱式石棺群	惣領　高木	古墳	埋　葬	石棺多数
94	惣領	惣領　高木	縄文～古代	包蔵地	
95	大辻	馬水　大辻	縄文～平安	包蔵地	

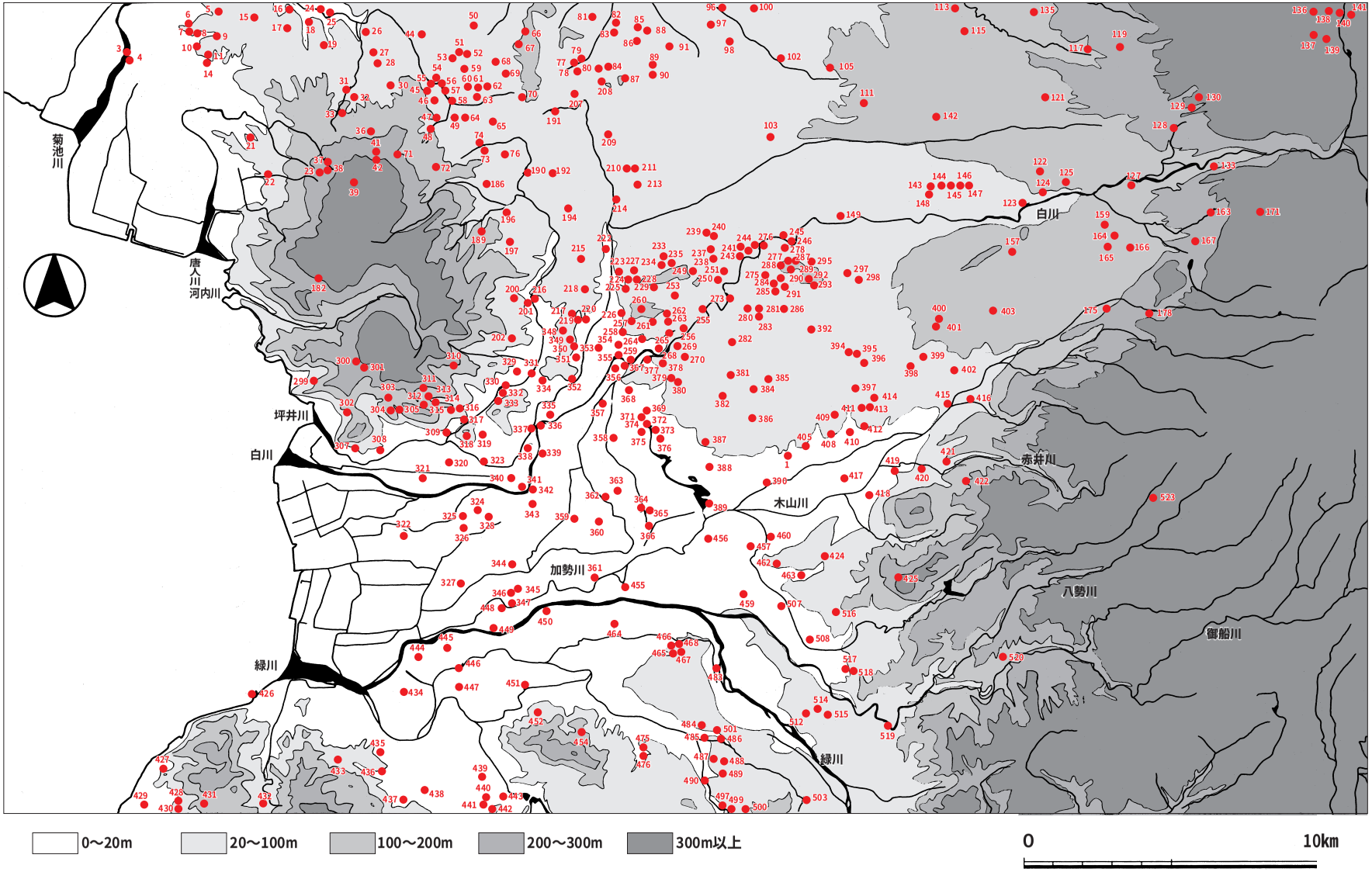
表(Tab)１　周辺遺跡一覧表（1）

遺跡番号	遺　跡　名	所　在　地	時　代	種別	備　　考
96	小久保	上小久保　下小久保	縄文～中世	包蔵地	
97	弧塚古墳	馬水　駿河原	古墳	古　墳	埴輪片、須恵器
98	駿河原	馬水　駿河原	縄文・弥生	包蔵地	
99	馬水製鉄所跡	馬水　駿河原	古代・中世	生　産	ふいご羽口・鉱滓・青磁・土師器
100	宗曽利	安永　宗曽利	縄文～中世	包蔵地	
101	火迫石棺群	安永	古墳	埋　葬	
102	安永	安永	弥生～古代	包蔵地	
103	古川	安永　古川	弥生・古墳	集　落	
104	辻	宮原　辻	縄文～中世	包蔵地	
105	遠見塚	木山　遠見塚	縄文～古代	包蔵地	
106	宮園Ｂ	木山　遠見塚ほか	縄文・弥生	包蔵地	縄文～弥生中期土器
107	下辻	木山　下辻	縄文～中世	包蔵地	
108	宮園Ａ	木山　遠見塚ほか	弥生	包蔵地	弥生中期土器
109	八久保	八久保	古墳・古代	包蔵地	
110	遠見塚古墳	寺迫　遠見塚	古墳	古　墳	円墳、箱式石棺
111	上ノ原	寺迫　上ノ原	弥生	埋　葬	弥生甕棺
112	上ノ原箱式石棺	寺迫　上ノ原	古墳	埋　葬	
113	城ノ本古墳	寺迫　城ノ本	古墳	古　墳	円墳、箱式石棺(移転)、出土品町指定
114	木山城跡	寺迫　城ノ本	弥生	城	下部に弥生後期、住居跡群
115	条里跡		古代・中世	生　産	
116	条里跡		古代・中世	生　産	
116	赤井	赤井　登町	古代	包蔵地	土師器
118	赤井城跡	赤井　本丸	中世	城	「本丸」の地名あり
119	櫛島	島田　南島	縄文	包蔵地	縄文土器
120	立石	島田　立石	弥生	包蔵地	弥生土器
121	東無田	島田　東無田居敷	弥生	包蔵地	弥生中期土器・甕棺
122	鬼塚古墳	小池　鬼塚	古墳	古　墳	
123	塔平	小池　塔平	縄文～中世	包蔵地	
124	秋永	小池　秋永ほか	弥生	集　落	弥生中・後期、土師器
125	秋永石棺群	小池　秋永・麻生原	古墳	古　墳	
126	八反田	砥川　八反田	弥生	埋　葬	弥生中期甕棺
127	条里跡		古代・中世	生　産	
128	砥川城跡	砥川　城尾	中世	城	(城の尾城跡)
129	田口平城跡（飯田城跡)	砥川　樋口・大人足	中世	城	
130	飯田古墳	砥川　飯田・常楽寺	古墳	古　墳	
131	飯田山常楽寺跡	砥川　飯田・常楽寺	古代・中世	寺　社	古塔碑散乱
132	平等寺跡	上島	中世	寺　社	
133	心暁院法印良研塔	上島　上島神社境内	中世	石造物	
134	森崎原古戦場	上島～上仲間	中世	軍　事	
135	矢形川流域条里跡	下六嘉　上島・鯰ほか	古代・中世	生　産	
136	西光寺	下六嘉　西光寺	縄文～中世	包蔵地	
137	西光寺甕棺群	下六嘉　西光寺	弥生	埋　葬	
138	下六嘉の五輪塔	下六嘉	中世	石造物	
139	下六嘉遺跡群	下六嘉	弥生～古代	包蔵地	
140	宮の本甕棺群	下六嘉　宮の本ほか	弥生	埋　葬	弥生甕棺・石包丁・箱式甕棺
141	六嘉神社の五重塔	下六嘉　宮の本	中世	石造物	
142	カキワラ貝塚	下六嘉　カキワラ	縄文	貝　塚	縄文前期の土器
143	カキワラ	下六嘉　カキワラ	弥生	埋　葬	弥生甕棺
144	内屋敷	下六嘉　西光寺	弥生	埋　葬	
145	護宿陣の墓（菊池武光)	下六嘉　西光寺	中世	墓	
146	道上城跡	下六嘉　泉上	中世	城	
147	益城郡家推定地	上六嘉　益城	古代	包蔵地	
148	西林寺跡	上六嘉　中郡	中世	寺　社	
149	竜福寺跡	上六嘉　竜福寺	中世	寺　社	
150	手水鉢	特　浮島	中世	石造物	
151	井寺古墳	井寺　富屋敷	古墳	古　墳	横穴式石室墳、幾何文様あり、直刀
151	井寺	井寺　富屋敷	縄文～中世	包蔵地	
153	上官塚古墳群	井寺　上官塚	古墳	古　墳	
154	上官塚	井寺　上官塚	弥生	埋　葬	弥生甕棺
155	遠見塚の塔	井寺　遠見塚	古墳・中世	石造物	
156	剣原甕棺群	北甘木　剣原	弥生	埋　葬	
157	剣原古墳	北甘木　剣原	古墳	古　墳	
158	石塚	北甘木　石塚ほか	縄文・弥生	埋　葬	縄文後・晩期土器、弥生甕棺
159	塔ノ木	北甘木　塔ノ木　豆板	縄文～古代	包蔵地	
160	御前塚古墳	北甘木　塔ノ木	古墳	古　墳	
161	小迫	井寺　小迫	縄文	包蔵地	縄文前期土器
162	大羅	上六嘉	弥生	包蔵地	
163	二子塚	北甘木　二子塚ほか	弥生・古代	包蔵地	環合集落
164	二子塚古墳	北甘木　二子塚ほか	古墳	古　墳	
165	下古閑	下古閑	縄文	包蔵地	縄文土器、土師器
166	条里跡		中世	生　産	
167	甘木城跡	甘木　北屋敷	中世	城	中世城跡
168	甘木貝塚	甘木	縄文	貝　塚	縄文遺物包含
169	甘木地蔵堂の板碑	高木　甘木	中世	石造物	阿弥陀来迎像
170	甘木	甘木	縄文	包蔵地	縄文中後期土器、土師器、須恵器
171	天神原	高木　吹上	弥生	包蔵地	弥生、土師器、須恵器
172	安養寺跡	高木　(通称下高野)	中世	寺　社	
173	つづの山	高木　(通称下高野)	中世	経　塚	
174	菅原神社板碑	下高野	中世	石造物	線刻弥陀三尊、永正17年大永追刻あり
175	年尾神社の板碑	高木　甘木	中世	石造物	阿弥陀三尊
176	高野原	高木　吹上	弥生	包蔵地	弥生、土師器、須恵器

表(Tab) 2　周辺遺跡一覧表 ⑵



図(Fig)４　熊本平野周辺遺跡分布図（縄文後～晩期）　S=1/200,000



図(Fig) 5　熊本平野周辺遺跡分布図（古代）　S=1/200,000

遺跡番号	遺　跡　名	所　在　地	時　代	種別	備　　考
1	沼山津	熊本市秋津	縄文～平安	包蔵地	
2	中土西	岱明町中土西分・大跡	縄文	包蔵地	御領式中心
3	大浜河床	玉名市大浜上屋敷	弥生～中世	包蔵地	石剣出土地
4	新町	大浜新町	古代・中世	包蔵地	
5	立山	大倉	弥生～中世	包蔵地	弥生後期、土師器等散布
6	城が崎	伊倉北方五社	弥生～中世	包蔵地	町北端舌状台地上、広範に弥生中期遺物を含む
7	中北A	伊倉北方	弥生～中世	埋　葬	小児合口式４墓出土、１期鉄斧、外副葬品
8	中北	伊倉北方五社	縄文～中世	包蔵地	
9	本村	伊倉北方本村	縄文～中世	包蔵地	
10	桜井川製鉄跡	伊倉北方西屋敷	古代・中世	生　産	鉱滓散布
11	鍛冶屋町	伊倉北方西屋敷	縄文・平安	貝　塚	貝塚散布地、鉱滓多く散布
12	伊倉宮の後	伊倉北方宮の後	縄文	包蔵地	縄文、阿高式・御領式土器、石斧、石鏃
13	伊倉八幡宮境内	宮原北方ほか	縄文	包蔵地	縄文土器、阿高式・御領式を多く含む
14	片諏訪貝塚	片諏訪屋敷	縄文～鎌倉	貝　塚	
15	一本松	田崎一本松ほか	弥生～中世	包蔵地	甕棺群あり
16	田崎	田崎天神原・辻	古墳～中世	包蔵地	台地畑、土師器・須恵器片少量散布
17	青野火葬墓跡	青野天神原・辻	古代	包蔵地	八弁花文瓦器蓋付深鉢（火葬骨入）、蓋付碗
18	古閑	中坂門田古閑	古墳～中世	包蔵地	須恵器・土師器片
19	開野内原	中坂門田開野ほか	古墳～中世	包蔵地	須恵器・土師器
20	野辺田東	天水町野辺田平	縄文	包蔵地	縄文末期、御領式
21	米ノ山	立花米ノ山	縄文～中世	包蔵地	
22	立花貝塚	立花本村屋敷	古墳～中世	貝　塚	中世瓦器・土師器・須恵器他
23	かなくそ谷製鉄跡	小天小平	古代・中世	生　産	完形炉１基
24	稲佐廃寺跡	玉東町稲佐切畑	古代	寺　社	塔礎石・金堂基壇の一部、布目瓦多量
25	町下	木葉町下	古代・中世	包蔵地	青磁・土師器・須恵器・瓦器破片
26	陣林	二俣陣林	縄文～古代	包蔵地	
27	堂の元	二俣堂の元	縄文～古代	包蔵地	
28	京塚	二俣京塚	縄文～古代	包蔵地	
29	辻	二俣辻	縄文後晩期	包蔵地	
30	久満坊埋蔵銭出土地	西安寺吉丸	古代・中世	包蔵地	中国唐～明479個
31	太朗丸権現山	上白木太朗丸	古代	生　産	スラッグ・ふいごの羽口
32	西原製鉄跡	原倉西原	古代	生　産	鉱滓・焼灰あり
33	清田原製鉄	原倉清田原	古代・中世	生　産	
34	立岩石器製作	原倉立岩屋敷	縄文	生　産	石斧・剥片多数
35	東山西	原倉荒平	縄文～弥生	包蔵地	縄文後晩期御領式、弥生
36	菖蒲谷製鉄所跡	原倉荒平	古代	生　産	
37	釜の口製鉄跡	原倉山口原	古代・中世	生　産	鉱滓多量散布、ふいごの羽口、焼土
38	金糞谷製鉄跡	原倉藤原	古代・中世	生　産	
39	馬伏製鉄	原倉馬伏	古代	生　産	
40	東山	原倉荒強当	縄文	包蔵地	縄文後晩期の土器・石器包含
41	むくろかじ製鉄跡	原倉荒強当	古代	生　産	鉱滓・羽口多量
42	むくろかじ墓群	原倉荒強当	古代	墳　墓	山林中にいくつもの小墳丘点在
43	大谷石器製作	原倉大谷	縄文	生　産	安山岩石器多量出土
44	舟底	植木町豊岡船底	古代・中世	包蔵地	
45	那知１号洞穴	那知夫婦木	弥生～古代	包蔵地	
46	那知２号洞穴	那知本村	弥生～古代	包蔵地	
47	生野原	円台寺生野原	縄文・平安	包蔵地	縄文早期、平安須恵器
48	円台寺	円台寺本村	縄文～中世	包蔵地	平安土師器・須恵器
49	河原立	円台寺河原立	縄文～中世	包蔵地	縄文後期、弥生前期甕棺、抉人石斧、平安須恵器
50	富応廃寺跡	富応谷浦	古代	寺　社	礎石群
51	外土井	富応外土井	縄文・平安	包蔵地	縄文早期
52	富応久保	富応久保	縄文～中世	包蔵地	縄文早後期、甕棺、平安土師器・須恵器
53	沖野	轟沖野	縄文～古代	包蔵地	平安須恵器
54	埋原	轟埋原屋敷	縄文～中世	包蔵地	平安須恵器
55	埋原１号洞穴	轟埋原屋敷	弥生～古代	包蔵地	
56	埋原2号洞穴	轟埋原屋敷	弥生～古代	包蔵地	
57	埋原3号洞穴	轟埋原屋敷	弥生～古代	包蔵地	
58	辻畑	轟辻畑	縄文･平安･中世	包蔵地	平安土師器・須恵器
59	塔ノ本	轟乗尾・塔ノ本	旧石器～中世	包蔵地	支石墓、甕棺群、土壙墓、越州窯青磁水注
60	轟今古閑	轟今古閑・久保	弥生･古墳･平安	集落跡	平安土師器・須恵器
61	轟	轟今古閑	弥生･古墳･平安	集落跡	銅鉾４本、鉄斧１本、平安土師器
62	滴水館	滴水東屋敷・原口	縄文～中世	包蔵地	
63	滴水西原	滴水西原	縄文～平安	包蔵地	甕棺、平安須恵器
64	ヲスギ	滴水ヲスギほか	縄文～中世	集落跡	縄文晩期、弥生後期の集落跡・墓地
65	荻迫	荻迫表畑・萩原ほか	縄文～中世	集落跡	縄文後期土器片、石鏃、石斧、弥生後期の集落跡、平安土師器・須恵器
66	前畑	山本一木	縄文～中世	包蔵地	縄文後晩期、平安須恵器
67	鞍掛辻畑	鞍掛古閑屋敷・辻畑	縄文～中世	包蔵地	縄文後期、平安須恵器
68	諏訪原	鞍掛諏訪原	縄文～古代	包蔵地	平安土師器・須恵器
69	舞尾西原	舞尾西原・前畑	縄文･弥生･平安	包蔵地	縄文後期、弥生後晩期、平安須恵器
70	町裏	植木町３丁目	弥生・平安	包蔵地	甕棺、平安土師器・須恵器
71	葛山製鉄跡	木留葛山	古代・中世	生　産	
72	笹尾山	木留笹尾	縄文･弥生･平安	包蔵地	集落跡、縄文早期土器･石斧･石棒、合口大形甕棺、平安土師器･須恵器
73	笹尾	木留笹尾	縄文・古代	包蔵地	縄文早期後晩期土器・石器、平安土師器
74	木留	木留北中原	縄文～古代	包蔵地	
75	山海道	辺田野山海道	縄文	包蔵地	縄文後晩期土器
76	服佛長	鐙田服佛長	縄文･古代･中世	包蔵地	瓦器、平安土師器ほか
77	石樋	広住向原・浦田	古墳・古代	包蔵地	平安土師器壺
78	東平	広住向原ほか	縄文～中世	包蔵地	平安土師器・須恵器
79	烏帽子	小野烏帽子	奈良・平安	包蔵地	奈良・平安土師器
80	山後	小野小道	弥生～中世	集落跡	断面に竪穴住居跡（カマド付）、平安土師器・須恵器
81	小畑	有泉小畑	縄文～中世	包蔵地	甕棺群、平安須恵器
82	白石	有泉白石	弥生～古代	包蔵地	弥生前中期、大規模甕棺群、平安土師器・須恵器
83	石川	石川小迫	弥生～古代	集落跡	大集落跡、平安須恵器
84	石川二塚	石川柳迫	弥生～古代	包蔵地	平安土師器・須恵器
85	アミダメ	西合志町野乃島古閑・前田	縄文～古代	包蔵地	
86	延寿寺	野乃島古閑	縄文～古代	包蔵地	
87	弁天山磐座	野乃島野乃島	古代	祭　祀	
88	巡畑	野乃島巡畑	縄文～古代	包蔵地	
89	花園	野乃島花園	弥生～古代	包蔵地	
90	駄飼場	野乃島駄飼場	古代	包蔵地	
91	八反畑	野乃島八反畑	弥生・古代	包蔵地	弥生土器、中央小校庭、奈良・平安
92	沖田	野乃島沖田	縄文・他	包蔵地	丸木船、石器、御領式、野辺田式、土師器
93	二子山石器製作	野乃島天神免	縄文	包蔵地	石器各種・原石
94	枇杷田	野乃島中原・枇杷田	縄文	包蔵地	縄文早期、御領式
95	西合志中学校敷地	野乃島東原	縄文・古墳	包蔵地	御領式土器、古式勾玉、野辺田式、須恵器

表(Tab)３　熊本平野周辺遺跡一覧表（1）

遺跡番号	遺　跡　名	所　在　地	時　代	種別	備　　考
96	八反田	西合志町合生八反田	弥生・古代	埋　葬	甕棺・壺・坩・石斧、奈良・平安
97	合志群家跡推定地	合生玉連寺	古代	包蔵地	
98	小合志原	合生辻久保・小合志原	縄文・平安	包蔵地	縄文後期、平安土師器
99	辻久保	合生辻久保	縄文	包蔵地	縄文後期
100	高木原	合生高木	縄文～奈良	包蔵地	縄文後期・奈良時代出土品多量
101	中林	合志町栄	縄文	包蔵地	御領式土器
102	千経塚	上庄千経塚	弥生・他	包蔵地	弥生、土師器・須恵器他
103	郡山	豊岡	古代・中世	包蔵地	臓骨器
104	小園	豊岡小園	縄文～弥生	包蔵地	御領式、石器、弥生土器
105	御手洗	遠久富御手洗	縄文・他	包蔵地	縄文後期・御手洗式、土師器
106	野付	福原野付	縄文他	包蔵地	押型文、黒髪式甕棺
107	八久保	竹迫	縄文	包蔵地	阿高式・御領式
108	竹迫宇土	竹迫宇土	縄文	包蔵地	三万田式
109	御領	竹迫福原	縄文・他	包蔵地	土偶、御領式
110	桑鶴	竹迫福原	縄文・弥生	包蔵地	御領・三万田式土器
111	轟	豊岡・福原	縄文･弥生･古代	包蔵地	黒髪式
112	ワクド石	大津町杉水西の原、西ノ尾	縄文	包蔵地	籾痕ある御領式,太郎迫式
113	尾鶴	杉水小迫・尾鶴	縄文～平安	包蔵地	縄文晩期、土師器
114	今村	杉水今村	縄文	包蔵地	西平式（御手洗B）・野辺田式
115	杉水上ノ原矢鉾	杉水上ノ原・矢鉾	縄文･弥生･古代	埋　葬	甕棺墓、支石墓、縄文・弥生土器、奈良・平安土師器・須恵器
116	ナギナタ	平川	縄文	包蔵地	条痕文、御領式・野辺田式
117	平川仮宿	平川水落	弥生・古代	包蔵地	
118	水の山	矢護川水ノ山	縄文	包蔵地	押型文、御領式・黒髪式・野辺田式、支石墓
119	日向	矢護川日向	縄文･弥生･平安	包蔵地	縄文晩期、弥生中後期土器片、平安前半期
120	中後迫	矢護川中後迫	縄文	包蔵地	押型文、寒の神・北久根山・辛川Ⅰ・Ⅱ・黒川式
121	八窪	大津八窪	縄文～中世	包蔵地	縄文後期末～晩期前（西平・太朗迫・鳥井原・御領式）
122	中井手	中井手	古代	包蔵地	
123	下陣内	陣内年ノ神	弥生～古代	包蔵地	
124	上陣内	陣内上園	弥生～古代	包蔵地	
125	田尾	陣内	古代・中世	包蔵地	
126	森	森榎迫	縄文	包蔵地	御領式
127	錦野	錦野上掲	縄文～古代	集　落	県調査
128	瀬田裏	瀬田長袖ほか	縄文･古墳･古代	包蔵地	
129	瀬田裏G	瀬田	縄文・古代	包蔵地	土器片、石鏃など
130	瀬田裏F	瀬田	縄文・古代	包蔵地	土器
131	瀬田裏E地点	瀬田瀬田裏	縄文	包蔵地	御手洗A式、鐘ヶ崎式系小池原上層式
132	外牧	外牧	縄文・弥生	集　落	県調査
133	前畑	外牧前畑	縄文・古代	包蔵地	内牧遺跡A
134	大鶴A	外牧大鶴	縄文	集　落	県調査
135	面ノ平	旭志村尾足平山・面ノ平	弥生～古代	包蔵地	弥生、土師器、官道跡
136	坂ノ下出	阿蘇町車帰	平安	包蔵地	
137	車帰	車帰村下	縄文～中世	包蔵地	
138	猪出口	車帰坂ノ下	平安	包蔵地	土師器（８C～９C）
139	井川下	車帰	縄文・平安	包蔵地	一部土師器（平安８C）
140	道宗	車帰	古代	包蔵地	土師器・須恵器
141	南赤水	赤水	弥生～中世	包蔵地	
142	原水大人足	菊陽町原水大人足	縄文～古代	包蔵地	
143	久保田下原	久保田下原	弥生～平安	包蔵地	
144	久保田中原	久保田中原	縄文･弥生･古代	包蔵地	
145	久保田出分上原	久保田上原	古墳・古代	包蔵地	土師器
146	久保田中岡	久保田中岡	弥生・古代	包蔵地	
147	楠ノ木	久保田楠ノ木	古代	集落跡	越　白磁
148	津留	久保田津留	古代	包蔵地	段丘湧泉地、土師器・須恵器
149	津久礼六地蔵	津久礼梅木	縄文･弥生･平安	石造物	
150	中屋敷	辛川中屋敷	縄文	包蔵地	
151	東弁指	辛川東弁指	縄文	包蔵地	
152	池ノ窪	辛川池ノ窪	縄文	包蔵地	
153	辛川東原	辛川東原ほか	縄文・古墳	包蔵地	
154	上中原	辛川	縄文	包蔵地	縄文後期
155	部田	曲手部田	縄文	包蔵地	縄文後期
156	狸坂ABC	曲手部田	縄文	包蔵地	縄文後期遺物散布
157	坂の下		縄文～中世	包蔵地	
158	皆元	西原村鳥子皆元	縄文	包蔵地	縄文晩期土器・石器
159	小園	鳥子持矢倉	縄文～古代	包蔵地	石器、須恵器
160	襟の平	鳥子襟の平	縄文・弥生	包蔵地	縄文後晩期土器、弥生土器、土師器
161	桃の木原	鳥子桃の木原	縄文	包蔵地	縄文早晩期土器、土師器
162	古閑	鳥子古閑	縄文	包蔵地	縄文早晩期土器、土師器
163	日南為	鳥子日南為	縄文～古代	包蔵地	
164	新所車上の原	小森	縄文～中世	包蔵地	
165	涼み塚	小森	縄文～中世	包蔵地	
166	風森	小森	縄文～中世	包蔵地	
167	先ノ原	小森大切畑霍	縄文～中世	包蔵地	
168	桑鶴土橋	小森桑鶴土橋	縄文・弥生	包蔵地	御領式、弥生土器、土師器
169	揺が池西側台地	小森桑鶴	縄文・弥生	包蔵地	縄文後晩期・弥生後晩期土器
170	桑鶴古屋敷	小森桑鶴	縄文～古墳	包蔵地	縄文早期、御手洗・西平式、弥生・古墳期土器出土
171	丸林	小森桑鶴	縄文～古代	包蔵地	三万田式
172	うつさい	小森土橋	縄文～弥生	包蔵地	西平・御領式、弥生後期土器
173	秋田上原	河原秋田原	縄文～中世	包蔵地	
174	玉の迫	布田玉の迫	縄文	包蔵地	縄文後晩期
175	山の神	布田小鶴	古代	包蔵地	土師器
176	下高下	宮山下高下	縄文	包蔵地	縄文中後晩期土器
177	将軍塚	宮山下高下	縄文	包蔵地	縄文後晩期土器・石鏃
178	宮山遺跡群	宮山西原・広瀬	縄文～古代	包蔵地	縄文早前後晩期、弥生中後期、土師器、須恵器
179	なこやしき	宮山宮山	縄文	包蔵地	縄文晩期土器
180	医王寺	宮山医王寺向	縄文	包蔵地	石器、石包丁
181	清田松山	熊本市河内町河内	縄文	包蔵地	磨製石斧
182	大上戸	河内町野出西上	古墳・古代	包蔵地	土師器坩など
183	万楽寺貝塚	万楽寺町乙笹尾	縄文	貝　塚	
184	山海道	万楽寺町甲笹尾	旧石器・縄文	集　落	剥片尖頭器（黒曜石）、土偶、縄文後晩期土器
185	万楽寺経塚	万楽寺	縄文・中世	経　塚	
186	万楽寺出口	太郎迫町	縄文･弥生･古代	包蔵地	県調査あり
187	太郎迫	太郎迫大原など	縄文	包蔵地	住居跡、埋甕、土偶、磨製石斧、打製石斧、石刀、剥片石器
188	妙見遺跡群	立福寺町今熊	縄文・中世	包蔵地	後晩期（太郎迫・後領式）
189	惚門	立福寺町小原	縄文～中世	包蔵地	
190	北迫川底遺跡群	北迫町北迫	縄文～中世	包蔵地	三万田式

表(Tab) 4　　熊本平野周辺遺跡一覧表 ②

遺跡番号	遺　跡　名	所　在　地	時　代	種別	備　　考
191	小糸山遺跡群	熊本市小糸山町居屋敷	縄文～中世	包蔵地	縄文後期土器・縄目圧痕土器など、西南戦争官軍墓地
192	硯川遺跡群	硯川・下硯川町	縄文～平安	包蔵地	板碑（大永４年銘）、窯跡（平安期？）２基以上
193	袖ノ木	硯川町市迫	縄文・古墳	包蔵地	縄文後期土器、石棺数基
194	山川窯跡群	下硯川町	古代	生　産	須恵器
195	川東遺跡群	和泉町幡宮	縄文・弥生	包蔵地	縄文晩期、板碑（大永３年銘）
196	皮籠石	和泉町川東	縄文～中世	包蔵地	
197	桑鶴遺跡群	和泉町桑鶴	縄文～中世	包蔵地	板碑（天文２年銘）
198	中尾	花園４丁目	縄文	包蔵地	後期中葉末の太郎迫式の口縁部破片
199	馬ノ水	花園町	縄文・弥生	包蔵地	縄文晩期、弥生櫛描波状文・重弧文
200	柿原馬の木	花園町	縄文～中世	包蔵地	
201	柿原遺跡群	花園町柿原	縄文～中世	包蔵地	北久根山・辛川Ⅰ式、鹿子木寂心居城
202	本妙寺北	花園町４丁目	古墳～中世	包蔵地	
203	四方寄	四方寄町	縄文	包蔵地	縄文後晩大集落
204	四方寄御馬下	四方寄町御馬下	縄文	包蔵地	
205	飛田遺跡群	飛田町塔の木など	縄文～古墳	包蔵地	
206	五丁中原遺跡群	貢町馬場・三つ塚	旧石器～弥生	包蔵地	弥生後期環壕集落調査、縄文晩期住居跡調査、巴形銅器
207	宝出原	改寄町	縄文～中世	包蔵地	
208	立石遺跡群	改寄町	縄文～平安	包蔵地	御領式
209	大鳥居遺跡群	大鳥居町	縄文～中世	包蔵地	
210	梶尾古閑原・古屋敷	梶尾町古閑原など	縄文～中世	包蔵地	
211	梶尾立野	梶尾町立野	縄文～中世	包蔵地	
212	鶴羽田	鶴羽田町	縄文～古墳	包蔵地	縄文後晩期土器、先端を失った銅戈工事中に出土
213	羽田	鶴羽田町	古代・中世	包蔵地	
214	山際畑	鶴羽田町	縄文～中世	包蔵地	
215	徳王	徳王町ほか	縄文～平安	包蔵地	縄文後期、弥生内行花文鏡出土
216	北島遺跡群	池田町４丁目	弥生～中世	包蔵地	
217	池田町	池田１丁目	弥生～平安	包蔵地	池田小学校庭甕棺群
218	池田山伏塚遺跡群	池田２丁目・清水町高平	弥生･古墳･平安	包蔵地	石棺箱式珠文鏡、横穴式石室
219	一ノ谷	清水町津浦中寄	古墳～平安	包蔵地	
220	舟場	清水町津浦	縄文～中世	包蔵地	
221	打越貝塚	清水町打越	縄文	貝　塚	北久根山式
222	清水町遺跡群	清水町山室など	縄文～古墳	包蔵地	縄文前後晩、甕棺群、土師器
223	亀井遺跡群	清水町亀井	縄文～中世	包蔵地	城は現光照寺内、板碑（天文２年銘）
224	古閑前	清水町亀井	古代・中世	包蔵地	
225	松崎遺跡群	清水町松崎	弥生～平安	包蔵地	
226	室園	清水町室園	縄文～中世	包蔵地	
227	万石昭和団地前	清水町万石	縄文～中世	包蔵地	
228	清水町谷口	清水町万石	旧石器～平安	包蔵地	県調査あり
229	万石乗越	清水町万石	縄文～古代	包蔵地	
230	万石茶山	清水町万石	縄文・弥生	包蔵地	夜臼式
231	楡木	清水町楡木	縄文・弥生	包蔵地	縄文早前後晩、甕棺群
232	天拝山	清水町楡木	旧石器～弥生	包蔵地	石槍、鳥井原・黒川式土器、須玖式甕棺群
233	岩倉山中腹	清水町兎谷	縄文～中世	包蔵地	
234	岩倉山	清水町兎谷	旧石器～中世	包蔵地	
235	岩倉山山頂	清水町兎谷	縄文～中世	包蔵地	
236	庵ノ前	清水町兎谷	旧石器・縄文	包蔵地	早期住居跡３基、鳥井原・黒川式
237	堂ノ前遺跡群	清水町楡木・堂の前	旧石器～中世	包蔵地	
238	壱町鶴	清水町楡木一町鶴	縄文～中世	包蔵地	
239	麻生田	麻生田町	縄文～平安	包蔵地	
240	楠	龍田町	縄文～中世	包蔵地	
241	竹ノ後・芭蕉遺跡群	龍田町上立田竹の後	縄文～平安	包蔵地	縄文後期（御領式）、合口甕棺、土偶
242	片彦瀬	龍田町弓削片彦瀬	縄文	包蔵地	
243	弓削平ノ下B	龍田町弓削平の下	縄文～中世	包蔵地	
244	弓削平ノ下A	龍田町弓削平の下	縄文～中世	包蔵地	
245	弓削前畑	龍田町弓削小坂屋敷	古代～中世	包蔵地	
246	法王鶴	龍田町	弥生・古代	包蔵地	
247	託麻弓削遺跡群	弓削町	縄文	包蔵地	縄文前後晩期
248	山尻遺跡群	龍田町弓削山尻	縄文・弥生	包蔵地	弥生時代を中心とした大集落
249	迫ノ上遺跡群	龍田町陣内など	縄文～平安	包蔵地	堂の前窯跡は平安期か？
250	堂前畠	龍田町	縄文～平安	包蔵地	
251	吉ノ平	龍田町上立田	縄文～中世	包蔵地	
252	三の宮	龍田町上立田	縄文	包蔵地	
253	秣野	龍田町上立田	縄文～平安	包蔵地	
254	陣内上ノ園遺跡群	龍田町上立田	縄文～古墳	包蔵地	御手洗A式、押型文、須玖式甕棺、方形周溝墓
255	竜田陣内遺跡群	龍田町陣内	旧石器～中世	包蔵地	曽畑・三万田・御領式、県報告書あり
256	竜田口	龍田町女瀬・黒髪７丁目	縄文～平安	包蔵地	
257	小峰	黒髪町小峰	縄文～平安	包蔵地	
258	黒髪町遺跡群	黒髪町坪井	縄文～中世	包蔵地	一帯に甕棺墓郡
259	上河原	黒髪町	縄文～古代	包蔵地	
260	立田山山頂	黒髪町	古墳～平安	包蔵地	
261	黒髪町下立田遺跡群	黒髪町	古墳～江戸	包蔵地	
262	立田山東中腹	黒髪町	古代・中世	包蔵地	
263	宇留毛浦山市営墓地	黒髪町７丁目	縄文～平安	墓　地	
264	桜山中学校校庭	黒髪町５丁目	古墳～平安	包蔵地	
265	宇留毛神社周辺遺跡群	黒髪町６・８丁目	古墳・中世	包蔵地	円墳２基横穴式石室
266	カブト山	黒髪町宇留毛甲山	縄文	包蔵地	早期、轟B、北久根山・黒川・山の寺
267	宇留毛A	黒髪町６丁目	縄文	包蔵地	
268	宇留毛B	黒髪町６丁目	縄文～平安	包蔵地	
269	新南部遺跡群	新南部町	旧石器～平安	包蔵地	北久根･御領式､県北バイパス･市マンション･田辺昭三調査などあり
270	新南部西原	新南部町	縄文～平安	集　落	
271	市営託麻団地	新南部託麻団地	縄文	包蔵地	押型文・御領式
272	下南部	下南部町下山	縄文～古墳	包蔵地	須久式甕棺
273	王田	上南部町王田	縄文～平安	包蔵地	黒髪式合口甕棺
274	上南部	上南部町村下	縄文	包蔵地	縄文前期､後晩期（北久根山･鳥井腹･御領･黒川･山の寺）集落､市報告書
275	供合松ノ上	上南部町	縄文～中世	包蔵地	
276	吉原	吉原町殿田	縄文～平安	包蔵地	縄文後晩期（南福寺・中津）、弥生後期、奈良平安在銘土器
277	北上遺跡群	石原町平	縄文・古代	包蔵地	縄文晩期土器、布目瓦
278	石原町	石原町	縄文～中世	包蔵地	
279	石原瀬々井	石原町瀬々井	縄文	包蔵地	縄文晩期
280	北小迫	御領町	縄文･奈良･平安	包蔵地	
281	南小迫	御領町	縄文～平安	包蔵地	
282	乾原・迎八反田	長嶺町乾原・迎八反田	縄文～平安	包蔵地	縄文早後晩期中心
283	八反田遺跡群	長嶺町八反田	縄文・中世	包蔵地	縄文後晩期、土偶
284	神園	長嶺町上西原	縄文～平安	包蔵地	
285	長嶺遺跡群	長嶺町	縄文～平安	包蔵地	北久根・御領・黒川・山ノ寺式、石神碑天文１８年銘

表(Tab) 5　熊本平野周辺遺跡一覧表 ③

遺跡番号	遺　跡　名	所　在　地	時　代	種別	備　　考
286	長嶺油出	熊本市長嶺町	縄文･奈良･平安	包蔵地	
287	神園山西麓	長嶺町下の山	古代	包蔵地	
288	神園桜井	長嶺町	縄文～中世	包蔵地	
289	神園山遺跡群	長嶺町・小山町	奈良・平安	包蔵地	
290	神園田淵屋敷	長嶺町・小山町	平安・中世	包蔵地	
291	中山	小山町	縄文～平安	包蔵地	南福寺・黒川・山ノ寺式
292	小山上の山	小山町	縄文～中世	包蔵地	
293	楳谷寺瓦窯跡群	小山町	奈良・平安	生　産	
294	中原道明	小山町	縄文	包蔵地	縄文早後晩期
295	平山居屋敷	平山町	古代・中世	包蔵地	
296	平山石ノ本	平山町	旧石器～縄文	集　落	国体会場、県調査報告書あり
297	御船塚東	平山町	縄文～古代	包蔵地	
298	御船塚山	平山町	縄文～古代	包蔵地	
299	近津	松尾町近津上屋敷	縄文～中世	包蔵地	
300	神田原	松尾町平山	縄文～中世	包蔵地	
301	コボシ坂	松尾町平山	古代・中世	包蔵地	瓦器、五輪塔
302	東竹洞	松尾町上松尾竹洞	古墳～中世	包蔵地	
303	上松尾古閑・外平	松尾町上松尾	縄文～中世	包蔵地	
304	上松尾塔ノ本	松尾町上松尾城山	縄文～中世	包蔵地	
305	中津倉	松尾町上松尾城山	縄文～中世	包蔵地	
306	川戸貝塚	松尾町中松尾	縄文	貝　塚	縄文早前中後期
307	百貫石	小島町百貫石	縄文～中世	包蔵地	
308	小島下町遺跡群	小島下町	縄文･古代･中世	包蔵地	黒川式
309	高橋町遺跡群	高橋町	縄文･古墳～平安	包蔵地	
310	西大谷	谷尾崎町	縄文～中世	包蔵地	
311	西平山A	池上町西平山	平安	包蔵地	金子塔の周辺遺跡
312	西平山B	池上町西平山	古代	包蔵地	
313	金子塔	池上町平　国有林内	平安	石造物	
314	池辺寺跡	池上町平山	古代	寺　社	
315	池辺寺関連遺跡群	池上町	平安～中世	寺　社	
316	池辺寺塔遺跡群	池上町池上	古代	寺　社	
317	池辺寺関係石造物	池上町池上	古代・中世	石造物	宝塔、一字一石碑、板碑、石灯篭、孤峰秀晃池辺寺再興碑
318	独鈷山遺跡群	池上町池上・城山上代町	古墳～中世	包蔵地	
319	清水原	池上町	古代・中世	包蔵地	
320	上代町遺跡群	城山上代町	縄文～平安	包蔵地	弥生前期土器
321	城山薬師	城山薬師町	縄文～平安	包蔵地	
322	保徳寺	飽田町	古墳～平安	包蔵地	
323	熊本平野条里跡		古代・中世	生　産	
324	熊本平野条里跡		古代・中世	生　産	
325	古護藤	八分字町	弥生～中世	包蔵地	
326	護藤遺跡群	護藤町	古墳～中世	包蔵地	
327	八ノ坪	護藤町	古墳～中世	包蔵地	
328	白藤遺跡群	島町・白藤町ほか	弥生～中世	包蔵地	青銅器鋳型、ミニチュア青銅矛
329	石神原	島崎町３丁目	弥生～平安	包蔵地	
330	千原台遺跡群	島崎町３丁目ほか	縄文～平安	包蔵地	辛川Ⅰ・Ⅱ・太郎迫・御領式
331	迎田	島崎町	平安	包蔵地	
332	戸坂	戸坂町	弥生～平安	包蔵地	甕棺群
333	戸坂御田尻	戸坂町	縄文～中世	包蔵地	
334	新馬借	新町３丁目	古墳～平安	包蔵地	須恵器
335	古町	唐人町・古町ほか	弥生～明治	包蔵地	平安前期土師器・須恵器
336	本山城跡（本庄城跡）	本山町城の本	弥生～中世	包蔵地	元弘年間に託麻宗直
337	石塘（白川橋）	二本木１・２丁目	弥生～中世	包蔵地	
338	二本木遺跡群	二本木１・２丁目ほか	弥生～中世	包蔵地	国府推定地
339	世安池田	世安町池田	弥生～中世	包蔵地	輸入陶磁器など
340	道城方	蓮台寺町道城方	弥生・古代	包蔵地	
341	南新宮	蓮台寺町南新宮	弥生～中世	包蔵地	
342	平田町	平田１丁目	弥生～平安	包蔵地	甕棺群
343	近見	近見町	縄文～中世	包蔵地	
344	南高江西馬出	南高江町	弥生～中世	包蔵地	
345	中椎田	八幡町	古墳～中世	包蔵地	青磁
346	マツヒサ屋敷	八幡町	古墳～中世	包蔵地	土累残存
347	学承院跡	野田町	平安	寺　社	平安時代開創、天台宗
348	京町台遺跡群	京町	弥生～中世	包蔵地	
349	京町２丁目	京町２丁目	縄文～中世	包蔵地	
350	伝大道寺遺跡群	京町２丁目	古代・近世	包蔵地	
351	籐園中学校校庭	千葉城町	弥生～平安	包蔵地	甕棺群あり
352	熊本城跡遺跡群	千葉城町・古城・古京	古墳～近世	包蔵地	
353	安元元年笠塔婆塔身	坪井４丁目	古代	石造物	県重要文化財、本光寺
354	七軒町	七軒町	古代・中世	包蔵地	
355	子飼	子飼町	縄文～中世	包蔵地	
356	新屋敷	新屋敷町	弥生～中世	包蔵地	弥生環壕、弥生前期土器、輸入陶磁器
357	本荘（熊大病院敷地）	本荘２丁目	古墳～平安	包蔵地	熊大埋文調査室調査
358	出水国府跡	九品寺･国府･国府本町	弥生～中世	包蔵地	
359	西無田	御幸西無田町	弥生～平安	包蔵地	甕棺、石包丁
360	御幸笛田神社	御幸笛田町	弥生～中世	包蔵地	
361	御幸木部遺跡群	御幸木部町	弥生～中世	包蔵地	地蔵文明７、阿弥陀天文２、観音寛政６
362	田迎下乙	田迎町田井の島	古代・中世	包蔵地	六地蔵、一字一石
363	熊本平野条里跡		古代・中世	生　産	
364	重富	画図町	古墳～平安	包蔵地	
365	所島大工免	画図町	弥生～平安	包蔵地	
366	山王	画図町	弥生～中世	包蔵地	
367	大江白川	大江１丁目	縄文～平安	包蔵地	甕棺
368	大江遺跡群	大江３丁目	縄文～明治	包蔵地	
369	北水前寺	水前寺３丁目	奈良・平安	包蔵地	
370	西水前寺町	水前寺１丁目	縄文～中世	包蔵地	
371	水前寺廃寺跡	水前寺公園	奈良・平安	包蔵地	
372	水前寺廃寺塔心礎石	水前寺公園	奈良	寺　社	塔（墓壇・心礎・礎石群）部分について市指定史跡
373	陣山廃寺跡	水前寺公園	奈良・平安	寺　社	国分尼寺推定地
374	肥後国分寺	出水１丁目　熊野神社	奈良	寺　社	塔心礎並びに礎石が市指定
375	国分寺跡	出水１丁目	縄文～中世	包蔵地	県・市による多数の調査あり
376	神水	出水２丁目・神水本町	縄文～平安	包蔵地	県・市調査、報告書あり
377	渡鹿遺跡群	渡鹿５丁目	縄文・弥生	包蔵地	阿高・鐘ヶ崎式、須玖式甕棺、板碑釈迦像天文１６年銘
378	辻	渡鹿７丁目	縄文～平安	包蔵地	縄文後晩期、へら描き土器、墨書土器
379	南平上	新大江３丁目南平上	奈良・平安	包蔵地	
380	帯山遺跡群	帯山１丁目	縄文～平安	包蔵地	曽畑・阿高・竹崎式、布目瓦

表(Tab)６　熊本平野周辺遺跡一覧表 ⑷

遺跡番号	遺　跡　名	所　在　地	時　代	種別	備　　考
381	保田窪東一本松		縄文～平安	包蔵地	
382	三郎塚	熊本市健軍町	縄文～平安	包蔵地	
383	新外A	健軍町小峰	縄文	包蔵地	御領式
384	新外B	健軍町小峰	縄文～平安	包蔵地	
385	小嶺	健軍町小峰	縄文～平安	包蔵地	
386	佐土原	健軍町佐土原	縄文～平安	包蔵地	
387	健軍神社周辺遺跡群	健軍２丁目	旧石器～中世	包蔵地	縄文後期炭化米出土、北久根・鳥井原・御領式、市報告書あり
388	江津湖東岸	健軍４丁目・新生１丁目	縄文～平安	包蔵地	
389	江津湖遺跡群	神水町・画図町ほか	縄文～中世	包蔵地	太郎迫・三万田・鳥井原・黒川・山ノ寺式
390	下津代里	秋津町	縄文～平安	包蔵地	
391	沼山津貝塚	秋津町３丁目沼山津	縄文	貝　塚	縄文中後期、南福寺・御手洗A・鐘ヶ崎・北久根山式
392	戸島京塚	戸島町	縄文～中世	包蔵地	
393	葉山遺跡群	戸島町葉山	旧石器・縄文	包蔵地	
394	戸島桑鶴	戸島町	縄文～平安	包蔵地	
395	下佐土原	戸島町	縄文～平安	包蔵地	
396	遠見塚	益城町木山遠見塚	縄文～古代	包蔵地	
397	小久保	上小久保・下小久保	縄文～中世	包蔵地	
398	八久保	八久保	古墳・古代	包蔵地	
399	寺中	寺中	縄文～平安	包蔵地	
400	上面ノ平	田原上面ノ平	縄文～中世	包蔵地	
401	上石岸原	田原上石岸原	縄文～中世	包蔵地	
402	諏訪ノ上	田原諏訪ノ上	古墳・古代	包蔵地	田畑から須恵器片
403	高遊	小谷高遊	縄文～中世	包蔵地	
404	梨木	広崎梨木	縄文・弥生	包蔵地	出水・御手洗・市木・北久根山・鐘ヶ崎式
405	葉山	広崎葉山・西原	弥生～古代	包蔵地	
406	古閑北	古閑崎久保・横道	縄文・弥生	包蔵地	出水・御手洗・北久根式
407	古閑	古閑宅地	縄文・弥生	包蔵地	縄文・弥生・土師器、外の遺物包含
408	惣領	惣領高木	縄文～古代	包蔵地	
409	大辻	馬水大辻	縄文～平安	包蔵地	
410	馬水製鉄所跡	馬水駿河原	古代・中世	生　産	ふいご羽口・鉱滓、青磁、土師器
411	宗曽利	安永宗曽利	縄文～中世	包蔵地	
412	安永	安永	弥生～古代	包蔵地	
413	辻	宮原辻	縄文～中世	包蔵地	
414	下辻	木山下辻	縄文～中世	包蔵地	
415	条里跡		古代・中世	生　産	
416	条里跡		古代・中世	生　産	
417	条里跡		古代・中世	生　産	
418	条里跡		古代・中世	生　産	
419	赤井	赤井登町	古代	包蔵地	土師器
420	福田	福原福田寺	古墳・古代	包蔵地	大小土師器壺２個出土
421	源志山	福原源志山	縄文～古代	包蔵地	曽畑式、弥生土器
422	福田寺跡	福原福田寺	古代・中世	寺　社	須恵蔵骨器、青磁
423	櫛島	島田南島	縄文	包蔵地	縄文土器
424	塔平	小池塔平	縄文～中世	包蔵地	
425	飯田山常楽寺跡	砥川飯田・常楽寺	古代・中世	寺　社	古塔碑散乱
426	住吉神社境内　風流島	宇土市笠原住吉	古代	建造物・記念物	神社延文年間草創、風流島伊勢物語・枕草子、一帯住吉公園
427	条里跡	網田	古代・中世	生　産	
428	条里跡	網田	古代・中世	生　産	
429	塩屋	下網田塩屋	古墳～中世	包蔵地	
430	田平	網田田平	旧石器～中世	包蔵地	
431	タタラ平	下網田宮の前	古代・中世	生　産	製鉄跡
432	小舟	網引小舟	古墳～中世	包蔵地	
433	伊津野	野鶴居屋敷	縄文～中世	包蔵地	人骨１１体分、ガラス玉、陶器
434	条里跡		古代・中世	生　産	
435	恵里	恵塚村下	古墳～中世	包蔵地	
436	椿原	椿原内園ほか	弥生～中世	包蔵地	
437	陣の前	石橋陣の前	弥生～中世	包蔵地	
438	宇土城城山	古城古城	縄文～近世	城	
439	条里跡		古代・中世	生　産	
440	善導寺	善導寺	縄文～中世	包蔵地	
441	境目	境目西原	縄文～中世	包蔵地	甕棺
442	山内	松山北山内	縄文～中世	包蔵地	A・Bあり
443	古保里	古保里	弥生～中世	包蔵地	弥生～中世土器散布
444	福城寺跡	富合町莎崎古北	古代・中世	寺　社	現円徳寺
445	無量寿寺跡	菰江園田	古代・中世	寺　社	現長宝寺の前身、阿弥陀堂あり
446	国町	富合国町	古墳・古代	寺　社	地表下１．５m、土師器・須恵器
447	光明寺跡	志々水天神免	古代・中世	寺　社	大慈禅寺の末寺、１２９９中大慈三世鉄山士和尚の開墓
448	観音寺跡	杉島中崎	古代・中世	寺　社	開山日羅、道元とも「肥後国誌」に記
449	福勝寺跡	杉島南江	古代・中世	寺　社	薬師三尊をまつる、台宗、天台延暦末寺
450	極楽寺跡	釈迦堂天神免	古代・中世	寺　社	曹洞禅、本尊釈迦仏
451	榎津条里跡	榎津四の坪	古代・中世	生　産	
452	平原窯跡	平原本生	古代	生　産	３基、登り窯、布目瓦・須恵器
453	ソビエ石貝塚	木原辨天・鱚塚	縄文	貝　塚	縄文中後晩期
454	宮山	木原宮の谷	古代	包蔵地	蔵骨器
455	加瀬川流域条里跡	嘉島町下仲間	古代・中世	生　産	
456	矢形川流域条里跡	下六嘉上島・鯰ほか	古代・中世	生　産	
457	西光寺	下六嘉西光寺	縄文～中世	包蔵地	
458	カキワラ貝塚	下六嘉カキワラ	縄文	貝　塚	縄文前後期土器
459	下六嘉遺跡群	下六嘉	弥生～古代	包蔵地	
460	井寺	井寺富屋敷	縄文～中世	包蔵地	
461	石塚	北甘木石塚ほか	縄文・弥生	埋　葬	縄文後晩期土器、弥生甕棺
462	塔ノ木	北甘木塔ノ木・豆板	縄文～古代	包蔵地	
463	二子塚	北甘木二子塚ほか	弥生・古代	包蔵地	環壕集落
464	条里跡	城南町	古代・中世	生　産	
465	益城軍団推定地	坂野西天神原	古代	包蔵地	
466	西天神原（ａ）	坂野西天神原	縄文～古代	包蔵地	
467	西天神原（ｂ）	坂野西天神原	縄文～古代	包蔵地	
468	東天神原	坂野東天神原	縄文～古代	包蔵地	
469	今村貝塚	今吉野・西原	縄文	貝　塚	縄文晩期土器
470	新御堂	宮地新御堂	縄文・弥生	包蔵地	縄文晩期・弥生中期土器、石包丁
471	黒橋貝塚	下宮地	縄文・弥生	貝　塚	石器、土器
472	阿高貝塚	阿高東原	縄文	貝　塚	縄文中期土器・骨角器、阿高式発生地
473	御領貝塚	東阿高八ツ尾	縄文	貝　塚	縄文晩期土器・土偶、御領式本拠
474	松手	塚原松手	縄文	包蔵地	縄文後期土器
475	日焼古墳裾	塚原	古代・中世	包蔵地	蔵骨器

表(Tab) 7　熊本平野周辺遺跡一覧表 ⑤

遺跡番号	遺　跡　名	所　在　地	時　代	種別	備　　考
476	火葬場裏古墳北	城南町塚原丸山	古代・中世	包蔵地	蔵骨器
477	塚原	塚原上ノ原	縄文・古墳	包蔵地	
478	柿田	藤山柿田	縄文	包蔵地	縄文晩期土器・十字石器
479	星野屋敷跡	藤山上柿田	縄文	包蔵地	縄文早晩期土器
480	三石野	藤山三石野	縄文	包蔵地	縄文晩期土器
481	沈目奥野	沈目奥野	縄文～古墳	集　落	
482	山の上	出水居屋敷	縄文・弥生	包蔵地	縄文早晩期
483	益城国府推定地	陣内舞ノ原	古代	包蔵地	
484	舞ノ原	陣内舞ノ原	旧石器～古代	包蔵地	
485	狐塚	陣内狐塚	古代	包蔵地	
486	近道原	陣内近道原	縄文～中世	包蔵地	
487	陣内廃寺跡	陣内道上ほか	古代	寺　社	伽藍遺構、蔵司、礎石
488	陣内窯跡	陣内本村	古代	生　産	平瓦・軒平瓦
489	照山寺跡	鰐瀬北口	古代・中世	寺　社	平安末、豊田荘々寺、石造物
490	山ノ神蔵骨器出土地	鰐瀬山ノ神	古代・中世	包蔵地	蔵骨器
491	鰐瀬	鰐瀬西南原	縄文	包蔵地	
492	南原	鰐瀬南原	縄文	包蔵地	縄文早後晩期土器
493	天神原	鰐瀬天神原	縄文～古墳	包蔵地	縄文・弥生土器
494	土鹿野	鰐瀬北の畑	縄文	包蔵地	縄文後晩期土器
495	志導寺	鰐瀬志導寺	縄文	包蔵地	縄文晩期土器
496	西萱場	鰐瀬西萱場	縄文	包蔵地	縄文晩期土器
497	益城郡家跡	鰐瀬宮の前	古代	包蔵地	布目瓦
498	宮の前（大明神）	鰐瀬宮の前	縄文	包蔵地	縄文土器・石斧・石包丁
499	野田窯跡	鰐瀬西境の松	古墳・古代	生　産	須恵器
500	東亀島瓦窯跡	鰐瀬東亀島	古墳・古代	生　産	布目瓦
501	沈目五山	甲佐町田原	縄文～中世	包蔵地	
502	田口東原	田口東原	縄文	包蔵地	縄文後期、黒曜石、須恵器
503	世持	横田	縄文～中世	包蔵地	
504	麻生原	麻生原坂の上	縄文・弥生	包蔵地	縄文前中晩・弥生土器
505	久保（秋只）	御船町豊秋久保	縄文～古墳	包蔵地	
506	甘木	甘木	縄文	包蔵地	縄文中後期土器、土師器、須恵器
507	条里跡		古代・中世	生　産	
508	条里跡		古代・中世	生　産	
509	岩屋堂B	御船下岩屋堂	縄文	包蔵地	縄文後期土器
510	岩屋堂A	御船上岩屋堂	縄文・弥生	包蔵地	縄文晩期・弥生後期土器
511	中山神	御船中山神	縄文	包蔵地	縄文晩期土器・石斧
512	下瓜山	御船下瓜山	弥生～古代	包蔵地	
513	上瓜山	御船上瓜山	縄文	包蔵地	縄文晩期土器、土師器、須恵器
514	盗人塚山	辺田見	縄文～中世	包蔵地	
515	妙見坂	辺田見下辺田見	弥生～古代	包蔵地	
516	善助山窯跡	御船	古代・中世	生　産	
517	御船高校	木倉南木倉	古代・中世	包蔵地	瓦器
518	木倉観音院	木倉南木倉	古代・中世	包蔵地	瓦器
519	玉虫	玉虫	古墳・古代	包蔵地	
520	滝尾	七滝滝尾	縄文～中世	包蔵地	土器
521	小池原	田代南小池	縄文・弥生	包蔵地	縄文早晩期・弥生土器
522	天が瀬	田代天が瀬	縄文	包蔵地	縄文晩期土器、土師器
523	吉無田高原第６	田代天神原	縄文～古代	包蔵地	須恵器
524	大野十三本松	矢部町上寺拾三本	縄文・弥生	包蔵地	縄文晩期・弥生後期土器、石斧、石匙

表(Tab)８　熊本平野周辺遺跡一覧表 ⑥

第Ⅲ章　調査の概要

第１節　調査の方法

調査方法は、５m四方のグリッド法を採用した。

まず、旧耕作土であるＩＡ，ＩＢ層を重機で除去した後、縄文時代後期から中世までの遺物包含層であるⅡＢ層（主に古代の遺物を含む）と，縄文時代中～後期から古代までの遺物包含層であるⅡＣ層(主に縄文時代後～晩期の遺物を含む）までを土層観察用ベルト（幅１m）を残しながら、一区画（５m×５m）毎に人力で掘り下げていく方法をとった。こうして掘り出した遺物は、出土位置及び高度を記入した上で、取り上げを行った。しかし、包含層のⅡＢ，ⅡＣ層が残存している範囲は２区－３の北側のみ約140㎡であった。ベルトは土層の確認をしながら遺物を取り上げた後取り外した。

遺物の取り上げ作業が終了した時点で、区画毎に清掃を行い、Ⅲ層上面で遺構の有無を確認し、コンタ図をとった。存在が確認されたピットなどの遺構については、引き続き調査を行い、全体を1／20の縮尺で実測図を作成したほか、遺構の配置を確認するための全体図としては、1／100の地形測量図を作成した。また、それぞれの調査段階において、適宜モノクロとカラースライドの２種類を用いて写真撮影を実施した。

その他、旧石器時代の文化層の有無を確認するため、Ｉ－６グリッドに約2.5m×2.5mの試掘坑を設定し、Ⅵ層下部まで人力で掘り下げたが、遺構・遺物は確認できなかった。ただ、自然に入ると考えられるが、Ⅳ層中に２～３㎜大のカーボン粒が所々に確認された。

第２節　調査区の設定

本調査に先立ち平成８年度（1996）に一般県道小池竜田線緊急地方道路整備工事地内において試掘調査が可能な場所に任意に試掘坑を設定し、重機を用いて遺跡の分布調査を実施した。その結果南側の110㎡と北側の790㎡が本調査範囲となった。(図７参照)

本調査にあたり南側の110㎡を調査１区、北側の790㎡を調査２区とした。また、調査２区は道路やセメントで区画があるため、南側から２区－１，２区－２，２区－３と区分した。

なお、調査区には、測量の基準とするための調査用グリッド（区画）を５m間隔で設置した。グリッド設定は、４級基準点測量によって導き出された国土座標Ⅱ系のメッシュの方向に沿ったもので、(有)ダイチプランへの業務委託で行い、東西軸をアルファベットで、南北軸を算用数字で示した。

第３節　層位と包含層（図８，９,15参照）

本遺跡の基本的な土層は次のとおりである。

ＩＡ層　黒褐色土（Hue 10YR 2/3：16～32㎝）
耕作土。しまりがなく、パサパサしている。小粒の褐色土粒を含む。

ＩＢ層　黒褐色土（Hue 10YR 2/2：10～20㎝）
耕作土。しまりがない。ＩＡ層と比べて混入している黄褐色土の割合が高く、粒子も大きい。ＶＡ層のニガの混入もわずかに見られる。

ⅡＡ層　黒色土（Hue 7.5YR 1.7/1：2～11㎝）
粒子が細かくサラサラとした感じで粘性がない。２区－３の北東側でしか確認できない。S019～S021の埋土に酷似しており、遺構埋土の上部にあたる層の可能性が高く、包含層としてはとらえていない。

ⅡＢ層　黒色土（Hue 7.5YR 1.7/1：12～22㎝）
縄文後～晩期から中世の遺物包含層。主に古代の遺物を含むが、ほとんどがローリングを受けている。粒子が細かくサラサラとした感じで粘性がない。ⅡＡ層と比べてしまりがなく、褐色土の混じりがない。２区－３の北側にしか残っていない。

ⅡＣ層　黒褐色土（Hue 10YR 2/2：6～18㎝）
縄文中～後期から古代の遺物包含層。主に縄文後～晩期の遺物を含むが、ほとんどがローリングを受けている。しまりがなく、サラサラとしている。ⅡＢ層とⅢ層との漸移層である。２区－３の北側にしか残っていない。

Ⅲ　層　暗褐色土（Hue 10YR 3/3：14～30㎝）
粘性は弱くややしまる。火山ガラスを多く含み、アカホヤ火山灰の二次堆積土と考え

られる。

ⅣA層　黒褐色土（Hue　5YR 2/2：8～18㎝）
小さな火山ガラスを多く含む。Ⅲ層と同様に粒子が細かく、サラサラとしたしまりのない土。１区でしか確認されない土層。

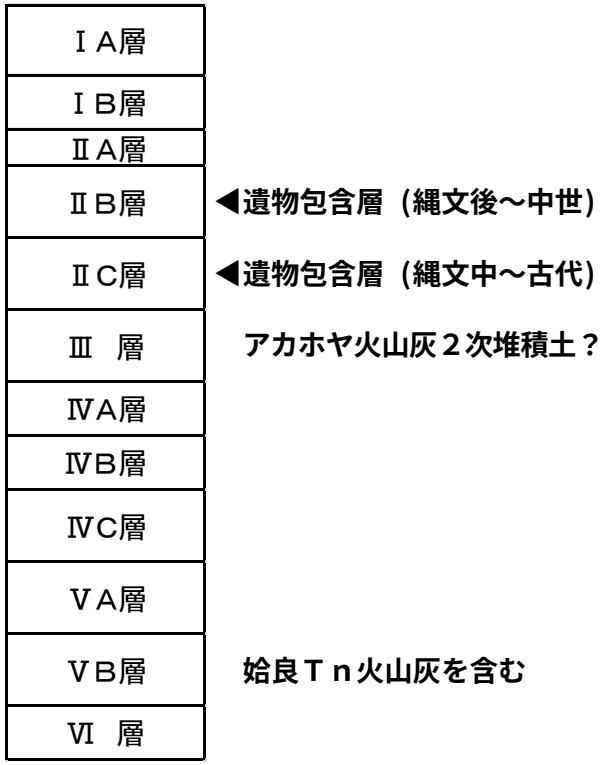
ⅣB層　黒褐色土（Hue 7.5YR 3/2：8～24㎝）
直径２～３㎜の明褐色の粒子を含んだやわらかくパサパサした土。ⅣA層より少し明るい色調をしており、しまりが弱い。
１区でしか確認されない土層。

ⅣC層　黒褐色土（Hue 10YR 2/2：12～34㎝）
固くしまり、粘性がない。　２区でしか確認されない土層。

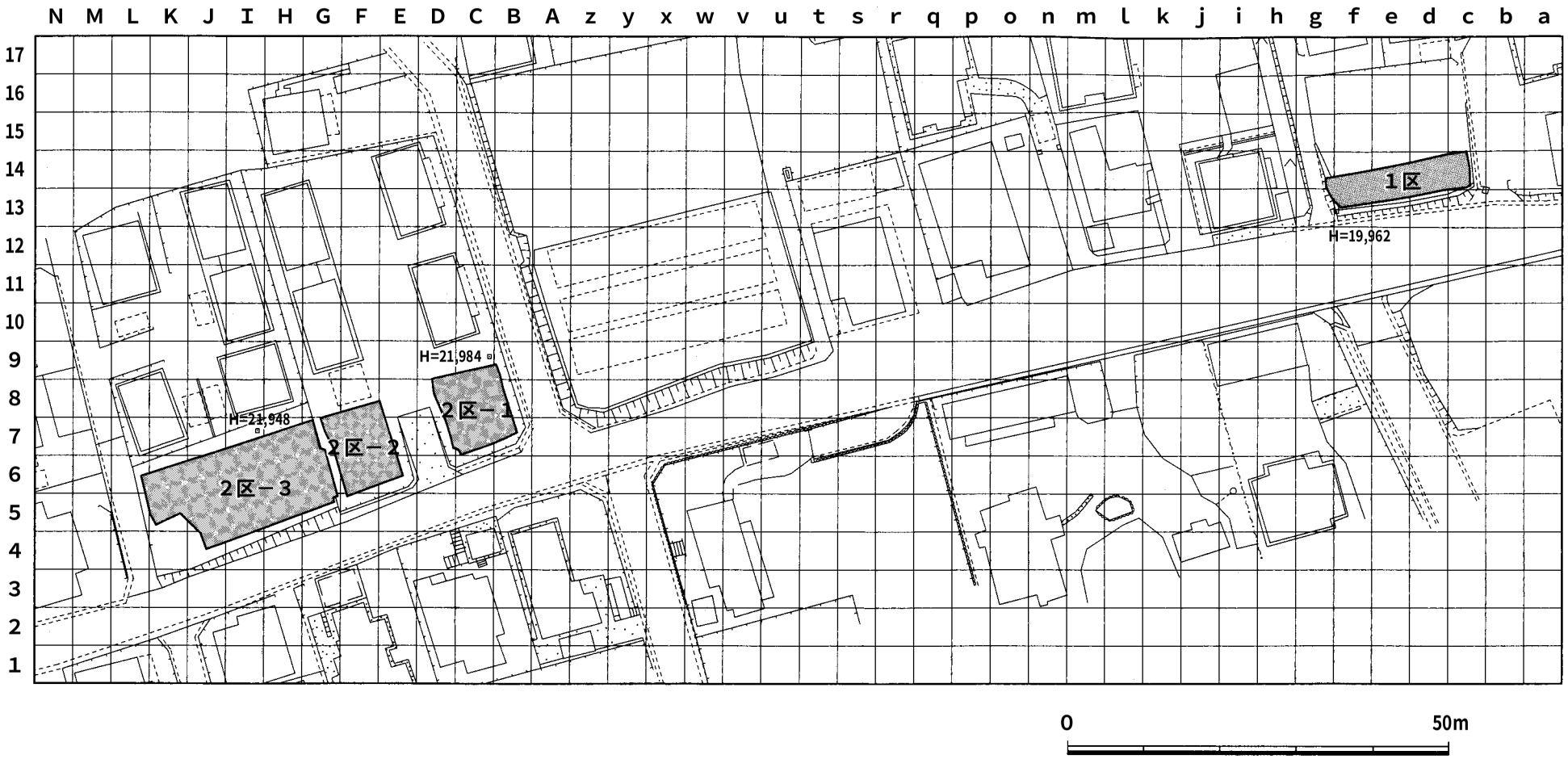
ⅤA層　暗褐色土（Hue 10YR 3/3：20～30㎝）
姶良Ｔｎ火山灰（ＡＴ）と考えられる１～２㎜の火山ガラスや黄褐色のパミスを含む非常に固くブロック状にしまる粘土層。
部分的に褐色の粘土も含む。

ⅤB層　暗褐色土（Hue 10YR 3/3：18～35㎝）
ＡＴと考えられる１～２㎜の火山ガラスを含まない非常に固くしまる粘土層。ⅤA層と比べて褐色の粘土の入る割合が多くなり、少し明るい色調をしている。よく観察するとＡＴではない小さな火山ガラスが含まれている。

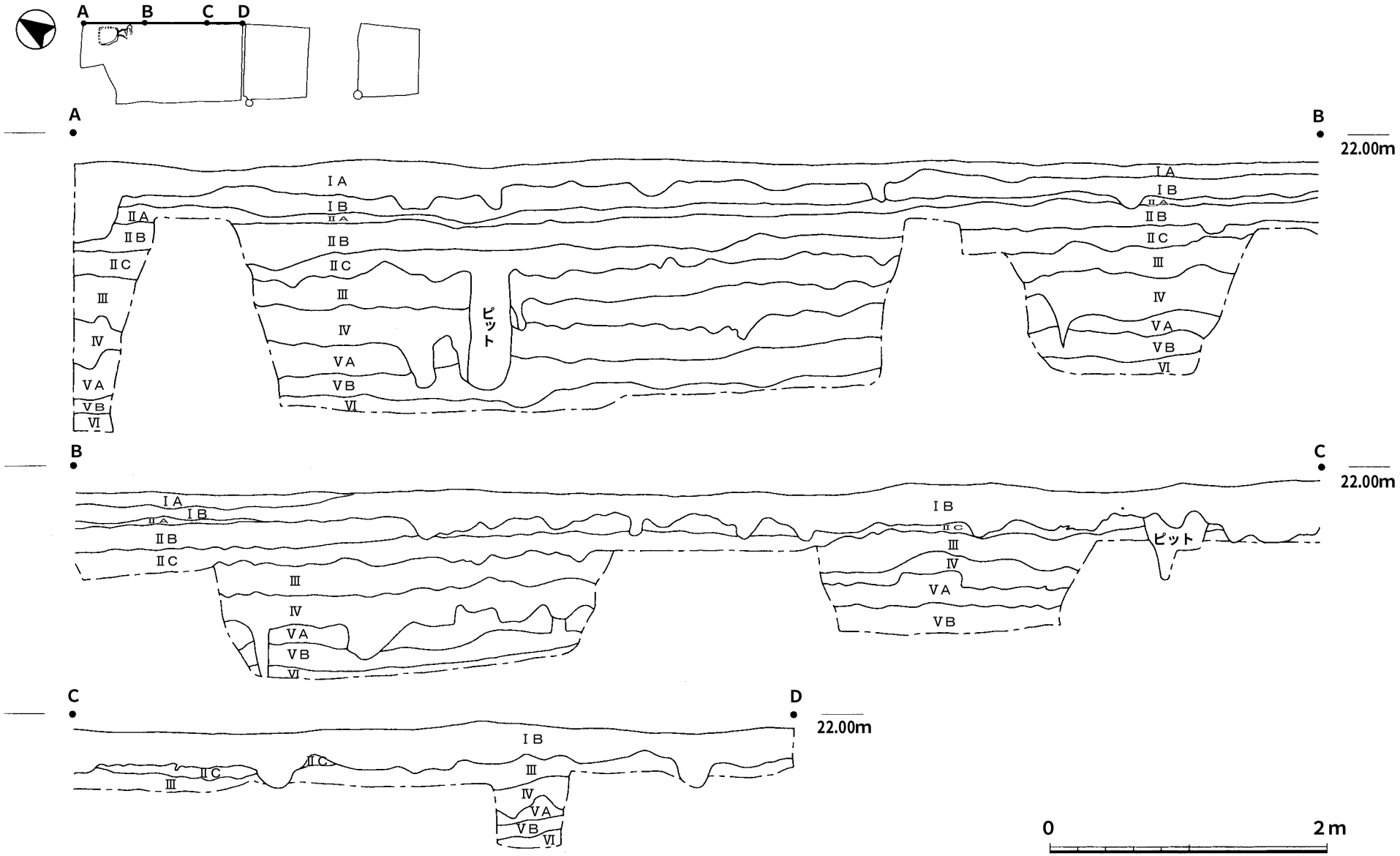
Ⅵ　層　褐色粘土（Hue 7.5YR 4/4：18～）
粘性が非常に強くやわらかいローム層。
所々に２～３㎜大のカーボン粒を含む。



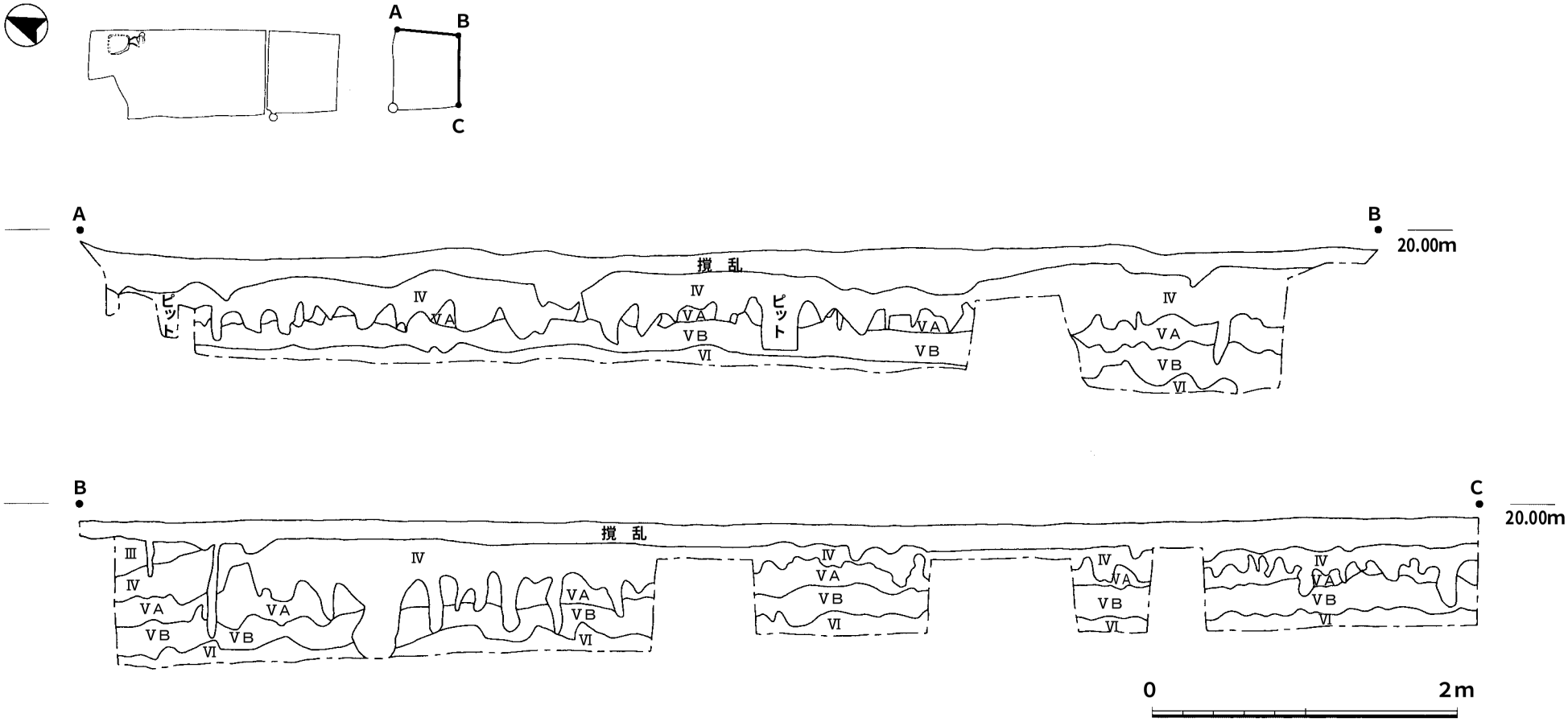
図(Fig)６　基本土層概念図



図（Fig）7　沼山津遺跡調査区配置図　S=1/800



図(Fig) 8　２区－３　東壁土層断面図　S=1/40



図(Fig) 9　２区－１　東壁及び南壁土層断面図　S=1/40

第Ⅳ章　調査の結果

第１節　遺　構

ⅡＡ層は、２区－３の北東側、竪穴住居跡と土坑が集中している範囲にだけみられることからこれらの遺構上面にある埋土の可能性が高い。S019（竪穴住居跡），S020，S021（土坑）は、ⅡＡ，ⅡＢ層の上面もしくはそれより上層に存在したと考えられる層から掘り込まれたものと考えられる。ピットに関しては２区－３以外はⅣＣ層まで攪乱されているので、掘り込み面が不明確だが、２区－３の北側では、ほとんどがⅡＣ層（黒褐色土）～Ⅲ層（暗褐色土）上面で検出することができた。ピットには時代幅がかなりあると考えられるので、本来の掘り込み面はわからないが、新しければより上層から掘り込まれていることは間違いない。

１）ピット（S023～S413）

調査２区には500を越えるピット（穴）が検出された。掘立柱建物や住居跡の柱の可能性が高いと考え、何度も遺構検出を試みたが、筆者の未熟な能力ではうまくいかなかった。色々な方々の意見を拝聴して、樹痕の可能性が高いのではないかとも考えた。しかし、穴の平面の形状が丸いこと、完掘した穴の形状がまっすぐ柱状に伸びることや埋土が８種類に区別されることなどから穴全体を樹痕とは断定できないという考えに至った。そこで、調査員３人で明らかに樹痕と考えられるものを除去し、柱穴などピットとして遺構の可能性が高いものを選定した。

その結果、391基のピットを確認し、遺構とした。(表13～18参照）どの時代のものなのかは判明しないが包含層内の出土遺物から推測すると縄文時代中～後期から中世の可能性が考えられる。しかし、近世から現代のものも混在しているものと考えられる。10基のピット内からは土器片が出土しているがピットを掘り込んだ際に紛れ込んだことも考えられ、出土遺物が即その時代を示すものとは考えにくい。

ピット内埋土は以下の８種類であるが、埋土ＣとＣ’は耕作土に類似しており、近世から現代の可能性が高いと考えられる。

なお、Ｅは埋土の未チェックで不明である。

Ａ　…黒褐色土（Hue 7.5YR 2/2）でやわらかい。ⅡＢ層に類似している。

Ａ’…黒褐色土（Hue 7.5YR 2/2）で固くしまる。ⅡＢ層に類似している。

Ｂ　…黒褐色土（Hue 7.5YR 2/2）に2～3㎜のにぶい褐色粒（Hue 7.5YR 5/4）が混じり、やわらかい。

Ｂ’…黒褐色土（Hue 7.5YR 2/2）に2～3㎜のにぶい褐色粒（Hue 7.5YR 5/4）が混じり、固くしまる。

Ｃ　…暗褐色土（Hue 7.5YR 3/3）に2～3㎜大の黒褐色粒（Hue 10YR 2/2）が多く混じり、やわらかい。ⅠＢ層に類似している。

Ｃ’…暗褐色土（Hue 7.5YR 3/3）に2～3㎜の黒褐色粒（Hue 10YR 2/2）が所々に混じり、固くしまる。ⅠＡ層に類似している。

Ｄ　…暗褐色土（Hue 7.5YR 3/3）でやわらかい。

Ｄ’…暗褐色土（Hue 7.5YR 3/3）で固くしまる。

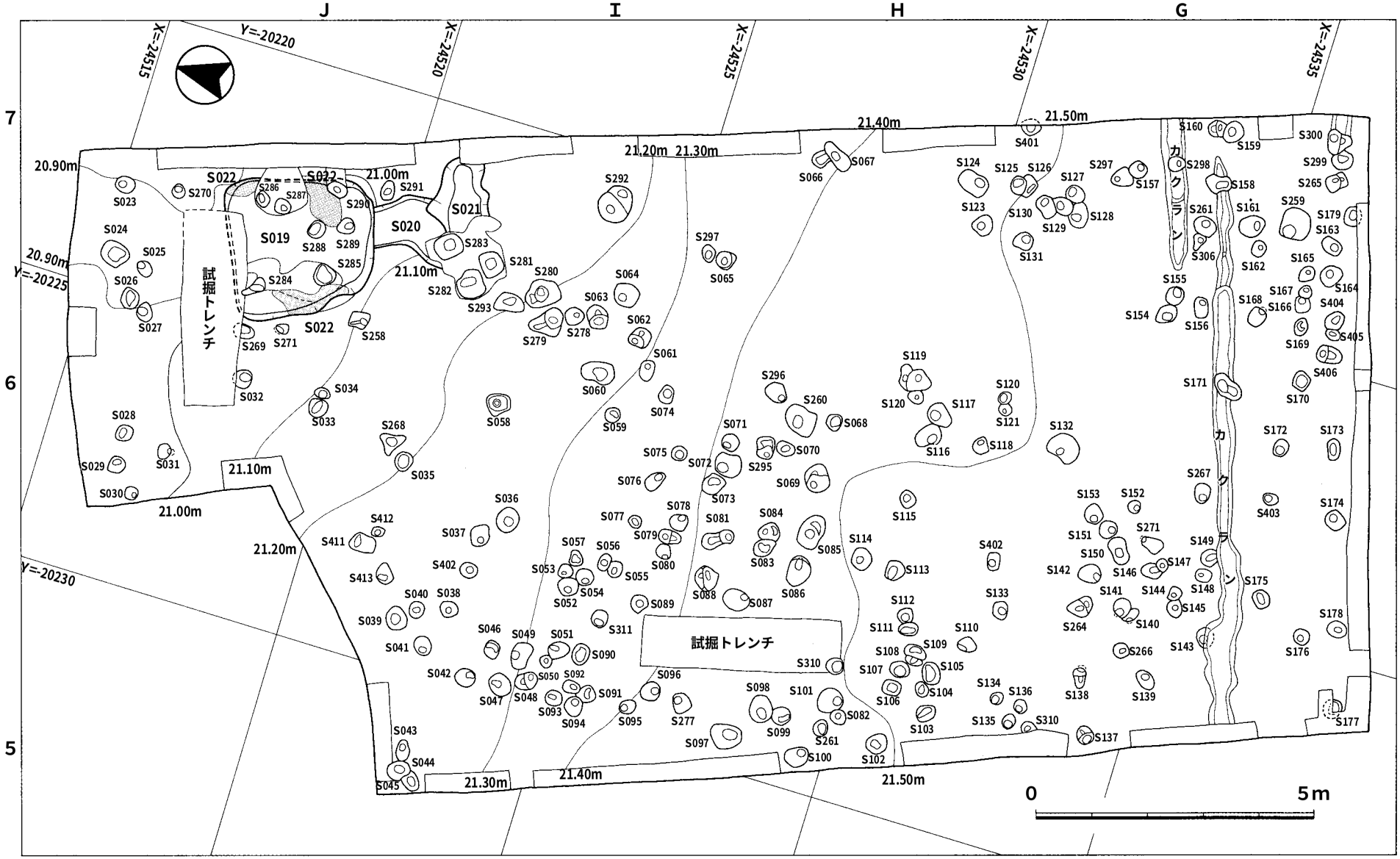
遺物が出土したピットは10基を数えるが、先述した様にこれらの遺物が時代性を決定付けるものではないので、参考資料として紹介する。(表13～18参照）内訳は縄文晩期土器片４，古代土師器片２、古代須恵器片１，不明土器片３である。ここでは５つの出土遺物について述べる。詳細は表10の観察表を参照していただきたい。

４は、S030から出土した古代の須恵器で長頸壺の胴部と考えられる。器面調整は内面が回転ナデ、外面が回転ナデ後ナデである。

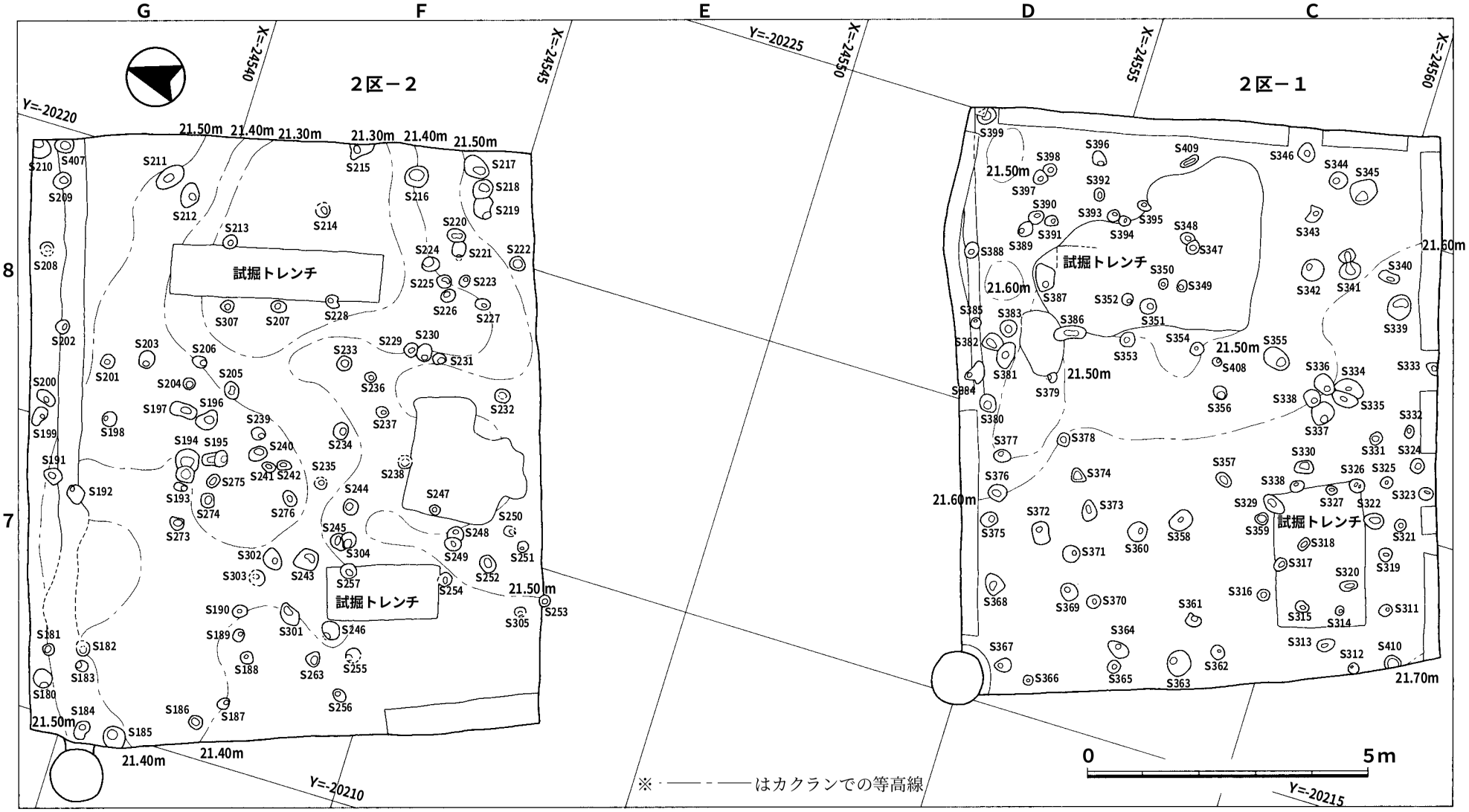
５は、S034（大きい土器片）とＫ－５グリッドの包含層ⅡＢ層から出土した土器片が接合したものである。器面調整は外面が条痕後磨きであるが内面が粗いナデである。縄文時代の黒色磨研土器様式に含まれる粗製深鉢形土器の胴部と考えられる。時期は縄文晩期と考えられる。

６は、Ｓ157から出土した鉢型の土器の口縁部である。口縁部に沈線が１条確認される。時期は不明である。

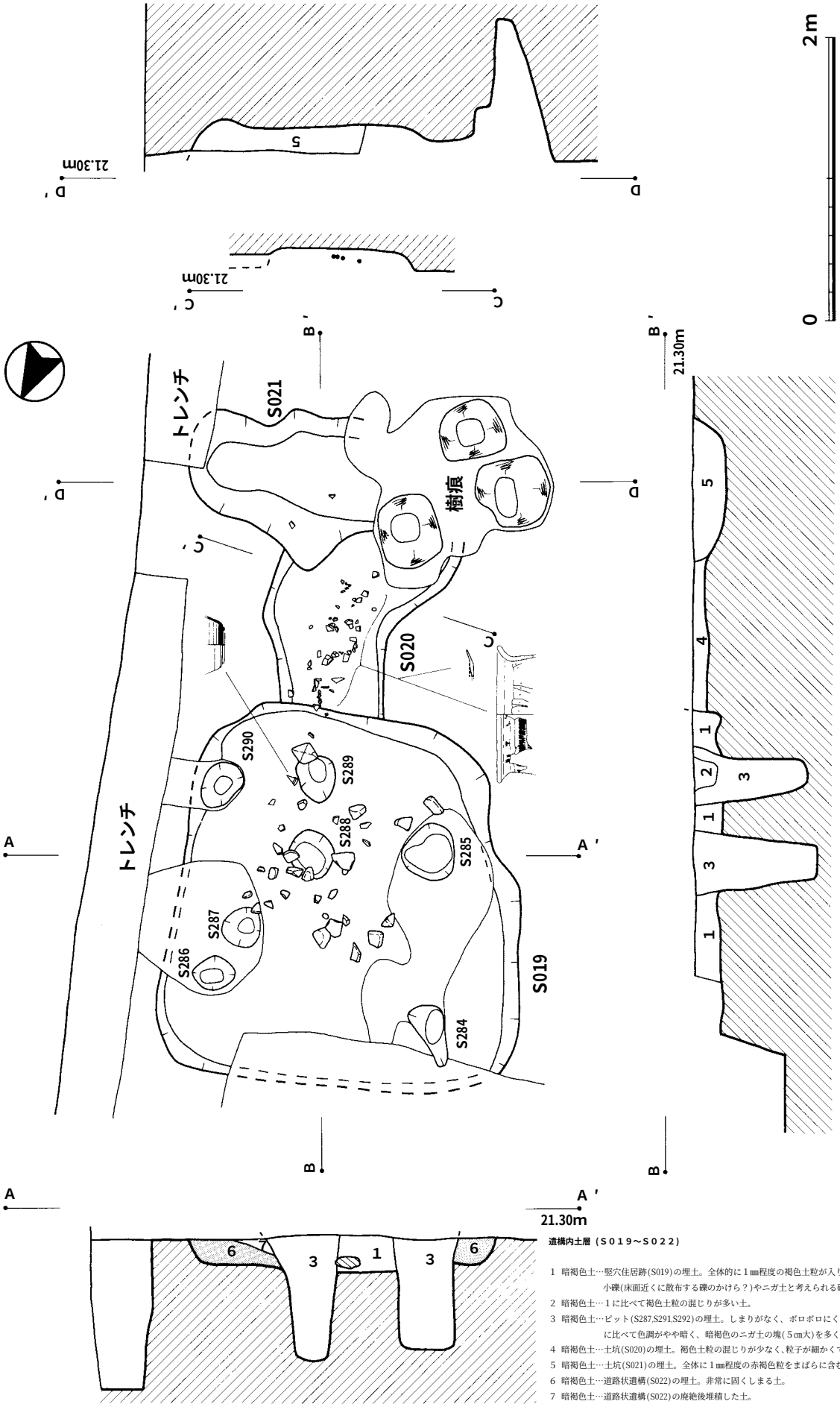
７は、Ｓ394から出土した縄文時代の黒色磨研土器様式に含まれる精製浅鉢形土器の口縁に近い屈曲部であると考えられる。器面調整は内外面とも丁寧



図(Fig)10　２区－３　遺構配置図　S=1/100



図(Fig)11　２区－１・２遺構配置図　S=1/100



図(Fig)12　竪穴住居跡（S019）・土坑（S020,S021）実測図　S=1/40

遺構内土層（S019～S022）

1 暗褐色土…竪穴住居跡(S019)の埋土。全体的に1㎜程度の褐色土粒が入り、ややしまる土。小礫(床面近くに散布する礫のかけら？)やニガ土と考えられる硬化層を多く含む。
2 暗褐色土…1に比べて褐色土粒の混じりが多い土。
3 暗褐色土…ピット(S287,S291,S292)の埋土。しまりがなく、ボロボロにくずれやすい土。1に比べて色調がやや暗く、暗褐色のニガ土の塊(5㎝大)を多く含む。
4 暗褐色土…土坑(S020)の埋土。褐色土粒の混じりが少なく、粒子が細かくてしまりがある土。
5 暗褐色土…土坑(S021)の埋土。全体に1㎜程度の赤褐色粒をまばらに含むしまりのない土。
6 暗褐色土…道路状遺構(S022)の埋土。非常に固くしまる土。
7 暗褐色土…道路状遺構(S022)の廃絶後堆積した土。

な磨きが施されており、外面の屈曲部下部に一条の沈線が確認される。土器内径のシリンダーの形状から推測すると口縁部は波状になると考えられる。波状単位は不明である。屈曲部上部から口唇部までは欠損しているので、詳細な形は不明だが、おそらく欠損部から内湾気味に直立するものと考えられる。調べた限りでは類例が無いのでいささか不安は残るが、波状の口縁に近い屈曲部（縄文晩期の浅鉢型土器）と考えられる資料として提示しておきたい。

２）土坑（S020、S021）

図12を見ると２つの土坑とそれらを切る樹痕の様子が窺える。真ん中の土坑はS020で幅77～130㎝、長さ130㎝以上、深さ約10㎝である。この土坑は別の土坑（S021）、竪穴住居跡（S019）や樹痕に切られている。出土している遺物は２と３の土師器である。

２は、土師器（古代）の皿の底部である。器面調整は、ローリングを受けており確認しにくいが、内外面ともに回転ナデ後ナデと考えられる。この調査区が南側から北側に落ち込んでいることから（図16,17参照）この土坑に伴う物ではなく、流れ込みの可能性が高い。出土ポイントとレベルは不明である。

３は、土師器（古代）の甕の口縁部である。復元口径は26.8㎝、器面調整は内面が回転ヘラケズリ後ケズリ、外面が刷毛目後回転ヘラケズリ，ナデを行っている。約40の土器片が出土しているうち、８片が接合した物で、口縁部から胴部の上部にかけてのものである。この遺物もややローリングを受けており、この遺構に伴うものではなく、流れ込みの可能性が高い。しかし、図12の断面Ｃ－Ｃ’を見ると土坑の底面より５～６㎝浮いた状態で出土しているので、この土坑が埋没し始めた頃に流れ込んだ物と考えられることからこの遺構との時間的な隔たりはあまりないと判断したい。この遺物の時期は８世紀前葉から９世紀中葉までの所産と考えられる。

S021はS020を切る形で存在する土坑である。幅70～115㎝、長さ130㎝以上、深さ15～20㎝である。出土遺物はS020で出土した土師器の甕の破片が２片だが、S021に関わる遺物ではなく、S020を切る際に混入したものと考えられ、その後樹の根が２つの土坑を切る形で成長したと考えられる。

３）竪穴住居跡（S019）

図12のS019は古代の竪穴住居跡であると考えられる。この遺構に伴う柱穴、竈の跡や明確な硬化面は検出されてはいないが隅丸方形のプランから竪穴住居跡だと考えた。１辺が約２～2.5mで深さが17～25㎝のややいびつなプランである。この住居からは大小の礫（約５～20㎝）と須恵器片５点と土師器の小片３点が出土した。

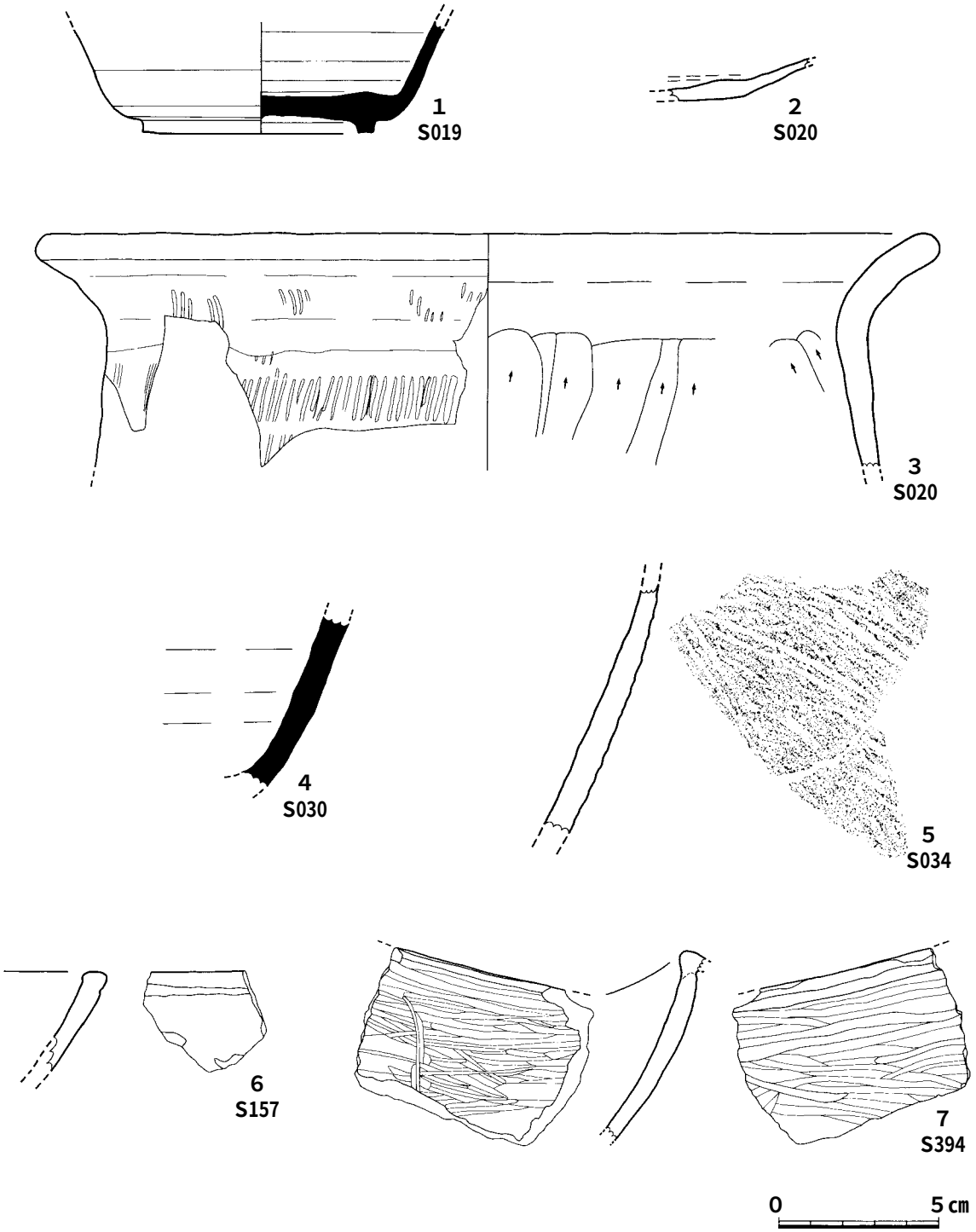
この遺構の埋土は１層のみで、暗褐色土である。全体的に1㎜程度の褐色土粒が入り、ややしまる埋土である。

１は、古代の須恵器で底部から胴部にかけての高台付きの坏である。５片が接合している。復元底径は7.2㎝、器面調整は、内面が回転ナデ後ナデ、外面が回転ナデ後ナデ、一部回転ヘラケズリを行っている。この資料はこの遺構に伴うものではなく、後から流れ込んだ可能性が高い。出土レベルが不明であるが、住居跡の底面から少し浮いた状態で出土しており、住居跡が埋没しないうちに流れ込んだものと考えられる。しかし、後述する道路状遺構の時期の可能性も否定できない。この遺物の時期は８世紀後葉から９世紀前葉の所産と考えられる。

またこの遺構には７つのピットが確認され、全て竪穴住居跡の後、そして後述する道路状遺構（S022）が廃絶された後に掘り込まれている。

４）道路状遺構（S022）

図12，14の網掛けの部分は道路状遺構だと考えられる。この硬化層が竪穴住居跡（S019）の硬化面だと考えにくい理由は住居プランの端に位置することと硬化層が18～20㎝と厚いからである。この遺構付近の旧地形は南側から北側へ落ち込んでおり（図16，17参照)、おそらく竪穴住居跡（S019）が廃絶された後に道路が形成され、窪地となった住居跡の中だけに道路の硬化層が残されたものと考えられる。また、硬化面がS019の床面から続いていることから住居が廃絶されて間もなく、道路として使用された可能性が高い。床面では、竪穴住居跡の硬化面との区別はつかなかった。周辺には他の硬化面は確認されなかった。更に、左右に２条あることから２つの道路状遺構の可能性も考えられるが、ここでは一



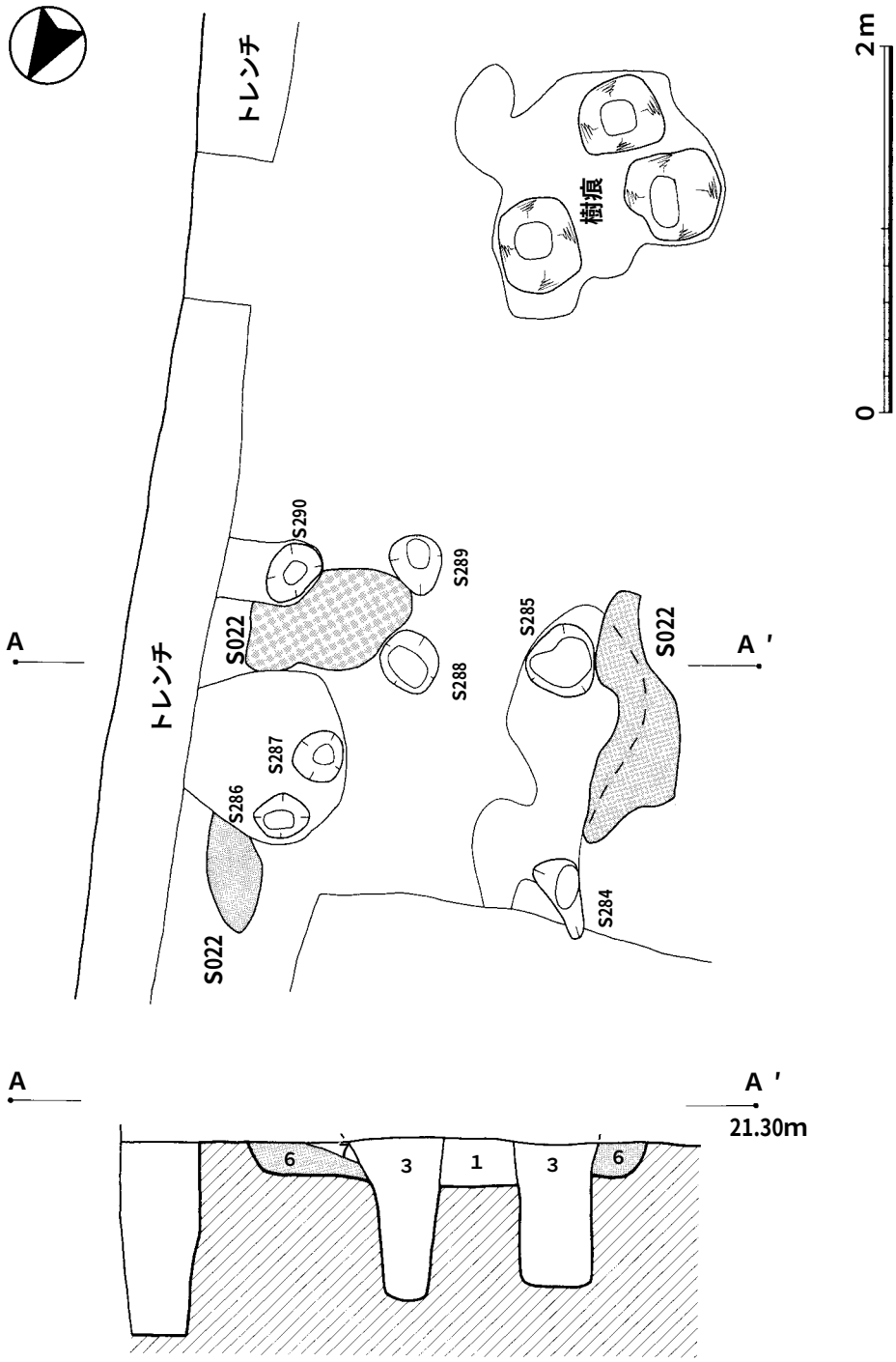
図(Fig)13　遺構内出土遺物実測図（１～７）　S=1/2

括してS022とした。

ここでS019～S022の新旧関係を考えてみたい。S020（土坑）が一番古く、それを切る形でS021（土坑）とS019（竪穴住居跡）が形成されているが、S021とS019の新旧関係は分からない。その後、間もなく、S022（道路状遺構）が形成された後、７つのピットが掘り込まれたと考えられる。これらの遺構の時期は不明だが、流れこみの可能性が高い遺物（１：８世紀後葉～９世紀前葉，２：８世紀前葉～９世紀中葉）から推測すると、９世紀代で押さえられる可能性が考えられる。

５）芋穴（S003～S018）と溝（S001,S002）

調査１区では16の芋穴と２つの溝が検出された。いずれも近世以降、おそらく近代から現代のものと考えられるが、この報告書では便宜上遺構として捉えた。

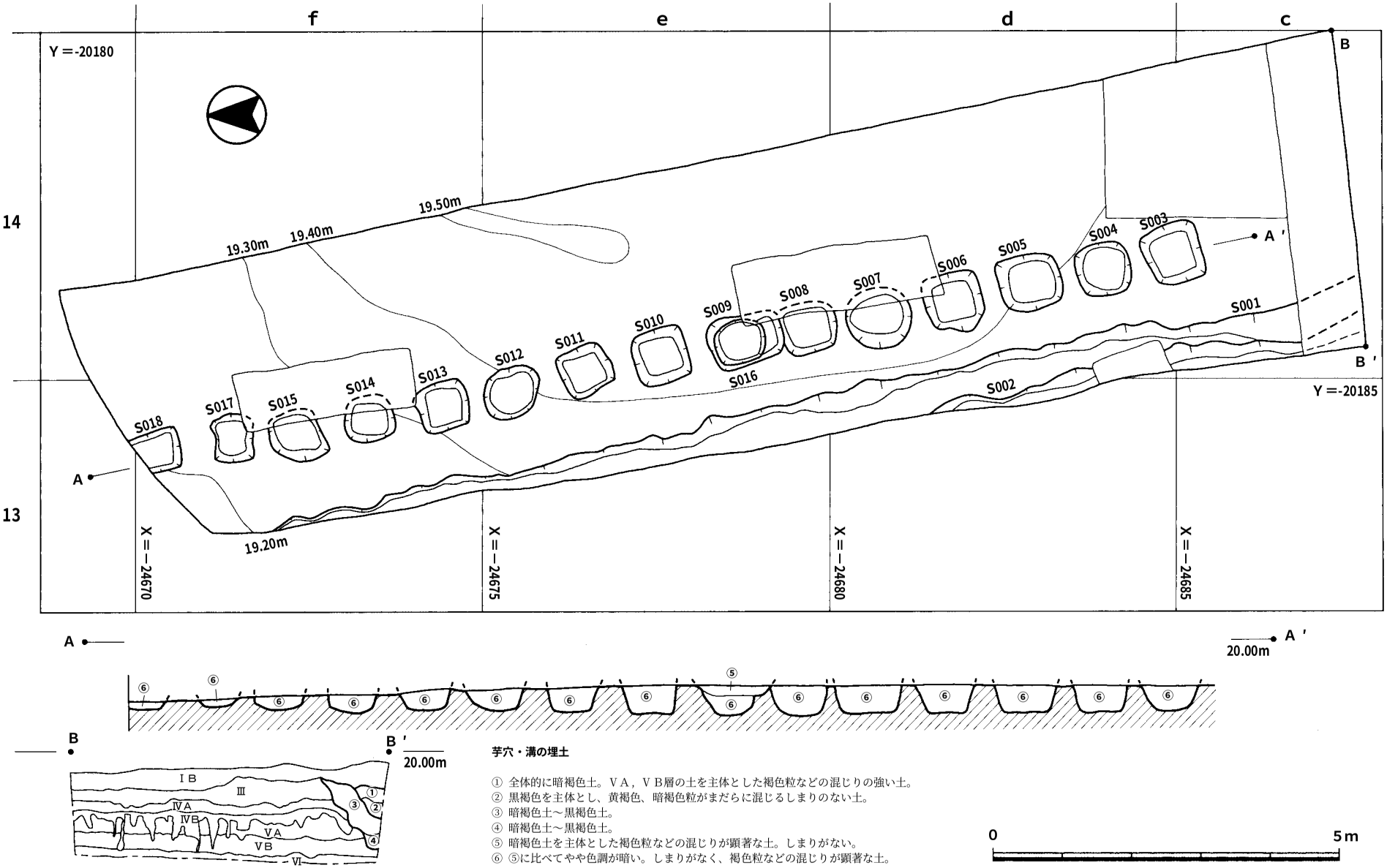


図(Fig)14　道路状遺構（S022）実測図　S=1/40

芋穴も溝も畑の隅につくられることが多く、特に溝は畑と畑の区画線になるようである。

芋穴は、１辺が約60～110㎝、深さ10～40㎝で形態が円形（S007)、隅丸方形（S003～S006，S008，S010～S017)、長方形（S009，S018）に分かれる。明治から昭和初期にかけての形態的変遷が円形→隅丸方形→長方形の順で変化する（島津義昭氏ご教示）ことを念頭に置くと、S016（隅丸方形）とS009（長方形）の切り合い関係から隅丸方形→長方形への変遷をたどることができる。埋土はS009（長方形）以外同じであった。

溝は、２つ確認されたが、調査区外に続くため、その全容はわからなかった。少なくともS001は幅１m以上、長さ16m以上、深さ約１mであり、S002は幅0.4m以上、長さ６m以上、深さ約0.45mである。新旧関係はS001→S002と捉えられる。埋土はいずれも２層に分層できた。



図(Fig)15　１区遺構配置図及び土層断面図　S=1/80

第２節　遺　物

この遺跡から出土した遺物は658点（表９参照）であり、そのほとんどが包含層であるⅡＢ層とⅡＣ層からの出土である。包含層は２区－３の21.4mラインより少し南側から北側にしか残存していなかった（図16，17参照）。また、旧地形が南側から北側に落ち込んでおり、流れ込みの可能性が高く、遺物の多くがローリングを受けていた。

以下に包含層や攪乱層から出土した主な遺物について簡単に述べてみたい。詳細は表10，11の観察表をご参照願いたい。

１　土器

１）縄文時代（凹線文系土器）(図18参照)

出土した72点の縄文土器片のうち、凹線文系土器と判断できるものは、１点のみである。

８は、深鉢形土器の口縁部と考えられる。１条の凹線をめぐらせており、口唇部につまみ出しと考えられる微隆起が見られる。滑石を含み、阿高系土器と考えられ、時期は縄文中～後期と考えられる。

２）縄文時代（沈線刺突文系土器）(図18参照)

出土した72点の縄文土器片のうち、沈線刺突文系土器と判断できるものは、１点のみである。

９は、棒状の施文具で沈線と刺突を繰り返して施文を行っている。おそらく口縁部近くの部位であろう。器面調整は、ローリングを受けているため、不明である。時期は縄文後期と考えられる。

３）縄文時代（磨消縄文系土器）(図18参照)

出土した72点の縄文土器片のうち、磨消縄文系土器と判断できるものは、１点のみである。

10は、内外面共に黒く、丁寧な磨研が行われており、黒色磨研土器様式の要素を持つ反面、外面には磨消縄文系土器の要素も見られる。精製の鉢形土器の口縁部と考えられる。口唇部にも縄目が残っている。時期は縄文後～晩期と考えられる。

4）縄文時代（黒色磨研土器様式）(図18参照)

出土した72点の縄文土器片のうち、残りの69点全てが黒色磨研系土器と考えられる。時期はほとんどが縄文晩期と考えられる。ここでは11点の土器片について述べることにする。

11は、口縁部に２条の沈線を巡らした口縁から胴部にかけての精製の浅鉢形土器である。内外面共に条痕後、丁寧な磨きが行われている。天城式土器の範疇で捉えられよう。復元口径は32.2㎝である。

12は、精製の深鉢形土器の口縁部と考えられる。

13,14は、精製の深鉢形土器の屈曲部より上部にあたると考えられる。いずれも１条の沈線を巡らせている。

15は、精製の深鉢形土器の口縁部付近と考えられる。

16は、精製の浅鉢形土器の屈曲部より胴部下部にあたると考えられる。外面に１条の沈線がある。

17～21は、粗製の深鉢形土器の胴部であると考えられ、内外面とも条痕後ナデ（18,21はナデのみ）の調整を施している。19～21は粘土の継ぎ目の部分で欠損している。

22は、内外面とも磨きが観察され、精製の鉢形土器の胴部と考えられる。同様に粘土の継ぎ目の部分で欠損している。

４）弥生時代後期（図19参照）

出土した658点の遺物のうち弥生土器と判断できるものは、２点である。

23は、弥生後期の壺の頸部であると考えられる。内外面ともハケ目が観察される。

５）古墳時代（図版19参照）

出土した658点の遺物のうち古墳時代の土師器と判断できるものは、30点である。

24は、５世紀代の土師器で、甕の一部と考えられる。

25は、４世紀代の土師器で、甕の胴部と考えられる。ⅡＣ層から出土した12片が接合しており、復元最大胴径が26.6㎝である。

26は、５世紀代の土師器で、小型の鉢の胴部と考えられる。

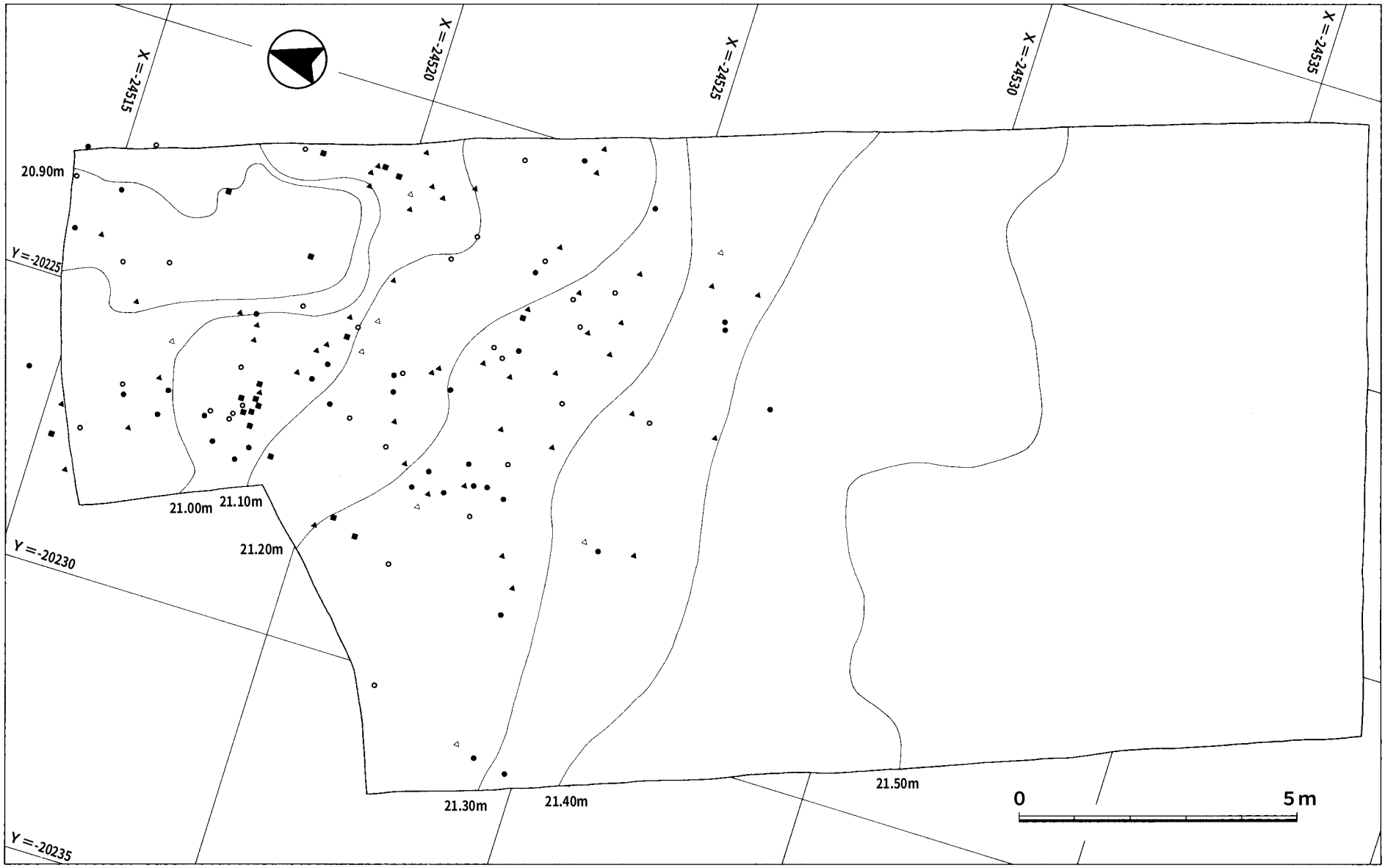
６）古代（図版20，21参照）

出土した658点の遺物のうち、半数以上の374点が古代の遺物である。

27は、土師器で甕の胴部と考えられる。

28,29は、土師器で坏の底部と考えられる。

図(Fig)16　２区－３遺物分布図（ⅡＢ層）　S=1/100



図(Fig)17　２区－３遺物分布図（ⅡＣ層）　S=1/100

30～32は、回転ヘラ磨きの土師器で坏の底部と考えられる。いずれも赤彩されている。元々は内外面とも全面に赤彩されていたと考えられるが、現段階では部分的にしか確認できない。これらは８世紀後葉から９世紀前葉の間につくられたと考えられる。

33は、回転ヘラ磨きの土師器で椀か坏の口縁部と考えられる。

34,35は、黒色土器の皿か坏の底部と考えられる。内外面とも黒色であり、A類に属する。

36,37は、須恵器で坏の蓋の口縁部と考えられる。

38,39は、須恵器で高台付きの坏の高台部と考えられる。

40は、須恵器で坏の口縁部から胴部と考えられる。

41は、須恵器で坏の胴部と考えられる。

42は、須恵器で坏の底部と考えられる。高台はついていない。

43は、須恵器で坏の口縁部と考えられる。

44は、須恵器で甕か壺の口縁部と考えられる。調整の段階で口唇部をつまんだ時にできたと考えられるへこみとその下につまみ出しによる突出部がある。

45～47は、須恵器で甕の胴部と考えられる。

48は、緑釉陶器で、香炉の身の一部と考えられる。透かしの一部が残存している。内側は円形、外側は直線をなしていることから、内側が円、外側が方形の特殊な香炉だと考えられる。京都の洛北で９世紀前半ごろに作られたことがわかった。ここではあえて復元想像図を試みた。(図１参照)

７）中世（図22参照）

出土した658点の遺物のうち中世のものと判断できるものは３点のみである。

49は、須恵器で、甕の胴部と考えられる。外面は格子叩きで内面は刷毛目の調整である。

50,51は、青磁で碗の口縁部と考えられる。50は、蓮弁文が僅かに観察できる。いずれも中国の龍泉窯系青磁と考えられる。

８）近世以降（図22参照）

出土した658点の遺物のうち、近世以降の遺物は７点である。

52は、白磁の磁器で紅皿である。18世紀末から幕末頃に肥前で焼かれたものと考えられる。

53は、土人形あるいは畑人形とよばれているものである。恵比寿大黒を模してある。一般的に人

	ⅡＢ層	ⅡＣ層	遺　構	一　括	撹　乱	１区の合計	遺　構	撹　乱	２区の合計	総　計
縄文土器（中～晩期）	16	39	5	10	0	70	1	1	2	72
弥生土器（後期）	1	1	0	0	0	2	0	0	0	2
古墳時代の土師器	9	19	0	2	0	30	0	0	0	30
古代の土師器	178	54	45	15	3	295	20	10	30	325
古代の須恵器	30	4	3	0	0	37	5	3	8	45
古代の黒色土器	2	1	0	0	0	3	0	0	0	3
古代の緑釉陶器	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1
中世の須恵器	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1
中世の青磁	2	0	0	0	0	2	0	0	0	2
石器（縄文～弥生時代？）	4	8	0	2	0	14	1	2	3	17
近世以降の陶磁器など	0	0	0	2	1	3	3	1	4	7
不明の土器	89	31	4	25	1	150	1	2	3	153
合　　計	332	157	57	57	5	608	31	19	50	658

表(Tab)９　出土遺物の層別個数一覧表

物や仏などの像、蕪や大根などの野菜、お城などの建物をかたどった物などが見られ、いずれも粘土を型に入れ整形した後に素焼きしたものでちょうど胎土の色調が土師器に似ている。裏側は型押し整形のために指紋や指頭圧痕が残っている。

諸説あるが、畑にまいて豊穣を願ったという説が有力のようである。

２　石器（図23，24参照）

出土した658点の遺物のうち17点が石器である。図23・24に図示した11点の石器以外は全て剥片・砕片類である。

１は、西北九州産黒曜石と考えられる打製石鏃である。裏面に剥片獲得の際のネガティブな剥離面を残しており、基部を一部欠損している。

２は、西北九州産黒曜石と考えられる打製石鏃である。完形である。

３は、安山岩製の打製石鏃である。この石材は表面がやや白く風化するが、質はかなり良質である。基部や先端がかなり尖っている。完形である。

４は、風化の激しい安山岩製の打製石鏃である。裏面に剥片獲得の際の剥離面を大きく残しており、先端部から基部にかけて一部欠損している。

５は、チャート製の打製石鏃である。基部を一部欠損している。

６は、安山岩製の打製石鏃である。先端部の上半分を欠損している。

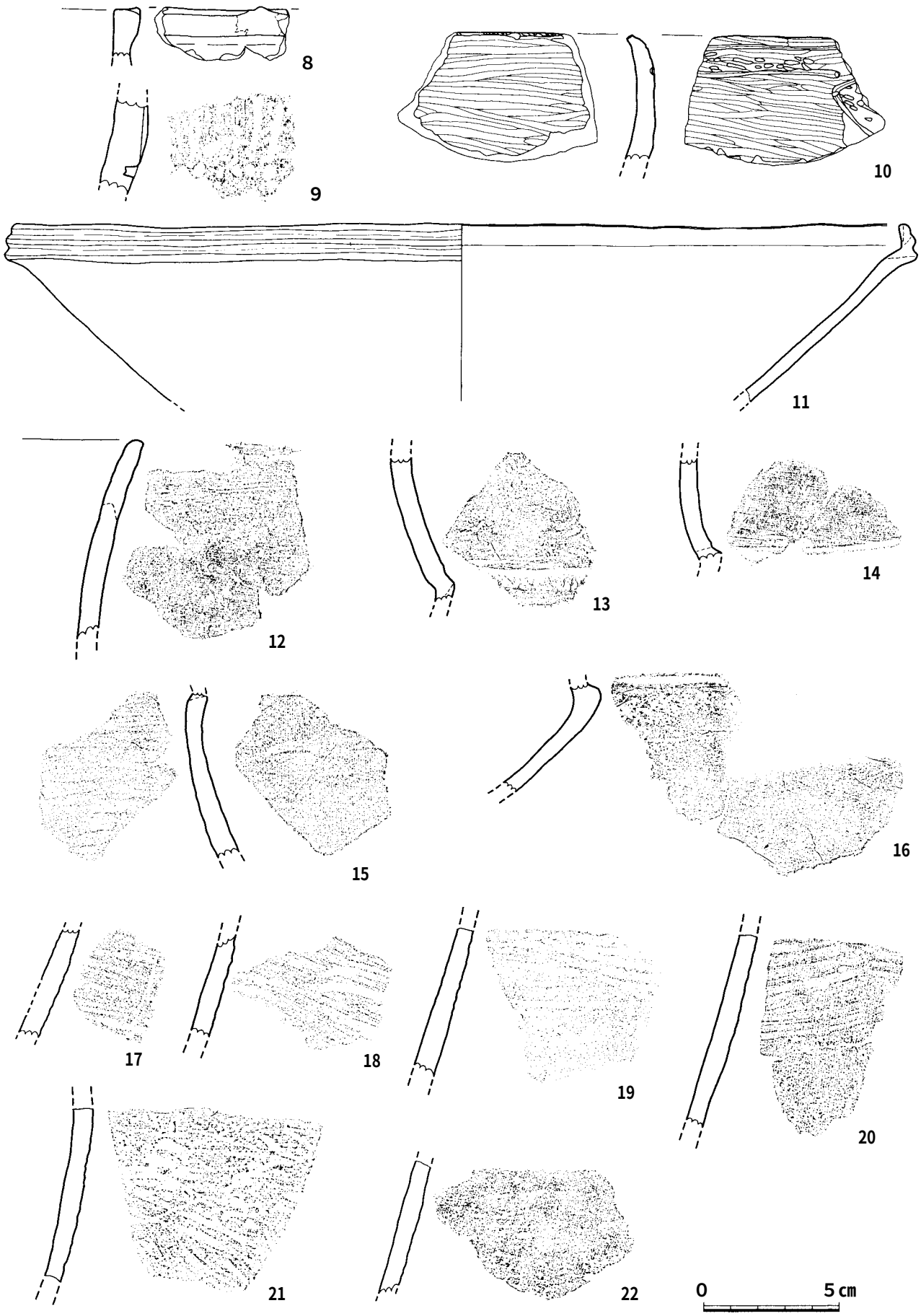
７は、砂岩製の磨製石斧である。基部のみが残っている。縄文時代のものと考えられる。

８は、砂岩製の磨製石斧である。基部のみが残っている。敲打痕跡がほぼ全面にみられる。弥生時代の太型蛤刃石斧の可能性が高いが、縄文時代後・晩期の可能性も否定できない。

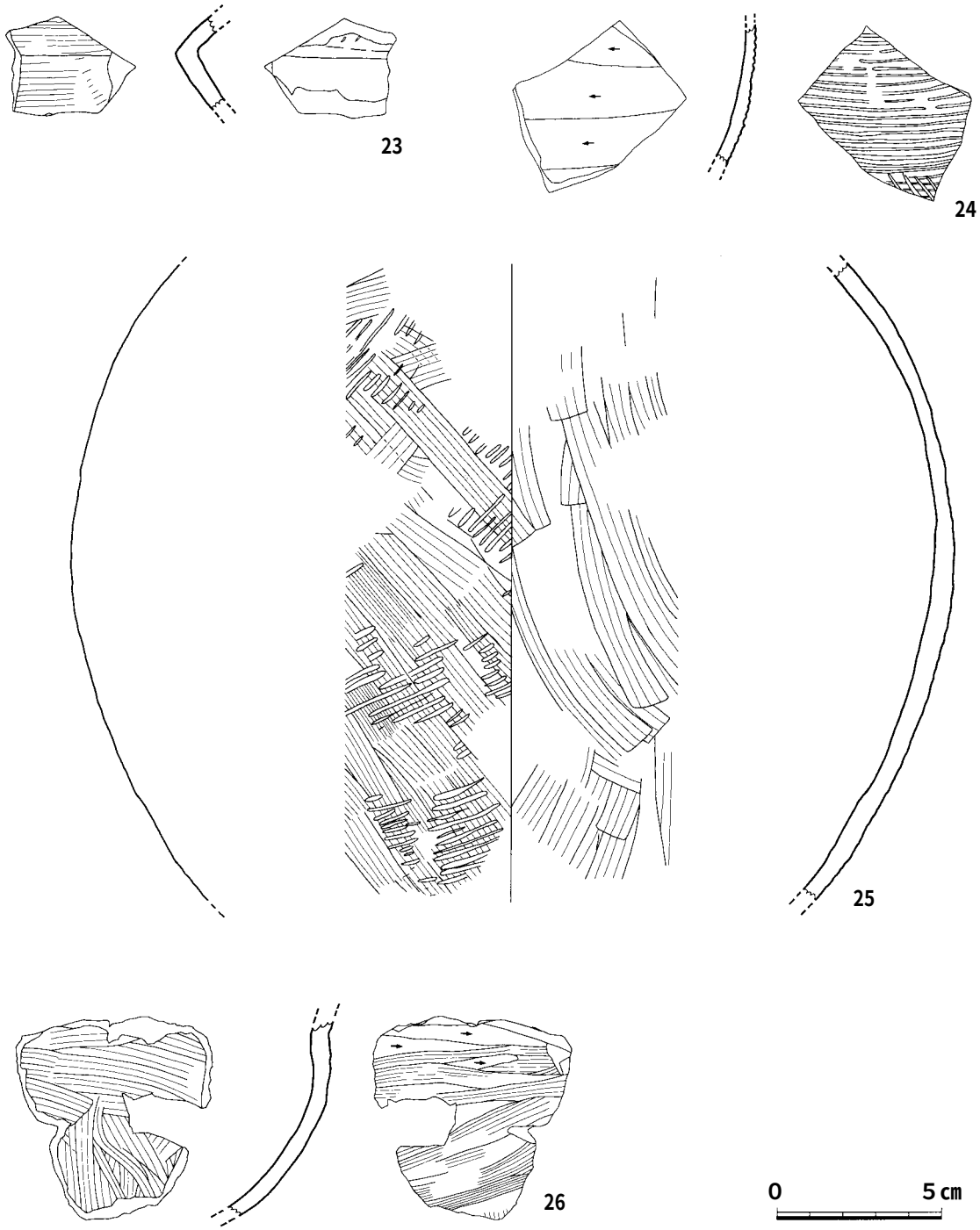
９は、砂岩製の凹石である。表面、裏面ともに２つずつの窪みがある。表面がかなり風化している。

10は、砂岩製の磨り石である。約1／2ほど欠損している。磨り痕跡が残存部全面にみられる。

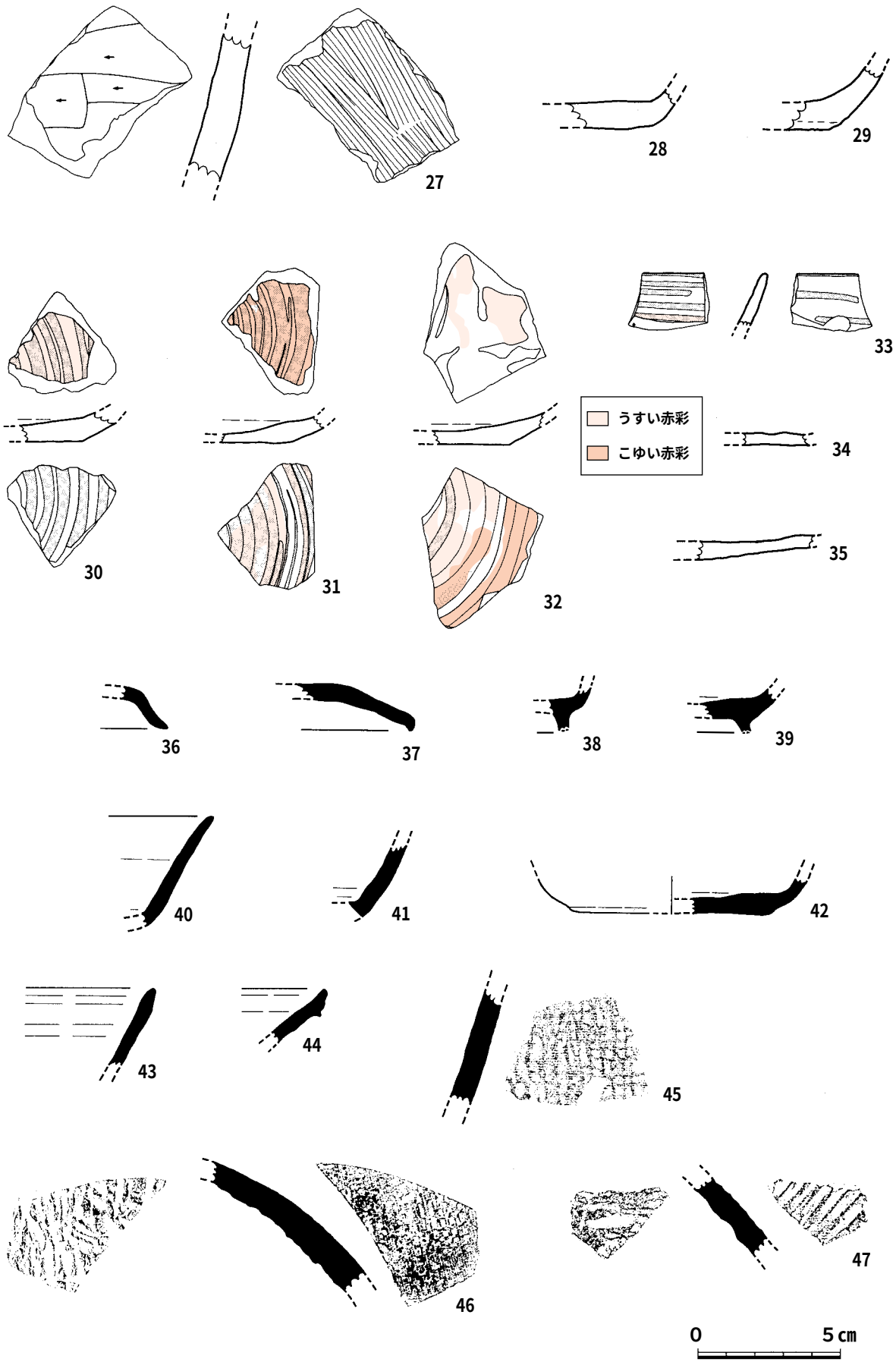
11は、砂岩製の石皿と考えられる。表面と側面の一部に磨り痕跡が認められるが、その大半が欠損している。



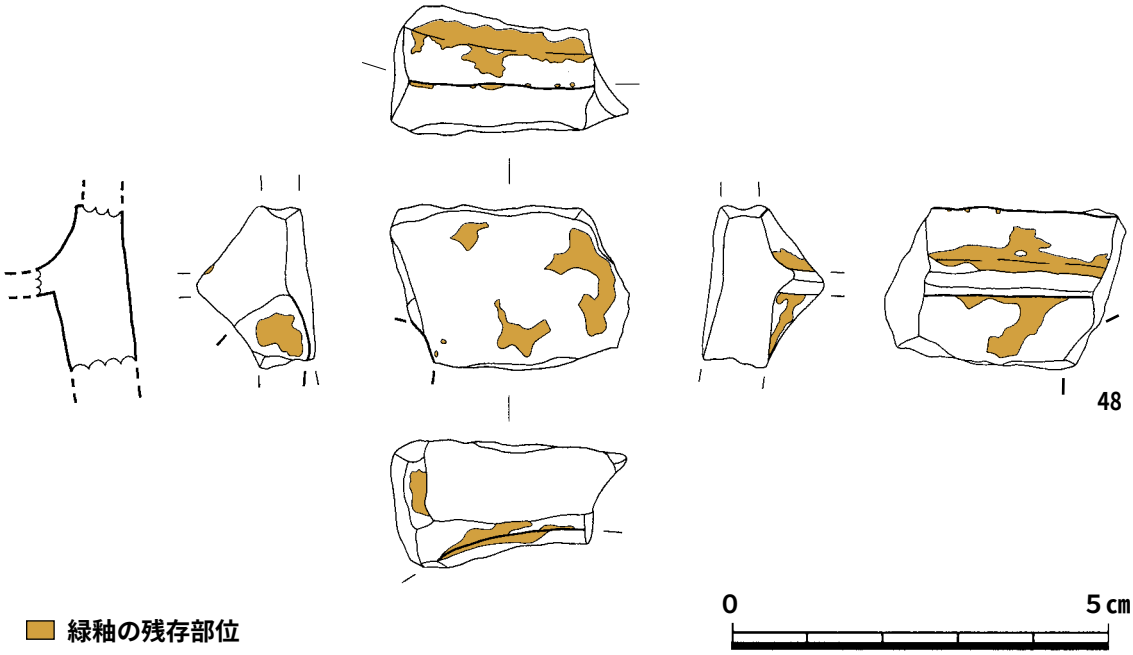
図(Fig)18　出土遺物実測図　縄文（８：凹線文系土器、９：沈線刺突文系土器、10：磨消縄文系土器、11～22：黒色磨研土器様式）　S=1/2



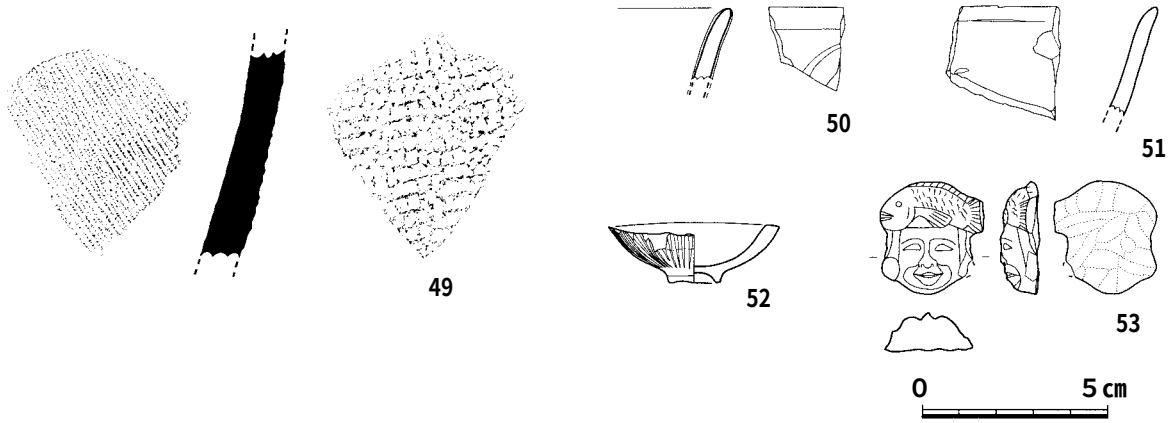
図(Fig)19　出土遺物実測図（23：弥生後期、24～26：古墳）　S=1/2



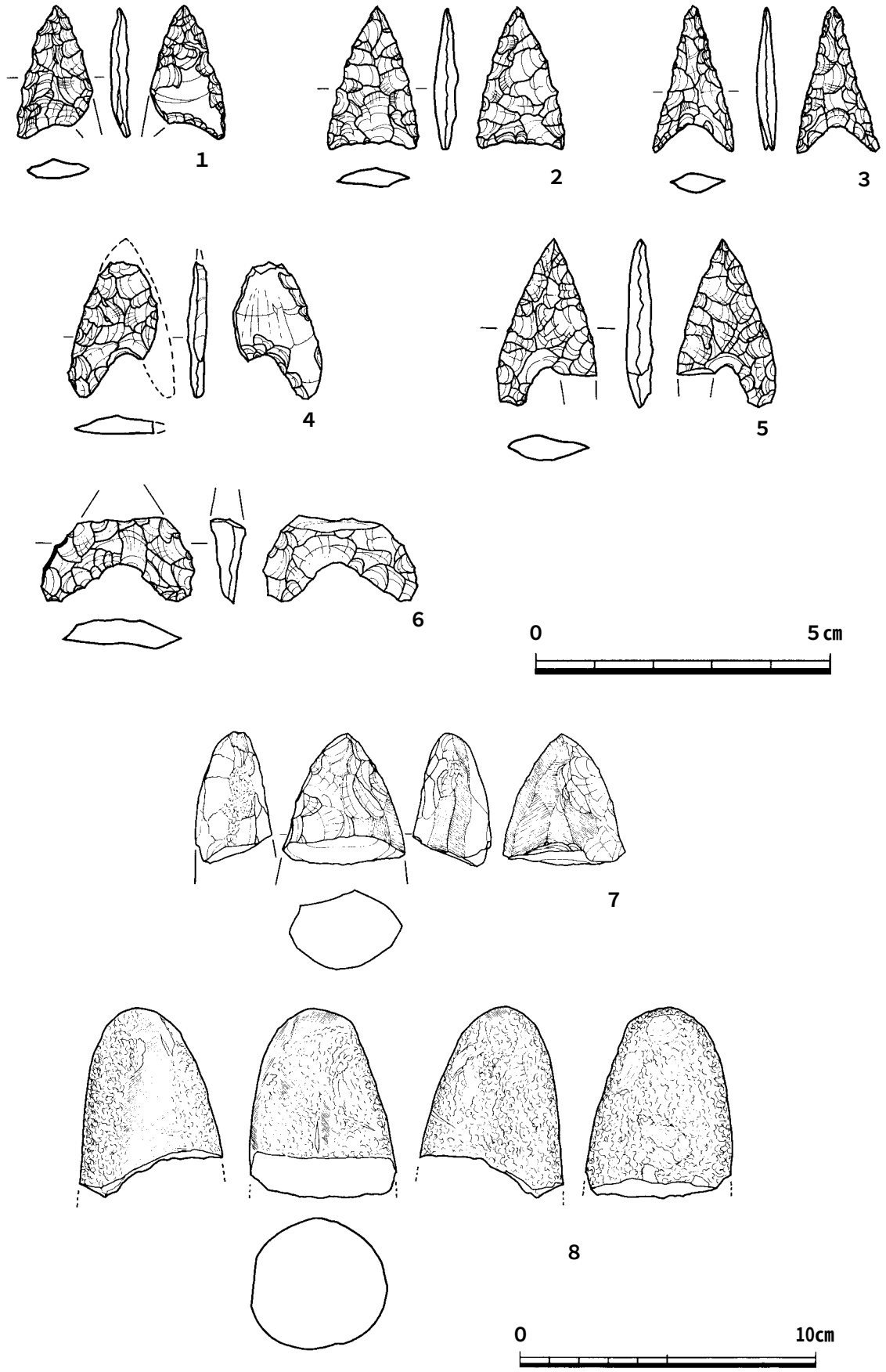
図(Fig)20　出土遺物実測図　古代（27～33：土師器、34,35：黒色土器Ａ、36～47：須恵器）　S=1/2



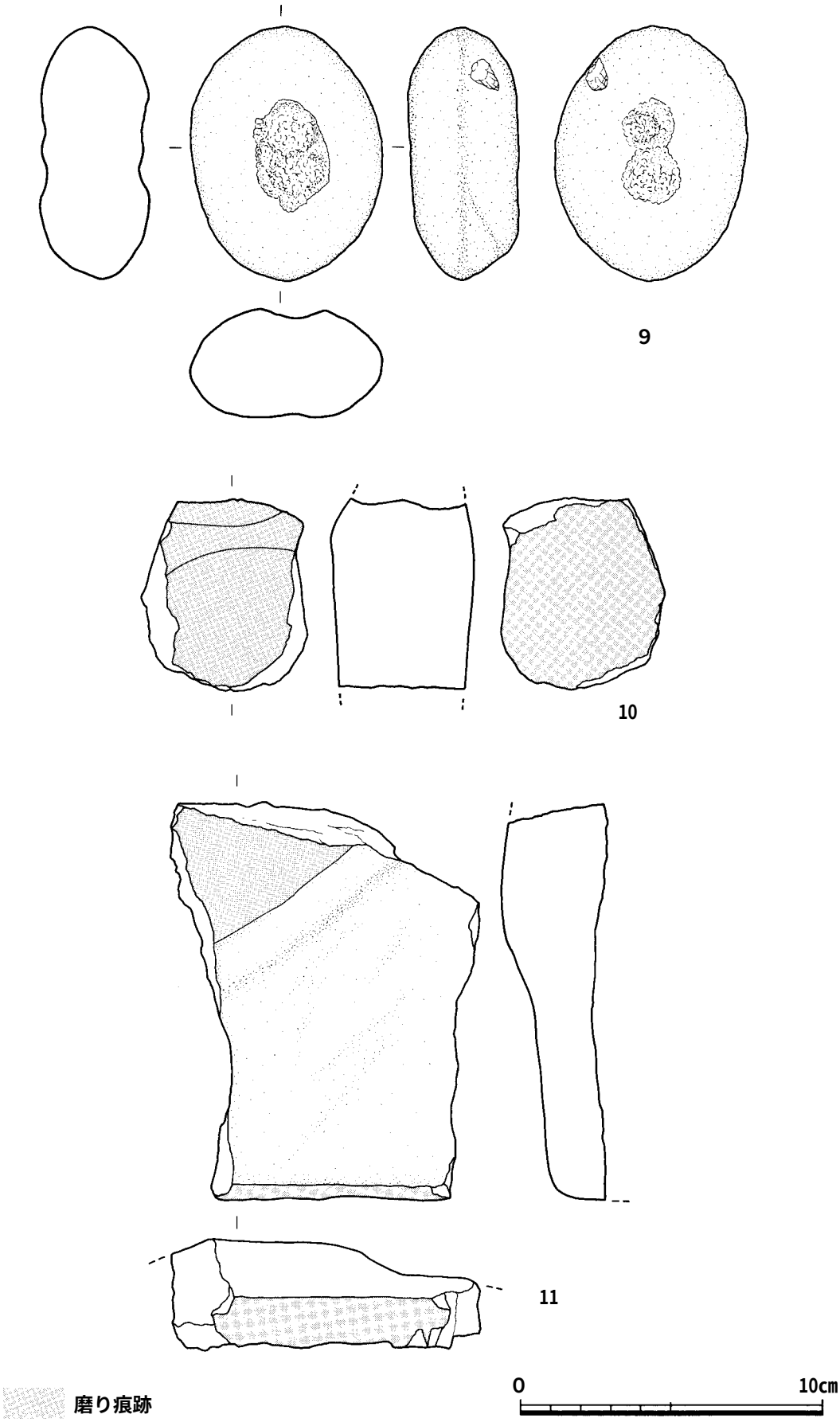
図(Fig)21　出土遺物実測図　古代（48：緑釉陶器ー香炉）　S=1/1



図(Fig)22　出土遺物実測図　中世(49：須恵器、50,51：青磁)・近世以降(52：磁器、53：土人形）S=1/2



図(Fig)23　出土石器実測図（１～６：打製石族、７,８：磨製石斧）　S=1/1，1/2



図(Fig)24　出土石器実測図（９：凹石、10：磨り石、11：石皿）　S=1/2

図版番号	遺物番号	種　別	器種及び残存部位	口底径(cm)	残存高(cm)	調整（内面）	調整（外面）	色調（内面）	色調（外面）	胎　　土	焼成	備考	出土地点	層	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)
13	1	須恵器	坏・底部	7.2	3.5	回転ナデ後ナデ	回転ナデ後ナデ、回転ヘラケズリ	黄灰（2.5Y6/1）	灰黄（2.5Y6/2）	細粒を稀	良好	高台付	S019	ⅡB	-24522.88	-20220.44	21.369
13	2	土師器	皿・底部		1.2	回転ナデ後ナデ	回転ナデ後ナデ	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙(7.5YR8/6)	砂粒を少量	普通		S020	ⅡB	-24521.73	-20222.90	21.415
13	3	土師器	甕・口縁	(26.8)	7.2	回転ヘラケズリ後ケズリ	刷毛目後回転ヘラケズリ、ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	角閃石、輝石、石英、赤色酸化粒、細粒を少量	普通		S020	ⅡB	-24522.88	-20220.44	21.369
13	4	須恵器	壺？・胴部		5.5	回転ナデ	回転ナデ後ナデ	灰（5Y5/1）	灰（5Y5/1）	細粒をわずか	良好		S030	ⅡB	-24516.80	-20228.20	20.421
13	5	縄文土器	深鉢？・胴部		7.7	ナデ	条痕後磨き	にぶい橙(7.5YR6/4)	灰褐（7.5YR4/2）	角閃石、輝石、石英、長石、赤色酸化粒をやや多く	普通		S034,K-5	ⅡB	-24519.16	-20225.92	21.306
13	6	土師器？	鉢？・口縁		3.1	刷毛目後ナデ	ナデ、沈線１条	にぶい赤褐(5YR5/4)	橙（5YR6/6）	角閃石、輝石、長石、赤色酸化粒、金雲母、小石を少量	良好		S157	ⅡB	-24532.38	-20217.53	21.316
13	7	縄文土器	鉢・波状口縁		5.9	磨き	磨き、沈線１条	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	角閃石、輝石、石英、赤色酸化粒を少量	良好	煤付着	S394	―	-24550.40	-20211.10	21.054
18	8	縄文土器	深鉢・口縁		1.8	ナデ	ナデ、凹線１条	暗赤褐（5YR3/6）	赤褐（2.5YR4/6）	石英、長石、滑石、砂粒	良好		J-5	ⅡC	-24522.22	-20226.63	21.313
18	9	縄文土器	鉢・口縁付近		3.3	ナデ	ナデ、刺突、縦の沈線	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	角閃石、輝石、石英を少量	良好		J-6	ⅡB	-24522.39	-20222.62	21.436
18	10	縄文土器	浅鉢・口縁		4.6	磨き	磨き、刺突、沈線、撚糸	灰黄褐（10YR4/2）	黒（10YR1.7/1）	角閃石、輝石、石英、赤色酸化粒を少量	良好		I-6	ⅡC	-24522.88	-20220.22	21.305
18	11	縄文土器	浅鉢・口縁	(32.2)	6.5	条痕後ナデ	条痕後磨き、凹線２条	赤褐（5YR4/6）	明赤褐（5YR5/6）	角閃石、輝石、石英	良好		I-6,J-6	ⅡC	-24526.19	-20222.26	21.516
18	12	縄文土器	深鉢・口縁		7.3	条痕後磨き、ナデ	条痕後ナデ、磨き	にぶい黄橙(10YR6/3)	灰黄褐（10YR5/2）	角閃石、輝石、石英、長石、赤色酸化粒、砂粒	普通		K-5	ⅡC	-24518.70	-20226.88	21.160
18	13	縄文土器	深鉢・胴部		5.3	磨き	磨き、沈線１条	赤褐（2.5YR4/6）	明赤褐（2.5YR5/6）	角閃石、輝石、石英、長石	良好		J-5	ⅡC	-24523.89	-20228.37	21.459
18	14	縄文土器	深鉢・胴部		3.8	条痕後ナデ、磨き	磨き、沈線１条	にぶい黄橙(10YR6/3)	灰黄褐（10YR4/2）	角閃石、輝石、石英	普通		J-5	ⅡC	-24522.57	-20226.17	20.924
18	15	縄文土器	深鉢・口縁		6.1	条痕後ナデ、磨き	磨き	灰黄褐（10YR4/2）	にぶい黄橙(10YR7/4)	角閃石、輝石、石英、長石、赤色酸化粒	普通		表土	一括	―	―	―
18	16	縄文土器	浅鉢・胴部		4.1	条痕後ナデ	条痕後ナデ、凹線	灰黄褐（10YR4/2）	にぶい黄橙(10YR6/4)	輝石、石英、長石を少量	普通		J-5,J-6	ⅡC	-24522.85	-20225.00	21.362
18	17	縄文土器	深鉢？・胴部		3.9	条痕後ナデ	条痕後ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/4)	角閃石、輝石、長石、砂粒	普通		K-6	ⅡB	-24515.57	-20223.43	21.292
18	18	縄文土器	深鉢？・胴部		3.8	ナデ	条痕後ナデ	橙（7.5YR6/6）	にぶい橙(7.5YR6/4)	角閃石、輝石、石英、長石をやや多く	普通		J-5	ⅡC	-24520.82	-20225.20	21.315
18	19	縄文土器	深鉢？・胴部		5.4	条痕後ナデ、磨き	条痕後ナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	暗褐（7.5YR3/3）	角閃石、輝石、石英、小石を少量	良好		表土	一括	―	―	―
18	20	縄文土器	深鉢？・胴部		7.1	条痕後ナデ	条痕後ナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	灰黄褐（10YR5/2）	角閃石、輝石、石英、小石を少量	良好		J-5	ⅡB	-24524.95	-20227.67	21.454
18	21	縄文土器	深鉢？・胴部		6.4	ナデ	条痕後ナデ	橙(7.5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	角閃石、輝石、石英、長石をやや多く	普通	凝口縁	K-5	ⅡC	-24519.63	-20225.05	21.333
18	22	縄文土器	深鉢？・胴部		4.9	ナデ後磨き	磨き	にぶい黄褐(10YR5/3)	橙（7.5YR7/6）	角閃石、輝石、石英、長石、赤色酸化粒	良好		K-5	ⅡC	-24514.53	-20226.64	21.054
19	23	弥生土器	壺・頸部		2.9	刷毛目後ナデ	刷毛目	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	角閃石、石英、長石、細粒	良好		K-5	ⅡB	-24515.38	-20226.62	21.167
19	24	土師器	甕・胴部		4.3	板削り後ナデ	刷毛目	橙（7.5YR6/6）	にぶい褐(7.5YR5/3)	角閃石、輝石、石英、長石、金雲母、細粒	良好		K-6	ⅡC	-24519.37	-20221.38	21.247
19	25	土師器	甕・胴部		19.2	ヘラケズリ	平行叩き後刷毛目	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい褐(7.5YR5/4)	輝石、石英、赤色酸化粒、細粒を少量	普通		K-5	ⅡC	-24518.70	-20226.19	21.293
19	26	土師器	小型鉢・胴部		5.8	刷毛目後ナデ	刷毛目後ナデ	橙(5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	角閃石、石英、長石、赤色酸化粒、細粒	普通	煤付着	K-6	ⅡC	-24519.90	-20224.29	21.259
20	27	土師器	甕？・胴部		5.2	削り後ナデ	刷毛目	にぶい橙(7.5YR7/4)	明褐（7.5YR5/6）	輝石、石英、赤色酸化粒、細粒	良好	煤付着	J-6	ⅡC	-24520.13	-20222.00	21.302
20	28	土師器	坏・底部		1.4	器面荒れている	器面荒れている	橙（5YR7/8）	橙（5YR7/6）	角閃石、輝石、石英、長石、赤色酸化粒、砂粒	普通	炭化物付着	K-6	混入	-24518.33	-20222.71	21.176
20	29	土師器	坏・底部		2.3	磨き	ナデ	褐灰（10YR4/1）	橙（7.5YR6/6）	角閃石、石英、長石、赤色酸化粒細粒	普通		J-5	ⅡB	-24522.24	-20225.34	21.382
20	30	土師器	坏・底部		1.0	回転ヘラミガキ	回転ヘラミガキ	橙（5YR6/6）	にぶい橙(7.5YR7/4)	長石、細粒を稀	良好	赤　彩	J-6	ⅡC	-24520.66	-20221.62	21.299
20	31	土師器	坏・底部		1.0	回転ヘラミガキ	回転ヘラミガキ	明赤褐（2.5YR5/6）	橙（5YR6/6）	長石、赤色酸化粒を稀、極少の金雲母	良好	赤　彩	K-5	ⅡB	-24518.07	-20227.80	21.252
20	32	土師器	坏・底部		1.1	回転ヘラミガキ	回転ヘラミガキ	明赤褐（5YR5/6）	明赤褐（2.5YR5/8）	石英、長石、赤色酸化粒を少、極少の金雲母やや多く	普通	赤　彩	K-5	ⅡB	-24516.00	-20227.54	21.244
20	33	土師器	坏・口縁		1.8	回転ナデ後回転ヘラミガキ	回転ナデ後回転ヘラミガキ	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	金雲母、細粒をわずか	良好	赤　彩	J-5	ⅡC	-24520.21	-20227.84	21.212
20	34	黒色土器Ａ	皿・底部		0.5	回転ナデ後ナデ、磨き	回転ヘラケズリ後ナデ	暗灰（N3/0）	暗灰（N3/0）	角閃石、輝石をわずか	良好		K-5	ⅡC	-24516.40	-20227.28	21.217
20	35	黒色土器Ａ	皿・底部		0.9	回転ナデ後ナデ、磨き	回転ヘラケズリ後ナデ	暗灰（N3/0）	灰（5Y4/1）	角閃石、石英、細粒をわずか	良好		K-5	ⅡC	-24516.00	-20225.00	21.299
20	36	須恵器	坏・蓋		1.5	回転ナデ	回転ナデ	暗褐（7.5YR3/3）	黄灰（2.5Y6/1）	細粒を稀	良好	自然釉	K-6	ⅡB	-24519.60	-20223.40	21.378
20	37	須恵器	坏・蓋		1.6	回転ナデ	回転ナデ後ナデ	灰黄（2.5Y6/2）	暗灰黄（2.5Y5/2）	角閃石、輝石、細粒をわずか	普通		K-5	ⅡB	-24516.75	-20228.33	21.299
20	38	須恵器	坏・底部		1.5	回転ナデ後ナデ	回転ナデ後ナデ	浅黄（2.5Y7/3）	灰黄褐（10YR4/2）	角閃石、輝石、石英、細粒	良好	高台付	１区	一括	―	―	―
20	39	須恵器	坏・底部		1.5	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄(2.5Y6/3)	灰（5Y6/1）	長石、細粒を稀	普通	高台付	I-5	ⅡB	-24525.50	-20225.38	21.487
20	40	須恵器	坏・口縁		3.9	回転ナデ	回転ナデ後ナデ	灰黄（2.5Y6/2）	灰黄（2.5Y6/2）	角閃石、輝石、細粒を稀	良好		K-6	ⅡB	-24516.17	-20224.41	21.220
20	41	須恵器	坏・胴部		2.5	回転ナデ	回転ナデ後ナデ	灰黄（2.5Y7/2）	灰黄（2.5Y7/2）	角閃石、細粒をわずか	普通		K-5	ⅡB	-24519.00	-20225.87	21.300
20	42	須恵器	坏・底部	(6.4)	1.3	回転ナデ後ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰黄（2.5Y6/2）	灰（5Y5/1）	輝石、石英、長石、赤色酸化粒を少量	良好		K-5	ⅡB	-24515.94	-20228.42	21.247
20	43	須恵器	坏？・口縁		2.7	回転ナデ	回転ナデ	灰黄（2.5Y6/2）	灰黄（2.5Y6/2）	輝石、細粒をわずか	良好		S009	―	-24680.22	-20184.90	21.539
20	44	須恵器	壺？・口縁		1.9	回転ナデ	回転ナデ	灰黄（2.5Y6/2）	灰黄（2.5Y6/2）	細粒	普通		K-6	ⅡB	-24518.83	-20223.79	21.265
20	45	須恵器	甕・胴部		4.0	平行叩き後ナデ	平行叩き後ナデ	灰黄褐（10YR4/2）	暗灰（N3/0）	細粒を稀	良好		I-5	―	―	―	―
20	46	須恵器	甕・胴部		4.5	同心円文・平行叩き	格子叩き	褐（7.5YR4/3）	灰（N5/0）	細粒を稀	良好	自然釉	J-5	ⅡC	-24522.58	-20226.42	21.069
20	47	須恵器	甕・胴部		2.8	同心円文叩き	平行叩き	黄灰（2.5Y5/1）	釉 極暗赤褐(5YR2/4)	細粒をわずか	良好	自然釉	K-5	ⅡB	-24516.58	-20226.64	21.270
21	48	緑釉陶器	香炉・身		2.2	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（7.5YR8/4）	輝石、赤色酸化粒を少量	良	施　釉	J-5	ⅡB	-24522.57	-20225.21	21.419
22	49	須恵器	甕・胴部		5.6	刷毛目	格子叩き	灰（N4/0）	灰（N4/0）	石英、細粒を稀	良好		表土	一括	―	―	―
22	50	青磁	碗・口縁		1.9	回転ナデ	回転ヘラケズリ、ヘラ彫り	胎土　灰白（N7/0）	釉 オリーブ灰(5GY5/1)		良好	施　釉	K-6	ⅡB	-24515.54	-20223.07	21.302
22	51	青磁	碗・口縁		2.9	回転ヘラケズリ、ヘラ彫り	回転ヘラケズリ	胎土　灰　（N6/1）	釉 暗オリーブ(5Y4/3)		良好	施　釉	K-5	ⅡB	-24515.88	-20227.47	21.257
22	52	磁器	紅皿・口底	口(4.6)底(1.4)	1.5	回転ヘラケズリ	櫛目文	胎土　灰白（N8/0）	釉 透明		良好	施　釉	１区	一括	―	―	―
22	53	土人形											攪乱	一括	―	―	―

表(Tab)10　出土土器観察表

図版番号	実測番号	器　種	長　さ (cm)	幅 (cm)	厚　さ (cm)	重　さ (g)	石　材	備　　考	出土地点	層位	X　座　標 (m)	Y　座　標 (m)	標　高 (m)
23	1	打製石鏃	2.20	1.3～	0.3	0.67	黒 曜 石	西北九州産黒曜石	Ⅰ－6	ⅡB	—	—	—
23	2	打製石鏃	2.40	1.50	0.4	1.01	黒 曜 石	西北九州産黒曜石	K－5	ⅡA	－24516.14	－20226.39	21.227
23	3	打製石鏃	2.45	1.35	0.3	0.58	安 山 岩		K－7	ⅡA	－24522.54	－20219.40	21.341
23	4	打製石鏃	2.3～	1.5～	3.5	1.00	安 山 岩	基部及び先端部欠損	J－4	ⅡB	－24523.85	－20230.74	21.328
23	5	打製石鏃	2.8	1.7	0.4	1.63	チャート	基部欠損	J－5	ⅡB	－24521.85	－20227.03	21.192
23	6	打製石鏃	1.45～	2.6	0.6	1.48	安 山 岩	先端部欠損	2　区	一括	—	—	—
23	7	磨製石斧	4.4～	4.1～	2.6～	49.96	砂　　岩	刃部欠損	1　区	撹乱	—	—	—
23	8	磨製石斧	6.45～	5～	4.8～	170.57	砂　　岩	刃部欠損	J－6	ⅡB	－24522.91	－20225.19	21.398
24	9	凹　　石	8.45	6.4	4.8	221.51	砂　　岩		J－5	ⅡB	－24524.92	－20226.76	21.328
24	10	磨 り 石	6.4～	5.45～	4.75	248.40	砂　　岩	一部欠損	K－5	ⅡB	－24516.78	－20225.52	20.914
24	11	石　　皿	12.25～	10.2～	3.7～	496.00	砂　　岩	一部欠損	J－6	ⅡB	－24520.20	－20224.00	21.260

表(Tab)11　出土石器観察表

第Ⅴ章　総　括

１　旧地形から見た遺跡の立地

図10は２区－３におけるⅢ層上面の等高線である。２区－１・２（図11参照）は既に攪乱を受けてⅣC層が露出している。このことから調査２区は、もともと南側が高く、北側に落ち込んでいたことがわかる。おそらく当時は、２区－１・２周辺からその南側が一番高く、遺跡の中心部であった可能性が高いと予想される。しかし、残念ながら、攪乱を受けていたり調査区外のため、遺跡の解明には至れなかった。１区も包含層が残っておらず、北側の約1／4が攪乱を受けてⅣA層が露出している状況（図15参照）や沼山津神社の高まりを考慮すると沼山津遺跡は木山川や秋津川の沖積地から徐々に高くなっていく微高地上（図２，３参照）にありながらも、やや起伏に富んだ地形の中にあったことが想像されよう。

２　出土遺物からみた遺跡の様子

この遺跡では、縄文時代中～晩期・弥生時代・古墳時代・古代・中世・近世の遺物が出土している。ほとんどがローリングを受けており、遺跡の中心部からの流れ込みだと考えられるが、古代の遺物がその半数以上を占め、次いで縄文時代後～晩期の遺物が占める。

このことから遺跡付近には縄文時代中～後期から近世まで連綿とした人々の生活の営みがあったことは明白である。また、縄文時代中期以前の遺物は出土しなかったが、付近の遺跡を概観しても明白な様にこの託麻台地には少なくとも約３万年程前から人々の生活の痕跡が窺える。

例えば直線距離でわずか約１～1.5㎞程しか離れていない梨木遺跡では縄文時代の包含層からではあるが、旧石器時代のナイフ形石器が２点、古閑北遺跡では縄文時代草創期の有舌尖頭器が１点、早期～晩期の土器が多数出土している。又古閑遺跡では沼山津遺跡と同様、縄文時代晩期の黒色磨研土器様式の土器が多数出土している。

出土遺物の中で注目したいものは、古代（平安時代）の緑釉陶器（香炉の破片：写真３、図１,21参照）である。先述したとおり９世紀前半ごろに京都の洛北で焼かれた物であることが判明している。

熊本県内では現在のところ20の遺跡で彩釉陶器が出土（図25、表12参照）しているが、約半数が現在の熊本市内に集中している。熊本市内でも出土点数や種類においては、飽田国府があったとされる二本木遺跡群が群を抜き、次いで神水遺跡、陣山遺跡など託麻国府があったとされる周辺地が多い。それ以外の熊本市内の遺跡や郡部の遺跡では出土点数は１～２点と少なく、種類も乏しい。このことから緑釉陶器の出土は、国府及び国府近接地域の集落跡との関連性が考えられる。

現在肥後国の国府跡推定地と変遷には大きく３つの説（松本雅明氏、木下良氏、木原武雄氏）がある。

その中で木原氏は益城国府の所在地を、地名や立地条件などから10世紀初頭に古閑遺跡（益城町）周辺にあったと推定されている。しかし、この説に対して松本氏は「戦後の益城町は古代は託麻郡である。」として木原氏の益城国府説を批判されている。木原氏の説が正しいのであれば、沼山津遺跡から古閑遺跡まで直線距離で約１㎞しか離れておらず、時期的な問題はあろうが、益城国府近接地域の集落跡であるという理由が成り立つであろう。

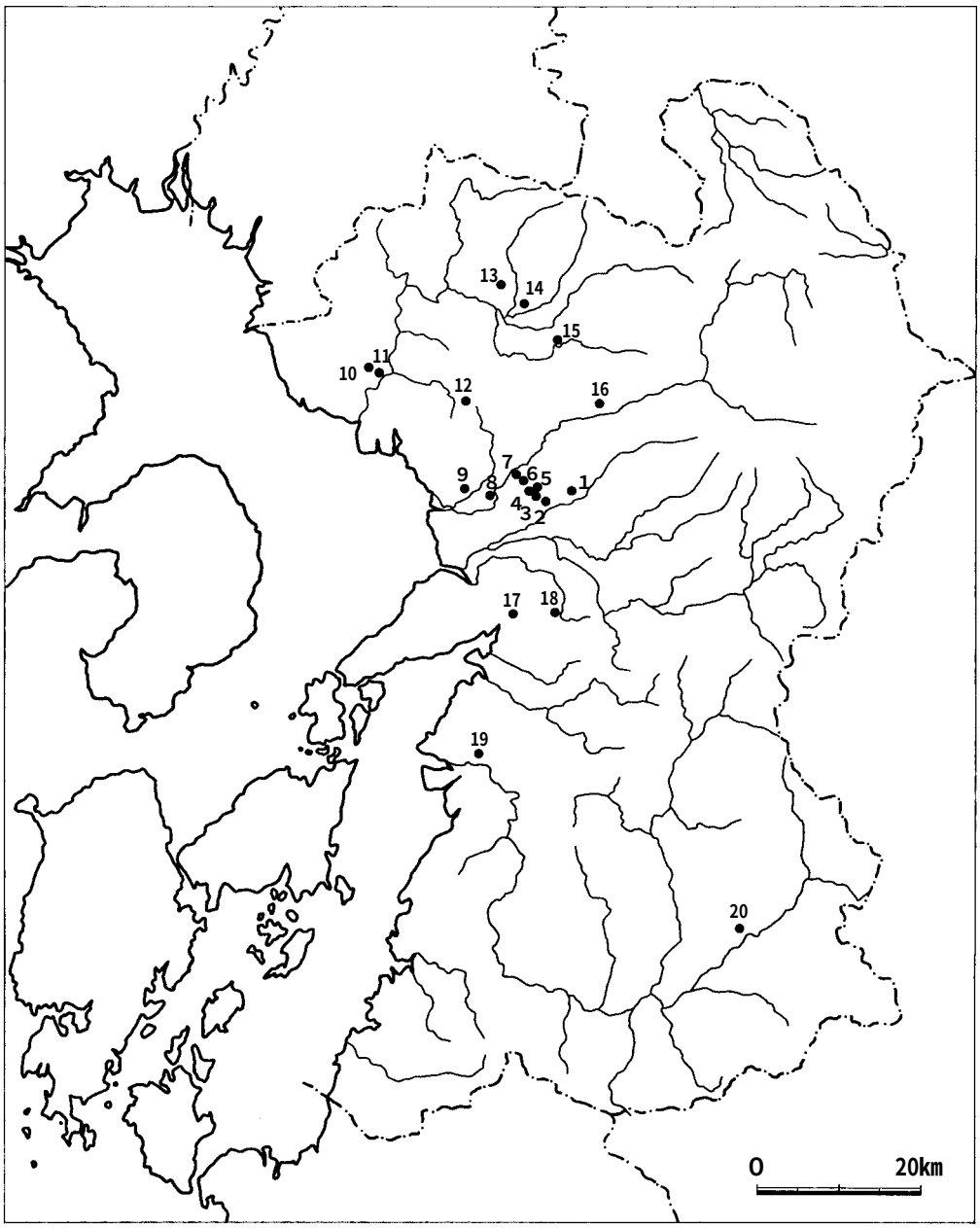
一方、託麻国府の中心地である出水国府跡までは、直線距離で約５㎞である。少し離れてはいるが、託麻国府推定地の近接地域であるという理由が成り立たないこともなさそうに思える。

なお託麻国府の推定所在地については３人の意見は一致しているが、時期については若干ズレがある。しかし、８世紀中葉～９世紀中葉という時期は共通している。沼山津遺跡で出土した古代の遺物の中で時期判定が可能な遺物がこの時期に属するのは非常に興味深い。(図13の１，図20の30～33)

いずれにせよ、平安時代（９世紀代）に沼山津遺跡周辺には集落が形成されており、緑釉陶器片の出土という観点から考えると国府と密接な関連を持つ在地有力層の存在を垣間見ることが想像できるのではないかと考えられる。

３　遺構からみた遺跡の様子

明確な遺構は、便宜上遺構とした芋穴と区画溝を除けば、竪穴住居跡 ⑴、土坑 ⑵、道路状遺構 ⑴、



図(Fig)25　熊本県下の二彩・三彩・白釉・緑釉出土地

ピット（391）である。ピットを除外すればその他は古代の遺構と考えられる。先述した様に、土坑→竪穴住居跡→道路状遺構という時期的な変遷が考えられ、平安時代（９世紀代）には集落が形成されていたことが想像される。しかし残念なことに遺跡の中心部とは考えにくく、沼山津遺跡の中心地から北側にやや落ちこんだ縁辺部のみの情報しか窺い知ることができない。

次に391基のピットである。３人の調査員で確定したとはいえ、その中でもいくつかは樹根の痕跡が含まれる可能性は否定できない。しかし、そのほとんどはピットではないかと考えている。時期は不明だが、出土遺物から考えると縄文中～後期から近・現代まで幅広く考えられる。２区－３の北側約半分しか包含層が残存していなかったことや当時の生活面を考慮すれば、竪穴住居跡の柱穴、掘立柱建物跡や柵列などの一部が考えられ、縄文時代中～後期から中近世までの集落跡が想像されよう。

４　今後の課題

今回の調査は沼山津遺跡のほんのわずかな範囲であり、この遺跡の様子を語るには材料が大きく不足しており、とうてい不可能である。また、縄文時代、弥生時代、古墳時代、中世の遺構は検出されておらず、少量の遺物のみである。今後付近で調査が行わ

れた結果と照らし合わせて総合的に判断していかなければならないと考える。

また、木原氏の益城国府説（益城町古閑遺跡周辺）の検証についても古閑遺跡やその周辺遺跡出土遺物の検討が必要であり、今後の周辺遺跡調査の結果とあわせて判断する必要があろう。

番号	遺　跡　名	所　在　地	遺跡種類	椀	盤	皿		壺		瓶					特殊品	器形
				椀	三足盤	皿	耳皿	大壺	小壺	蓋	花瓶	浄瓶	手付瓶	その他	香炉	不明
1	沼山津遺跡	熊本市桜木２丁目ほか	集落跡												●	
2	江津湖遺跡群	熊本市湖東ほか	集落跡	●												
3	神水遺跡	熊本市神水本町ほか	官衙跡	●		●□		●			◎					
4	肥後国分僧寺跡	熊本市出水１丁目	官衙跡	●												
5	陣山遺跡	熊本市水前寺公園	集落跡	●				●				○	●			
6	大江遺跡群	熊本市大江	集落跡													●
7	新屋敷遺跡	熊本市新屋敷	集落跡	●		●										
8	二本木遺跡群	熊本市二本木ほか	官衙跡	⬬	●	●	●	●		●				⬬		
9	池辺寺跡	熊本市池上町西平山	集落跡						○							●
10	立願寺大塚遺跡	玉名市立願寺松尾	集落跡	●												
11	柳町遺跡	玉名市河崎柳町	集落跡	●												
12	今古閑・久保遺跡	鹿本郡植木町轟今古閑	集落跡	●												
13	御宇田妙見遺跡	鹿本郡鹿本町御宇田妙見	集落跡			●										
14	うてな遺跡	菊池郡七城町台	集落跡													●
15	住吉日吉神社	菊池郡泗水町住吉北小路	集落跡													●
16	楠ノ木遺跡　※	菊池郡菊陽町久保田楠ノ木	集落跡													●
17	松橋大野貝塚	下益城郡松橋町大野前田	集落跡	●												
18	古閑原遺跡	下益城郡豊野町山崎古閑原	集落跡	●												
19	洗切遺跡	八代市清水町洗切	集落跡											◎		
20	堂園遺跡	球磨郡須恵村堂園	集落跡			●										

○…二彩　◎…三彩　□…白釉　●…緑釉　＊記号の大小…小：１～９個数　大：10個数以上

表(Tab)12　熊本県下の二彩・三彩・白釉・緑釉出土地一覧表　※熊本市教育委員会の美濃口氏、網田氏のご教示による。

遺構番号	短　軸	長　軸	上端Lv.	下端Lv.	中端Lv.	深　さ	埋土	備　　考
S023	30	36	20.897	20.596		30.1	A	
S024	44	50	20.886	20.577		30.9	A	
S025	26	28	20.870	20.320		55.0	A	
S026	32	40	20.923	20.760		16.3	A	
S027	30	34	20.917	20.447		47.0	A	
S028	28	34	20.976	20.575		40.1	A	
S029	30	34	20.976	20.398		57.8	A	
S030	24	25	20.973	20.421		55.2	A	古代須恵器片（遺物番号４）
S031	35	48	20.994	20.066	不明	92.8	A	
S032	(30)	35	21.066	20.492		57.4	A	
S033	31	34	21.110	20.527		58.3	A	
S034	18	27	21.085	20.314		77.1	A	縄文晩期土器片（遺物番号５） （取上No.228と接合）
S035	31	34	21.209	20.725		48.4	A	
S036	40	46	21.279	20.620		65.9	B	
S037	35	45	21.278	20.438		84.0	B	
S038	32	32	21.279	20.743		53.6	A	
S039	36	41	21.258	20.834		42.4	A	
S040	28	30	21.258	20.929		32.9	A	
S041	32	36	21.283	20.762		52.1	A	
S042	35	38	21.268	20.809		45.9	B	
S043	25	39	21.265	20.606		65.9	B	
S044	30	41	21.256	20.422		83.4	B	
S045	29	35	21.260	20.448		81.2	B	
S046	29	33	21.286	20.899		38.7	A	
S047	39	43	21.281	20.783		49.8	A	
S048	30	41	21.301	20.497	20.778	80.4	A	
S049	32	49	21.306	20.442		86.4	A	
S050	21	21	21.309	20.743		56.6	A	
S051	30	40	21.340	20.773		56.7	A	
S052	32	37	21.342	20.172		117.0	A	
S053	25	27	21.292	20.661		63.1	A	
S054	32	35	21.349	20.787		56.2	A	
S055	24	30	21.355	20.672		68.3	B	
S056	21	32	21.343	20.497		84.6	B	
S057	25	30	21.332	21.020		31.2	A	
S058	43	45	21.238	20.644		59.4	A	
S059	28	30	21.303	21.054		24.9	A	
S060	40	60	21.280	20.831		44.9	A	
S061	25	37	21.291	20.650		64.1	A	
S062	36	42	21.281	20.556	20.889	72.5	A	
S063	35	44	21.241	20.647	20.819	59.4	A	
S064	44	45	21.246	20.355		89.1	A	
S065	32	36	21.329	20.916		41.3	A	
S066	29	(30)	21.383	21.104		27.9	A	
S067	23	62	21.399	20.291		110.8	A	
S068	28	30	21.467	20.955		51.2	A	
S069	46	52	21.491	20.223	21.049	126.8	A	
S070	26	36	21.465	20.821		64.4	A	
S071	30	32	21.632	20.588		104.4	A	
S072	40	50	21.430	20.631		79.9	C'	
S073	37	46	21.417	20.942		47.5	C	
S074	26	35	21.341	20.929		41.2	B	
S075	27	30	21.390	21.002		38.8	A	
S076	25	41	21.362	20.500	不明	86.2	B	
S077	22	24	21.352	20.822		53.0	A	
S078	29	33	21.398	20.832	不明	56.6	B'	
S079	27	41	21.387	20.657	20.847	73.0	A	
S080	26	28	21.384	20.759		62.5	A	
S081	22	59	21.422	20.233	20.914	118.9	A	
S082	25	27	21.479	20.991		48.8	A	
S083	29	43	21.457	21.217		24.0	A	
S084	31	42	21.457	20.797	21.180	66.0	A	
S085	42	58	21.469	20.712	21.037	75.7	A	
S086	40	56	21.462	20.613		84.9	B	
S087	37	48	21.469	20.618		85.1	A	
S088	42	44	21.427	20.302	20.617	112.5	A	
S089	30	33	21.388	20.812		57.6	B	
S090	29	38	21.363	20.892		47.1	B	
S091	32	38	21.376	21.030		34.6	A	

表(Tab)13　ピットのデータ（1）(S023～S091)

遺構番号	短　軸	長　軸	上端Lv.	下端Lv.	中端Lv.	深　さ	埋土	備　　考
S092	22	31	21.348	20.932		41.6	A	
S093	29	32	21.318	20.994		32.4	A	
S094	33	36	21.358	20.828		53.0	A	
S095	24	30	21.398	20.832		56.6	A	
S096	37	39	21.431	20.819		61.2	A	
S097	45	56	21.456	20.945		51.1	A	
S098	42	50	21.473	20.915		55.8	A	
S099	31	34	21.477	20.947		53.0	A	
S100	34	44	21.472	20.530		94.2	B	
S101	42	48	21.479	20.569		91.0	A	
S102	32	38	21.492	21.047		44.5	A	
S103	26	37	21.515	21.142		37.3	A	
S104	23	28	21.522	20.777		74.5	A	
S105	32	41	21.542	21.036		50.6	A	
S106	32	36	21.494	21.095		39.9	A	
S107	30	37	21.512	20.818		69.4	A	
S108	15	36	21.533	20.829		70.4	A'	
S109	16	40	21.533	20.926		60.7	A'	
S110	28	33	21.565	21.122		44.3	A	
S111	24	35	21.524	21.061		46.3	A	
S112	25	28	21.542	20.646		89.6	A	
S113	34	36	21.493	20.868		62.5	A	
S114	35	42	21.473	20.952		52.1	A	
S115	27	33	21.510	20.981		52.9	A	
S116	35	50	21.480	20.886	21.140	59.4	A	
S117	38	48	21.475	20.619		85.6	A	
S118	29	35	21.507	20.933		57.4	B	
S119	40	57	21.452	20.936	20.999	51.6	A	
S120	23	30	21.461	21.046		41.5	A	
S121	24	28	21.484	21.009		47.5	A	
S122	25	28	21.491	20.995		49.6	A	
S123	30	39	21.467	20.741		72.6	A	
S124	35	56	21.575	20.612		96.3	A	
S125	28	33	21.475	20.723		75.2	A	
S126	(20)	40	21.515	21.172		34.3	A	
S127	30	38	21.516	20.957		55.9	B	
S128	29	48	21.560	21.330		23.0	B	
S129	30	38	21.510	20.569		94.1	B	
S130	28	40	21.515	21.309		20.6	B	
S131	33	36	21.509	20.711		79.8	A	
S132	43	61	21.533	20.837		69.6	A	
S133	26	34	21.570	21.127		44.3	A	
S134	21	25	21.560	21.030		53.0	A	
S135	22	29	21.549	21.244	21.302	30.5	A	
S136	24	26	21.572	20.892		68.0	A	
S137	29	31	21.566	21.205	21.271	36.1	A	
S138	22	38	21.567	21.046	21.322	52.1	A	
S139	28	41	21.572	20.764		80.8	A	
S140	21	38	21.562	20.947		61.5	A	
S141	33	35	21.561	20.864		69.7	A	
S142	35	41	21.552	20.442		111.0	A	
S143	(37)	(37)	21.558	20.901		65.7	A	
S144	24	28	21.547	20.872		67.5	B	
S145	26	33	21.597	20.975		62.2	B	
S146	29	29	21.549	21.090		45.9	A	
S147	21	24	21.544	20.891		65.3	A	
S148	23	30	21.539	20.841		69.8	A	
S149	(32)	(33)	21.536	20.773		76.3	B	
S150	28	49	21.538	21.052		48.6	A	
S151	33	34	21.531	20.905		62.6	B	
S152	22	24	21.537	20.982		55.5	A	
S153	31	38	21.541	20.738		80.3	B	
S154	30	41	21.542	20.885		65.7	B	
S155	29	34	21.537	20.904		63.3	B	
S156	25	37	21.539	20.685		85.4	B	
S157	32	34	21.516	20.456		106.0	B	土師器？（遺物番号６）
S158	(34)	48	21.529	20.805		72.4	A	
S159	35	39	21.509	20.846		66.3	A	
S160	30	34	21.505	21.242	21.337	26.3	A	
S161	37	48	21.540	20.371		116.9	A	

表(Tab)14　ピットのデータ ②（S092～S161）

遺構番号	短　軸	長　軸	上端Lv.	下端Lv.	中端Lv.	深　さ	埋土	備　　考
S162	25	28	21.534	21.041		49.3	D	
S163	28	38	21.502	21.077		42.5	B	縄文晩期土器片？
S164	34	41	21.502	20.734		76.8	A	
S165	(26)	(33)	21.504	20.949		55.5	D	
S166	(31)	(33)	21.410	20.787		62.3	D'	
S167	(22)	(24)	21.394	21.180		21.4	D'	
S168	31	37	21.554	20.626		92.8	C	
S169	(23)	(35)	21.375	20.836	不明	53.9	D	
S170	(30)	(36)	21.501	21.103		39.8	A	
S171	(32)	(56)	21.497	21.034		46.3	A	
S172	26	32	21.487	20.878		60.9	B	
S173	22	38	21.436	21.234		20.2	B	
S174	36	38	21.485	20.741		74.4	A	
S175	28	34	21.545	20.967		57.8	A	縄文晩期土器片
S176	29	31	21.533	21.080		45.3	D'	
S177	(30)	(35)	21.548	21.267		28.1	B	
S178	31	35	21.529	20.715		81.4	A	
S179	(27)	35	21.522	21.097		42.5	E	
S180	31	35	21.503	20.756		74.7	C	
S181	21	23	21.495	21.142		35.3	C'	
S182	(24)	26	21.418	20.843		57.5	C	
S183	19	22	21.415	20.707		70.8	C'	
S184	25	33	21.459	20.663	不明	79.6	C	
S185	38	40	21.424	20.361		106.3	B	
S186	23	27	21.390	20.903		48.7	B	
S187	21	24	21.403	20.878		52.5	A	
S188	20	21	21.433	20.963		47.0	C'	
S189	21	26	21.458	20.819		63.9	C'	
S190	21	24	21.451	20.889		56.2	C	
S191	27	34	21.498	21.073		42.5	A	
S192	28	35	21.373	20.950	21.154	42.3	C'	
S193	14	22	21.357	20.760		59.7	C'	
S194	40	59	21.494	20.810	21.021	68.4	C	
S195	27	44	21.493	20.901	21.184	59.2	C	
S196	37	39	21.505	20.884		62.1	B	
S197	24	45	21.503	20.830		67.3	B	
S198	25	30	21.471	20.959		51.2	E	
S199	24	38	21.533	20.923		61.0	D'	
S200	26	37	21.518	21.193		32.5	B	
S201	25	25	21.499	20.698	不明	80.1	C'	
S202	22	23	21.513	20.938		57.5	B	
S203	27	32	21.508	21.133		37.5	C	
S204	18	19	21.474	21.255		21.9	B	
S205	26	30	21.350	21.111		23.9	D'	
S206	21	24	21.381	20.989		39.2	C	
S207	22	27	21.281	21.099		18.2	A	
S208	(11)	19	21.495	21.169		32.6	B	
S209	(28)	(33)	21.533	20.895		63.8	B	
S210	(41)	(53)	21.550	20.913	21.228	63.7	A	
S211	33	55	21.516	21.093		42.3	A	
S212	34	45	21.464	21.147		31.7	C	
S213	25	27	21.239	21.047		19.2	D'	
S214	23	25	21.264	20.983		28.1	B	
S215	(39)	(52)	21.331	20.902	20.945	42.9	A	
S216	38	41	21.444	20.868		57.6	A	
S217	33	51	21.536	20.706	20.997	83.0	B	
S218	35	40	21.543	21.223		32.0	D	
S219	39	47	21.556	21.103		45.3	D	
S220	28	31	21.523	21.193		33.0	D	
S221	22	27	21.480	21.144		33.6	D	
S222	27	28	21.642	21.348		29.4	B	
S223	18	22	21.438	21.050		38.8	C	
S224	27	28	21.453	20.649		80.4	B	
S225	26	27	21.437	20.758		67.9	B	
S226	23	27	21.393	21.011		38.2	B	
S227	19	24	21.447	20.987		46.0	B	
S228	21	27	21.513	21.058		45.5	C	
S229	25	25	21.469	20.952		51.7	A	
S230	25	31	21.516	20.799		71.7	A	
S231	21	23	21.533	21.071		46.2	A	

表(Tab)15　ピットのデータ ③ (S162～S231)

遺構番号	短　軸	長　軸	上端Lv.	下端Lv.	中端Lv.	深　さ	埋土	備　　考
S232	25	29	21.553	21.202		35.1	D	
S233	27	29	21.490	20.912		57.8	B	
S234	26	29	21.401	20.840		56.1	C	
S235	(20)	22	21.377	20.588		78.9	B	
S236	19	20	21.499	21.273		22.6	A	
S237	20	22	21.490	21.220		27.0	C	
S238	(20)	(23)	21.459	21.189		27.0	B	
S239	21	23	21.452	21.121		33.1	C	
S240	27	34	21.472	20.088		138.4	B	
S241	18	24	21.463	21.249		21.4	C	
S242	15	25	21.473	21.133		34.0	C'	
S243	39	42	21.413	20.783		63.0	B	
S244	25	27	21.467	21.162		30.5	C	
S245	22	30	21.442	21.017		42.5	C	
S246	31	39	21.306	20.624		68.2	C	
S247	16	20	21.483	21.061		42.2	D	
S248	23	31	21.551	21.257		29.4	C'	
S249	22	30	21.538	21.249		28.9	C'	
S250	(17)	19	21.544	20.953		59.1	D'	
S251	19	20	21.544	21.220		32.4	C'	
S252	25	33	21.544	21.116		42.8	E	
S253	(21)	(21)	21.523	21.113		41.0	E	
S254	24	(25)	21.512	20.971		54.1	E	
S255	(26)	(29)	21.418	20.884		53.4	E	
S256	21	24	21.438	21.131		30.7	E	
S257	26	29	21.473	20.818		65.5	E	
S258	31	33	21.092	20.547	20.642	54.5	E	
S259	54	56	21.531	20.320		121.1	E	
S260	50	63	21.456	20.253		120.3	E	
S261	31	41	21.543	20.604		93.9	E	
S262	24	31	21.472	21.202		27.0	E	
S263	25	27	21.433	21.123		31.0	E	
S264	31	46	21.571	21.032	21.291	53.9	E	
S265	27	38	21.525	21.091	21.320	43.4	E	
S266	26	30	21.567	20.776		79.1	E	
S267	27	35	21.508	20.735		77.3	E	
S268	36	42	21.192	20.439		75.3	E	
S269	25	(40)	21.038	20.829		20.9	E	
S270	21	26	20.896	20.560		33.6	E	
S271	17	22	21.226	20.369		85.7	E	古代土師器片
S272	27	40	21.548	20.755		79.3	E	
S273	22	26	21.389	21.034		35.5	E	
S274	24	25	21.484	21.232		25.2	E	
S275	22	28	21.488	21.204		28.4	E	
S276	20	29	21.477	21.273		20.4	E	
S277	31	38	21.429	20.843		58.6	E	
S278	33	35	21.210	20.441		76.9	E	
S279	51	66	21.221	20.285	20.961	93.6	E	
S280	60	63	21.191	20.323	20.875	86.8	E	縄文晩期土器片 小１
S281	39	52	21.171	20.312		85.9	E	
S282	35	51	21.186	20.100		108.6	E	
S283	47	65	21.074	20.394		68.0	E	
S284	29	(55)	20.907	19.755	20.266	115.2	E	
S285	29	38	20.842	20.342		50.0	E	
S286	23	30	20.890	19.886		100.4	E	
S287	28	41	20.856	20.312		54.4	E	
S288	38	52	20.878	20.127		75.1	E	
S289	33	43	20.893	20.100		79.3	E	
S290	27	33	20.913	20.697		21.6	E	
S291	37	41	21.018	20.181		83.7	E	
S292	54	70	21.151	20.581		57.0	E	
S293	32	54	21.190	20.581	20.505	60.9	E	
S294	25	31	21.291	20.952		33.9	E	
S295	33	41	21.439	20.657	21.209	78.2	E	
S296	32	42	21.405	20.376		102.9	E	
S297	34	39	21.516	20.694		82.2	E	
S298	(26)	(32)	21.518	20.806		71.2	E	
S299	33	38	21.535	21.220		31.5	E	
S300	43	46	21.558	21.078	21.236	48.0	E	
S301	30	40	21.415	21.097		31.8	E	

表(Tab)16　ピットのデータ ⑷ (S232～S301)

遺構番号	短　軸	長　軸	上端Lv.	下端Lv.	中端Lv.	深　さ	埋土	備　　考
S302	31	47	21.392	20.982		41.0	E	
S303	27	(28)	21.423	20.652		77.1	E	
S304	24	29	21.494	21.011		48.3	E	
S305	18	20	21.503	21.263		24.0	E	
S306	21	29	21.553	21.031		52.2	E	
S307	21	21	21.227	21.060		16.7	E	
S308	(28)	(32)	21.474	20.804		67.0	E	
S309	30	32	21.362	21.095		26.7	E	
S310	27	(35)	21.555	20.905		65.0	E	
S311	18	22	21.674	21.190		48.4	A	
S312	17	17	21.670	21.334		33.6	A	
S313	21	28	21.664	20.969		69.5	B	
S314	15	16	21.608	21.256		35.2	A	
S315	21	22	21.600	21.255		34.5	A	
S316	19	21	21.642	21.310		33.2	A'	
S317	21	26	21.638	21.131		50.7	B	
S318	17	23	21.519	21.329		19.0	A	
S319	21	22	21.686	21.154		53.2	A'	
S320	18	26	21.588	21.380		20.8	A'	
S321	20	22	21.685	21.296		38.9	A'	
S322	27	33	21.679	21.405		27.4	A	
S323	21	25	21.676	21.309	21.430	36.7	A	
S324	27	29	21.636	21.183		45.3	A	
S325	20	21	21.647	21.359		28.8	A	
S326	24	27	21.643	21.307	21.368	33.6	A	
S327	16	19	21.566	21.343		22.3	B	古代土師器片1
S328	23	25	21.535	21.098		43.7	A'	
S329	26	40	21.642	21.176		46.6	B	
S330	28	33	21.621	21.302		31.9	A	
S331	21	25	21.630	21.243		38.7	A	
S332	20	24	21.633	21.242	21.389	39.1	A	
S333	(28)	(32)	21.628	21.319		30.9	A	
S334	26	49	21.614	20.870		74.4	B	
S335	23	45	21.609	20.927		68.2	B	
S336	33	38	21.548	20.623		92.5	B	
S337	40	45	21.605	21.021		58.4	B	
S338	26	27	21.542	20.650		89.2	B	
S339	42	45	21.626	21.207	21.321	41.9	A	
S340	(22)	36	21.612	21.093		51.9	A	
S341	28	35	21.605	21.149		45.6	A	
S342	38	42	21.587	20.538	21.172	104.9	C	
S343	29	38	21.589	21.224		36.5	A	
S344	31	36	21.596	20.812		78.4	A	
S345	41	47	21.582	20.903	20.967	67.9	A	
S346	31	35	21.619	20.712		90.7	A	
S347	20	23	21.284	21.083		20.1	B	
S348	20	21	21.322	21.018		30.4	B	
S349	18	22	21.344	21.027		31.7	B	
S350	16	19	21.397	21.174		22.3	A'	
S351	28	30	21.399	20.648		75.1	A	
S352	20	21	21.380	21.126		25.4	D	
S353	26	28	21.532	20.072		146.0	A	
S354	24	25	21.513	20.713		80.0	D	
S355	35	48	21.573	20.977		59.6	A	
S356	25	27	21.573	21.210	21.317	36.3	D	
S357	22	29	21.611	21.261		35.0	A	
S358	33	42	21.636	20.937		69.9	A	
S359	22	24	21.644	21.334		31.0	A	
S360	34	37	21.621	21.226		39.5	A	
S361	23	29	21.660	21.324		33.6	A'	
S362	21	23	21.664	21.329		33.5	A'	
S363	45	48	21.661	21.230	21.285	43.1	A'	
S364	27	40	21.625	21.014		61.1	B	
S365	21	24	21.618	21.205		41.3	B'	
S366	17	19	21.572	21.195		37.7	B	
S367	20	30	21.575	21.174	21.320	40.1	A'	
S368	34	38	21.654	21.255		39.9	A	
S369	29	32	21.643	21.091		55.2	B	
S370	21	23	21.634	21.164		47.0	B'	
S371	29	31	21.662	21.044	21.379	61.8	A	

表(Tab)17　ピットのデータ ⑸ (S302～S371)

遺構番号	短　軸	長　軸	上端Lv.	下端Lv.	中端Lv.	深　さ	埋土	備　　考
S372	26	38	21.659	21.043		61.6	A	
S373	26	35	21.671	21.319		35.2	B	
S374	23	27	21.650	21.404		24.6	D'	
S375	26	31	21.662	21.236		42.6	D	
S376	29	35	21.584	21.242		34.2	A	
S377	24	28	21.550	21.238		31.2	C	
S378	23	27	21.624	21.298		32.6	A	
S379	(18)	(19)	21.461	21.149		31.2	C	
S380	27	34	21.530	20.972		55.8	A	
S381	31	47	21.569	21.193		37.6	B	
S382	29	32	21.583	21.016		56.7	A	
S383	30	32	21.576	20.952		62.4	B	
S384	32	43	21.558	21.113		44.5	A	
S385	(17)	(19)	21.594	21.204	不明	39.0	A	
S386	26	(54)	21.554	20.871		68.3	A	
S387	34	47	21.531	20.839	不明	69.2	B	土器片 小1
S388	(24)	(30)	21.609	20.935		67.4	A	
S389	25	28	21.610	21.015		59.5	A	
S390	22	27	21.608	21.090		51.8	A	
S391	23	25	21.597	21.369		22.8	A	
S392	19	27	21.548	21.348		20.0	A	
S393	21	22	21.550	21.338		21.2	D	
S394	17	23	21.537	21.127		41.0	A	縄文晩期土器片（遺物番号７）
S395	16	22	21.538	21.242		29.6	A	
S396	23	28	21.567	21.294	21.377	27.3	A	
S397	21	26	21.587	21.157		43.0	A	
S398	20	24	21.576	21.270		30.6	A	
S399	(32)	34	21.526	21.219		30.7	A	
S400	27	32	21.282	21.047		23.5	E	
S401	―	38	21.463	21.219		24.4	E	
S402	23	33	21.535	21.254		28.1	E	
S403	22	28	21.494	21.214		28.0	E	
S404	29	37	21.510	21.175		33.5	E	
S405	22	29	21.474	21.330		14.4	E	
S406	30	45	21.512	21.240	21.285	27.2	E	
S407	(27)	34	21.508	21.187		32.1	E	
S408	14	19	21.551	21.183		36.8	A	
S409	15	36	21.530	21.145		38.5	A	
S410	(27)	29	21.699	21.328		37.1	A	
S411	32	47	21.251	20.834		41.7	A	
S412	19	25	21.260	20.927		33.3	A	
S413	28	40	21.269	20.767		50.2	A	

表(Tab)18　ピットのデータ ⑥（S372～S413）

引用・参考文献

網田龍生　1994　「肥後における回転台土師器の成立と展開」『中近世土器の基礎研究Ｘ』　日本中世土器研究会

網田龍生　1996　「肥後国」『国府 ―畿内・七道の様相―』　日本考古学協会三重県実行委員会

池田朋生　2001　『石の本遺跡群Ⅲ』　熊本県文化財調査報告第194集　熊本県教育委員会

江戸遺跡研究会編　2001　『図説　江戸考古学研究事典』　柏書房

大川清ほか　1996　『日本土器事典』　雄山閣

小畑弘己ほか　1998　『象ヶ鼻Ｄ遺跡』 ―第１次発掘調査概要報告書　―の宮町教育委員会

角川書店　1987　『角川日本地名大辞典　43　熊本県』

木崎康弘　1995　『無田原遺跡』　熊本県文化財調査報告第148集　熊本県教育委員会

木原武雄　1976　「和名抄益城国府についての一考察」『熊本史学　第48号』

工藤敬一・平野敏也　1997　『図説　熊本県の歴史』　河出書房新社

熊本県企画開発部土地対策課　1993　『土地分類基本調査　御船』

熊本県企画開発部土地対策課　1995　『土地分類基本調査　熊本』

熊本日日新聞社　1982　『熊本大百科事典』

佐藤伸二　1996　「肥後国府の所在について」『国分直一博士米寿記念論文集』　慶文社

島津義昭ほか　1978　『益城郡衙』　熊本県文化財調査報告第32集　熊本県教育委員会

高橋照彦　2001　「三彩・緑釉陶器と地方官衙」『考古学ジャーナル７月増大号』　ニュー・サイエンス社

高橋照彦　2001　「地方官衙出土の平安時代の緑釉陶器」『考古学ジャーナル７月増大号』　ニュー・サイエンス社

中世土器研究会編　1995　『概説中世の土器・陶磁器』　真陽社

戸沢充則　1994　『縄文時代研究事典』　東京堂

豊野町教育委員会　2000　『古閑原遺跡』　豊野町文化財調査報告第２集

楢崎彰一　1990　『三彩　緑釉　灰釉』　日本陶磁大系５　平凡社

楢崎彰一　1997　『日本の三彩と緑釉　―天平に咲いた華―』　愛知県陶磁資料館

野田恒親・濱田彰久　1999　『古閑北・梨木遺跡』　熊本県文化財調査報告第175集　熊本県教育委員会

野田恒親・濱田彰久　1999　『古閑北遺跡』　熊本県文化財調査報告第184集　熊本県教育委員会

濱田彰久　1999　『迫ノ上遺跡』　熊本県文化財調査報告第170集　熊本県教育委員会

春成秀爾編　2001　『大分県聖嶽洞窟の発掘調査』　国立歴史民俗博物衙館考古研究部

古森政次　1994　『ワクド石遺跡』　熊本県文化財調査報告第144集　熊本県教育委員会

平凡社　2000　『別冊太陽　古伊万里　日本のこころ63』

益城町　1990　『益城町史』

松本雅明　1977　「木原氏の益城国府説批判」『熊本史学　第49号』

丸山伸二・川俣恵　1996　『陣山遺跡』　熊本県文化財調査報告第155集　熊本県教育委員会

美濃口雅朗　1994　「熊本県における中世前期の土師器について」『中近世土器の基礎研究Ｘ』　日本中世土器研究会

水野哲郎　2000　『祇園遺跡』　熊本県文化財調査報告第188集　熊本県教育委員会
村崎孝宏　1999　『耳切遺跡』　熊本県文化財調査報告第180集　熊本県教育委員会
山下義満　2000　『灰塚遺跡（Ⅰ)』　熊本県文化財調査報告第187集　熊本県教育委員会
山本忠尚　2001　『日本考古学用語辞典』　東京美術
山本信夫　2001　「九州の官衙遺構関係出土、鉛釉三彩・緑釉の検討」『考古学ジャーナル７月増大号』
ニュー・サイエンス社

Summary of the *Nuyamazu* site

1) Opportunity of excavation

This investigative excavation was carried out for expanding its width the prefectural road between *Koike* and *Tatsuda* line in *Kumamoto* city.

2) Topographic environment (Fig.1～4)

The site is located to the east of the *Kumamoto* Plain, *Sakuragi* district in *Kumamoto* city. And it is on the hill to the north of the *Kiyama* river and the *Akitsu* river (branch rivers of the *Midori* river). It is 19～20 meters above sea level.

3) Section (Fig.6)

The site has two sections. First section (section 1) is about 110 square meters in area, the second section (section 2) is about 790 square meters in area, and all is about 900 square meters in area. The second section has three sections (section2-1, 2-1, 2-3). This excavation was carried out from the first June through the seventeenth August in 1998.

4) Layer (Fig.5,7,8)

The 6 sheets of sedimentary layer were verified, and each layer is divided into two or three layers. There are two layers containing cultural remains. One is LayerⅡB containing cultural remains from late stage in *Jomon* period to Medieval period. The other is Layer ⅡC containing cultural remains from middle stage in *Jomon* period to Anicient times.

I consider Layer Ⅲ contains the "*Akahoya*" volcanic ash fell about 6,300 years ago, but it must be secondary deposit. And Layer ⅤB has the "*Aira—Tn* (*ATn*)" volcanic ash fell about 24,000～25,000 years ago.

5) The result of excavation (Tab.9～11)

①The character of the site from relics

Relics from middle～late stage in *Jomon* period to early Modern period, were unearthed in the site. There are 641 pieces of potteries and 17 stone implements and weapons. Specially speaking, the most of unearthed relics are that of late～final stage in *Jomon* period that of Anicienttimes (early stage in *Heian* period).

Those relics gave the crucial meaning to the excavation, should the provoking hypothesis to us. They suggested a rich and priviledged people, in connection with the local government lived around here. The out skirt of the site, supposed government office, was dotted with their villages, in early stage in *Heian* period (9th century).

②The character of the site from archaeological features

There were two earthen pits, a pit dwelling, and features for constructed road in Ancient times (early stage in *Heian* period, the 9th century), 15pits for keeping potatoes and two gutters constructed after early modern times, 317 unknown pits.

Structural remains which were constructed in anicient times were on a slight slope, from the south to the north of the site. Probably I conclude this area is not a center of the site. The next excavation around the site should disclose new facts.

Figures

1 Imazinative figure of green glazed pottery (incense burner)
2 Distribution map around the *Nuyamazu* site (the scale 1 : 50,000)
3 Topographic section (the scale 1 : 50,000)
4 Distribution map of sites around the *Kumamoto* Plain (late～final stage in *Jomon* period) (the scale 1 : 200,000)
5 Distribution map of sites around the *Kumamoto* Plain (*Heian* period) (the scale 1 : 200,000)
6 Columnar section
7 Section in the *Nuyamazu* site (the scale 1 : 800)
8 Eastern cross section in section 2—3 (the scale 1 : 40)
9 Eastern and southern cross section in section2—1 (the scale 1 : 40)
10 Archaeological features in section2—3 (the scale 1 : 100)
11 Archaeological features in section2—1,2 (the scale 1 : 100)
12 Pit dwelling (structural remains, No.19) ・earthen pits (archaeological features, No.20. 21) (the scale 1 : 40)
13 Relics in archaeological features (1～7) (the scale 1 : 2)
14 A part of road (archaeological features, No.22) (the scale 1 : 40)
15 Map of archaeological features and cross section in section 1 (the scale 1 : 80)
16 Distribution map of relices in LayerⅡB at section 2—3 (the scale 1 : 100)
17 Distribution map of relices in LayerⅡC at section 2—3 (the scale 1 : 100)
18 Relics *Jomon* period (8 : concave lines, 9 : incised lines and punctuations, 10 : zoned code impressions, 11～12 : black polished *Jomon* pottery) (the scale 1 : 2)
19 Relics (23 : late stage in *Yayoi* period, 24～26 : *Kofun* period) (the scale 1 : 2)
20 Relics of *Heian* period (27～33 : *Haji* ware, 34, 35 : type A of smoked *Haji* ware, 36～47 : *Sue* ware) (the scale 1 : 2)
21 Relics of *Heian* period (48 : Green glazed pottery— incense burner) (the scale1 : 1)
22 Relics of Medieval period (49 : Sue ware, 50,51 : celadon) after early Modern period (52 : porcelain, 53 : clayey doll) (the scale 1 : 2)
23 Stone implements and weapons (1～6 : chipped stone arrowheads, 7,8 : polished stone axe) (the scale 1 : 1, 1 : 2)
24 Stone implements and weapons (9 : stone with indentations or surface pitting,10 : polishi ng stone, 11 : saddlequern) (the scale 1 : 2)
25 Location of two-color glazed pottery, three-color glazed pottery, white glazed pottery and green glazed pottery unearthed in *Kumamoto* Prefecture

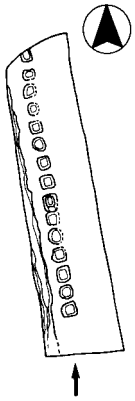
Tables

1 List of sites around the site (1)
2 List of sites around the site (2)
3 List of sites around the *Kumamoto* Plain (1)
4 List of sites around the *Kumamoto* Plain (2)
5 List of sites around the *Kumamoto* Plain (3)
6 List of sites around the *Kumamoto* Plain (4)
7 List of sites around the *Kumamoto* Plain (5)
8 List of sites around the *Kumamoto* Plain (6)
9 Number list of unearthed relic each stratums
10 Observing list of unearthed potteries
11 Observing list of unearthed stone implements and weapons
12 List of location for two-color glazed pottery, three-color glazed pottery, white glazed pottery and green glazed pottery unearthed in *Kumamoto* Prefecture

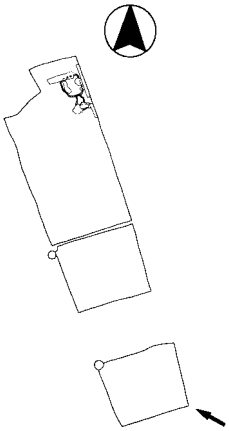
13 Data of pits ⑴ (structual remains, No.23～88)
14 Data of pits ⑵ (structual remains, No.89～155)
15 Data of pits ⑶ (structual remains, No.156～222)
16 Data of pits ⑷ (structual remains, No.223～289)
17 Data of pits ⑸ (structual remains, No.290～356)
18 Data of pits ⑹ (structual remains, No.357～413)

Photographic Plates

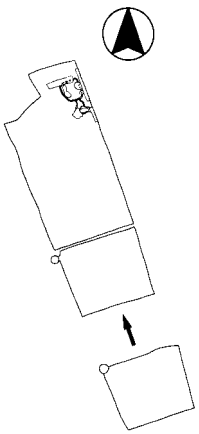
PL 1 Distant view of the site 1 (from southwest)
PL 2 Distant view of the site 2 (from southsoutheast)
PL 3 Relic (48 : green glazed pottery— incense burner) photographs from six angles
PL 4 East cross section of the site, devision 2—3 (between point A and B)
PL 5 Structural remains, No.19 after excavation (from east)
PL 6 Section 1 after excavation
PL 7 Section 2—1 after excavation
PL 8 Section 2—2・3 after excavation
PL 9 Section 2—2・3 after excavation
PL10 Section 2—2・3 after excavation
PL11 Section 2—2・3 after excavation
PL12 View around structural remains, No.19,20
PL13 Structural remains, No.19 under excavation
PL14 Structural remains, No.19 after excavation
PL15 Relics in archaeological features, No.20
PL16 Relics in archaeological features in section 2—3
PL17 Relics in archaeological features in section 2—3
PL18 *Haji* ware of *Kofun* period in Layer ⅡC (46)
PL19 Polished stone axe in Layer ⅡC (8)
PL20 Stone with indentations or surface pitting in Layer ⅡC (9)
PL21 View of excavation
PL22 View of experimental excavation by students and teachers in *Mizukosi* elementary school
PL23 Students, teachers and workers
PL24 Relics in archaeological features (1 : No.19, 2 : No.20,3 : No.3, 4 : No.157)
PL25 Relics in archaeological features (3 : No.20)
PL26 Relics in *Jomon* period (7 : black polished *Jomon* pottery, 8 : concave lines, 9 : incised lines and punctuations, 10 : zoned code impressions)
PL27 Relics in *Jomon* period (12～15 : black polished *Jomon* pottery)
PL28 Relics in *Jomon* period (5,16～18,21 : black polished *Jomon* pottery)
PL29 Relics in *Jomon* period (11,19,20,22 : black polished *Jomon* pottery)
PL30 Relics (23 : late stage in *Yayoi* period, 24～26 : *Kofun* period)
PL31 Relics in *Heian* period (27～33 : Haji ware)
PL32 Relics in *Heian* period (34,35 : type A of Smoked *Haji* ware, 41,45～47 : *Sue* ware)
PL33 Relics in *Heian* period (41,45～47 : *Sue* ware)
PL34 Relics in Middle ages (49 : *Sue* ware, 50,51 : celadon) after early Modern period (52 : porcelain, 53 : clayey doll)
PL35 Stone implements and weapons(1～6 : chipped stone arrowheads)
PL36 Stone implements and weapons(7,8 : polished stone axe, 9 : Stone with indentations or surface pitting, 10 : polishing stone, 11 : saddlequern)



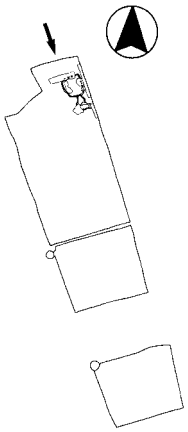
写真(PL)６
１区　完掘状況



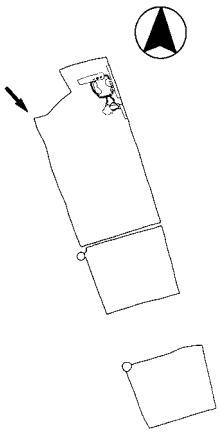
写真(PL)７
２区－１　完掘状況



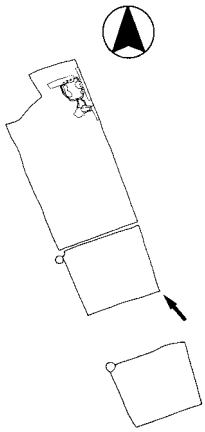
写真(PL)８
２区－２・３　完掘状況



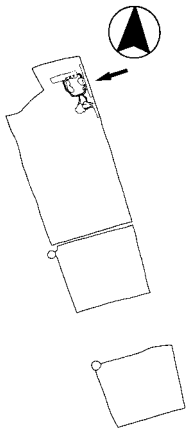
写真(PL) 9
２区－２・３　完掘状況



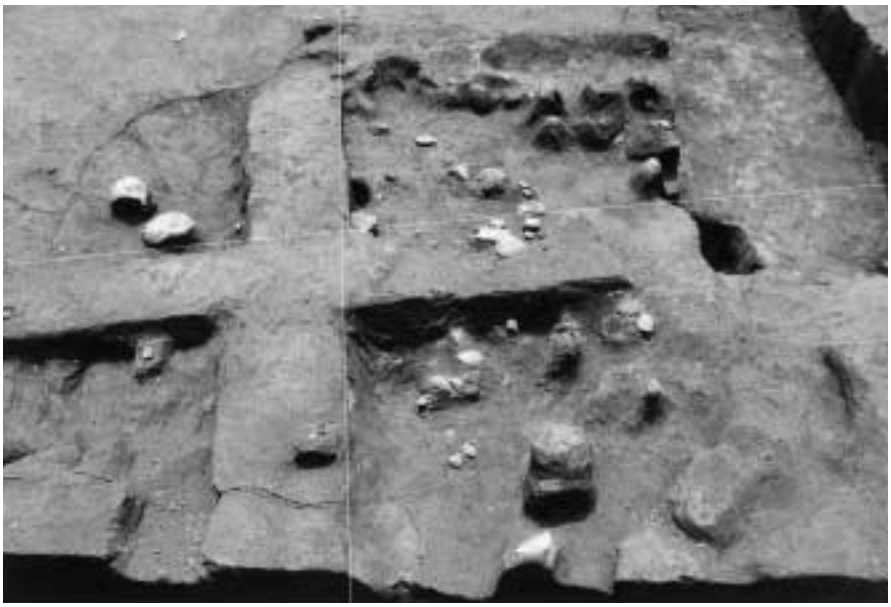
写真(PL)10
２区－２・３　完掘状況

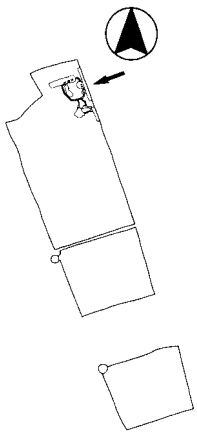


写真(PL)11
２区－２・３　完掘状況

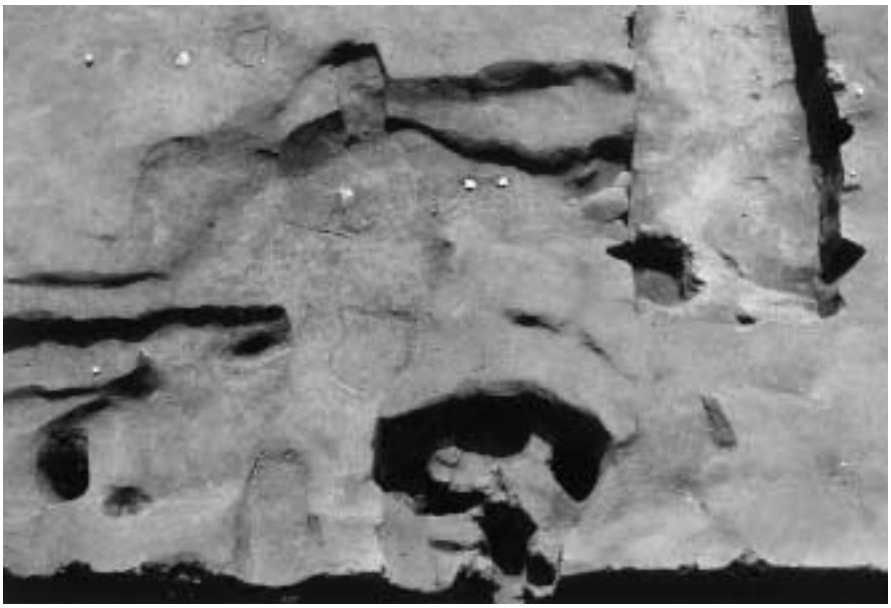


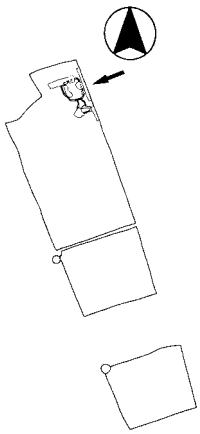
写真(PL)12
S019、S020　周辺完掘状況



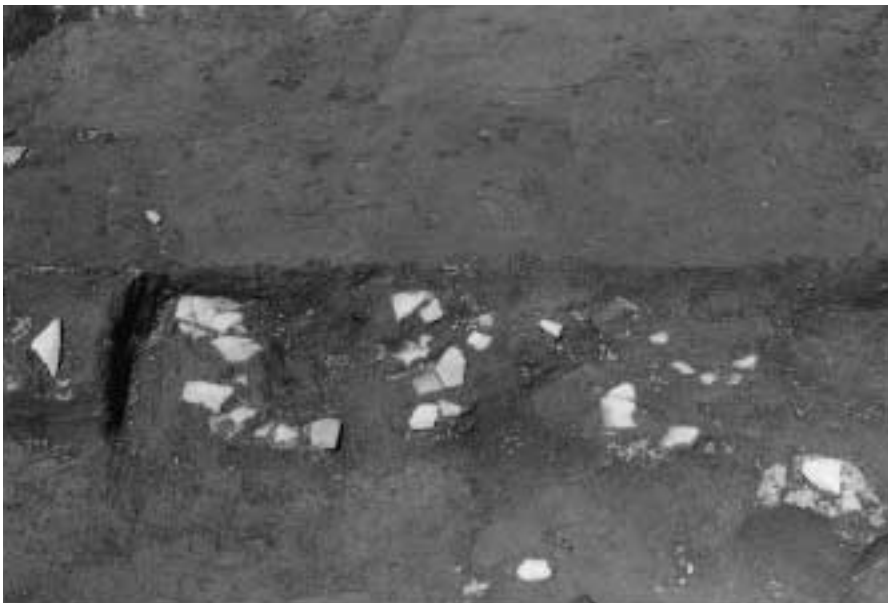


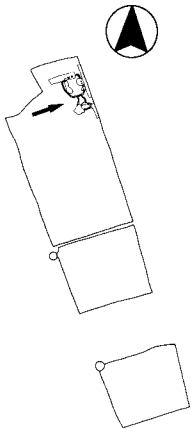
写真(PL)13
S019　発掘状況



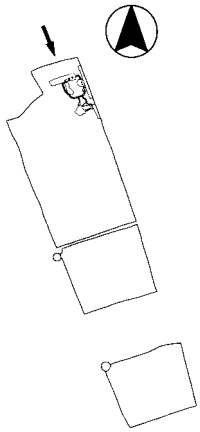


写真(PL)14
S019　完掘状況

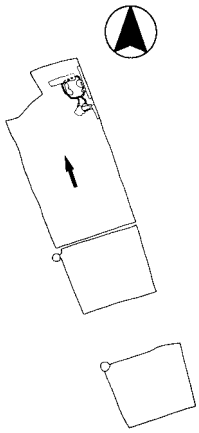




写真(PL)15
S020　遺物出土状況



写真(PL)16
２区－３　遺物出土状況



写写真(PL)17
２区－３　遺物出土状況

写真(PL)18
古墳時代の土師器（26）
出土状況（ⅡＣ層）

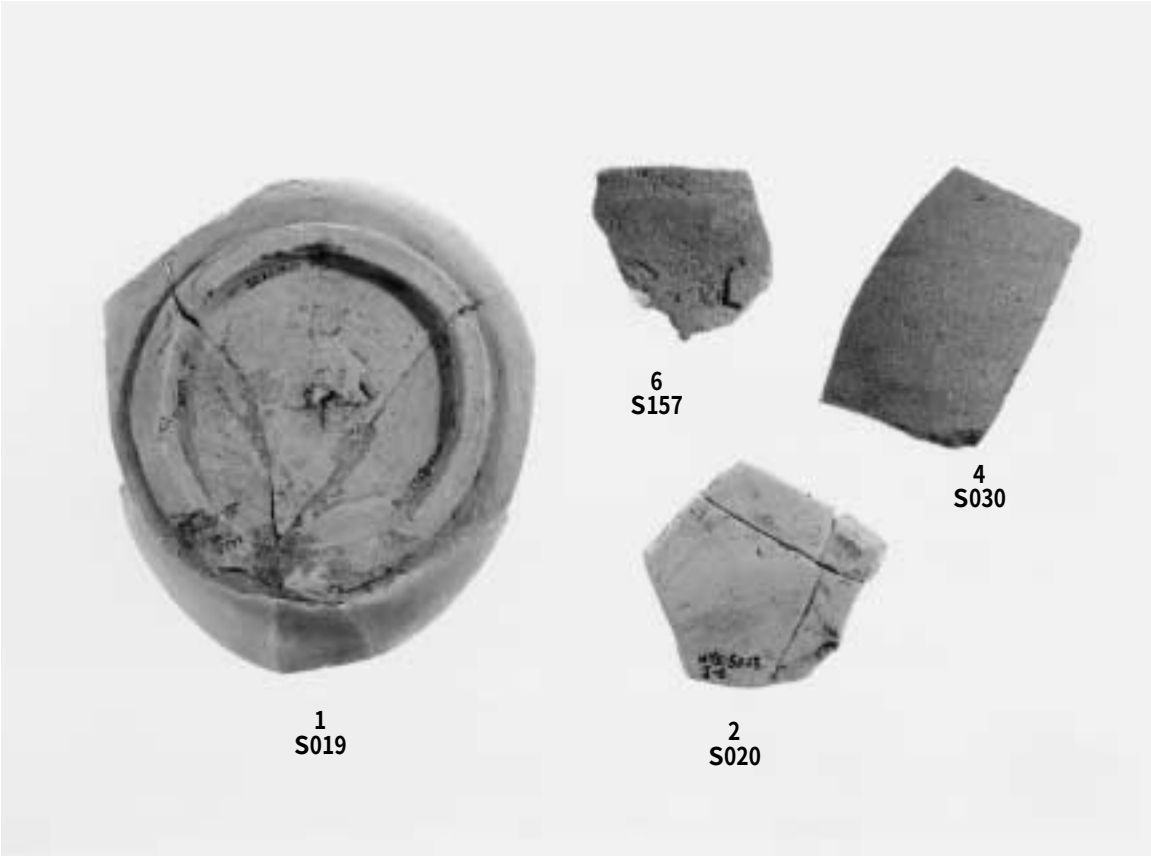
写真(PL)19
磨製石斧（８）
出土状況（ⅡＣ層）

写真(PL)20
凹石（９）
出土状況（ⅡＣ層）

写真(PL)21
発掘作業風景

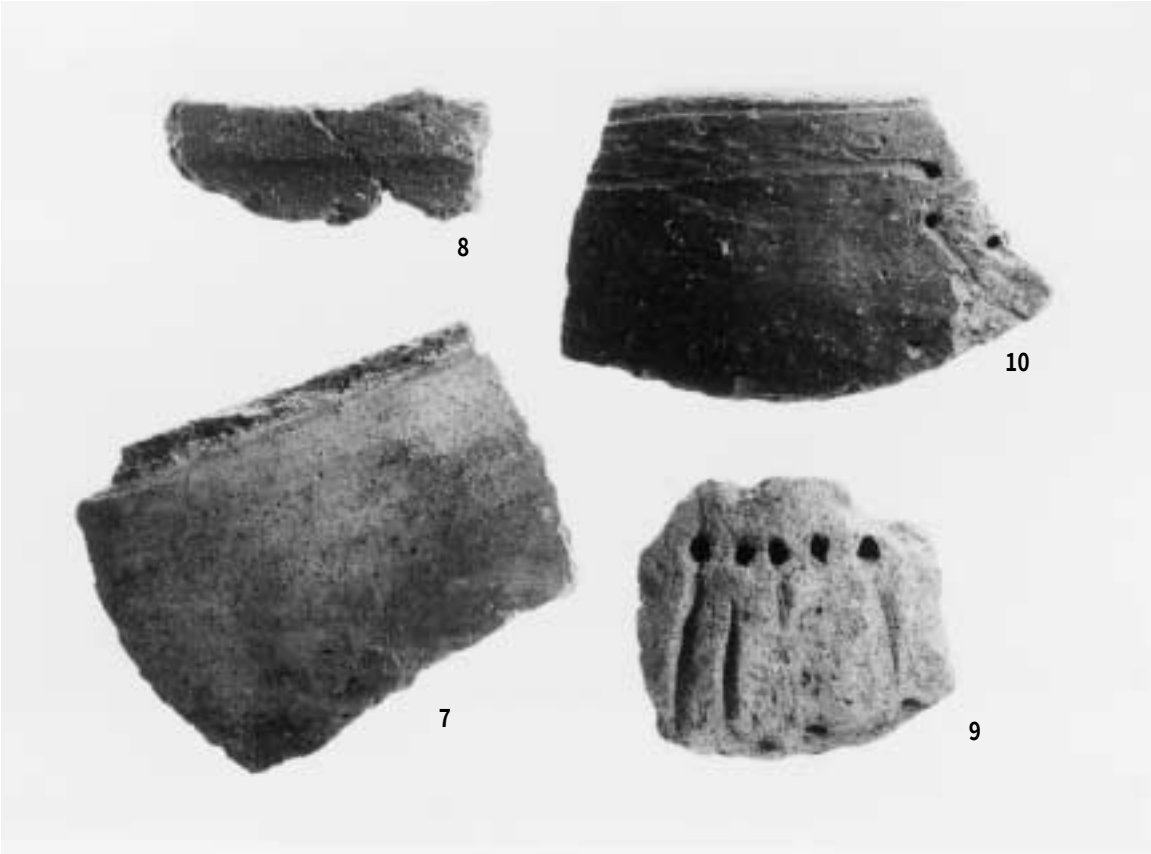
写真(PL)22
水越小学校
体験発掘風景

写真(PL)23
子供達、先生方と
作業員さん方

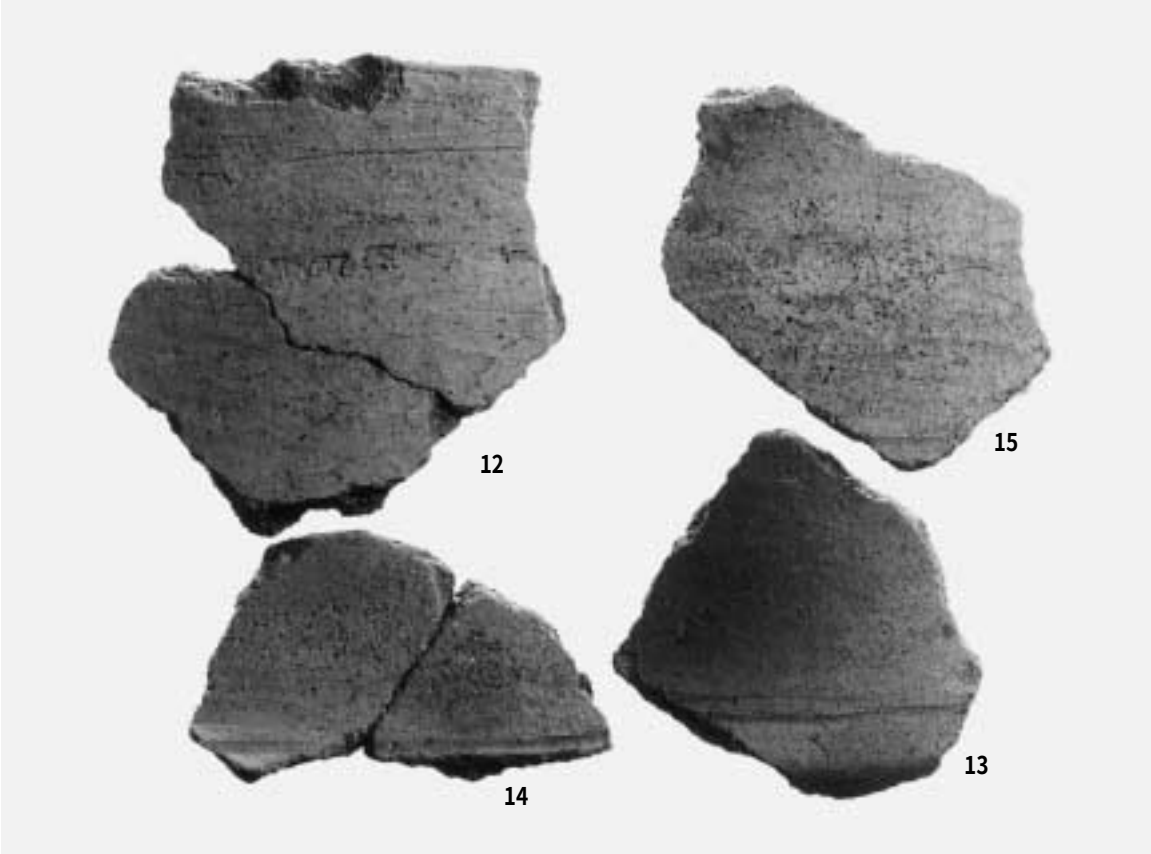


写真(PL)24　遺構内出土遺物（1：S019、2：S020、4：S030、6：S157）　S＝約3/5

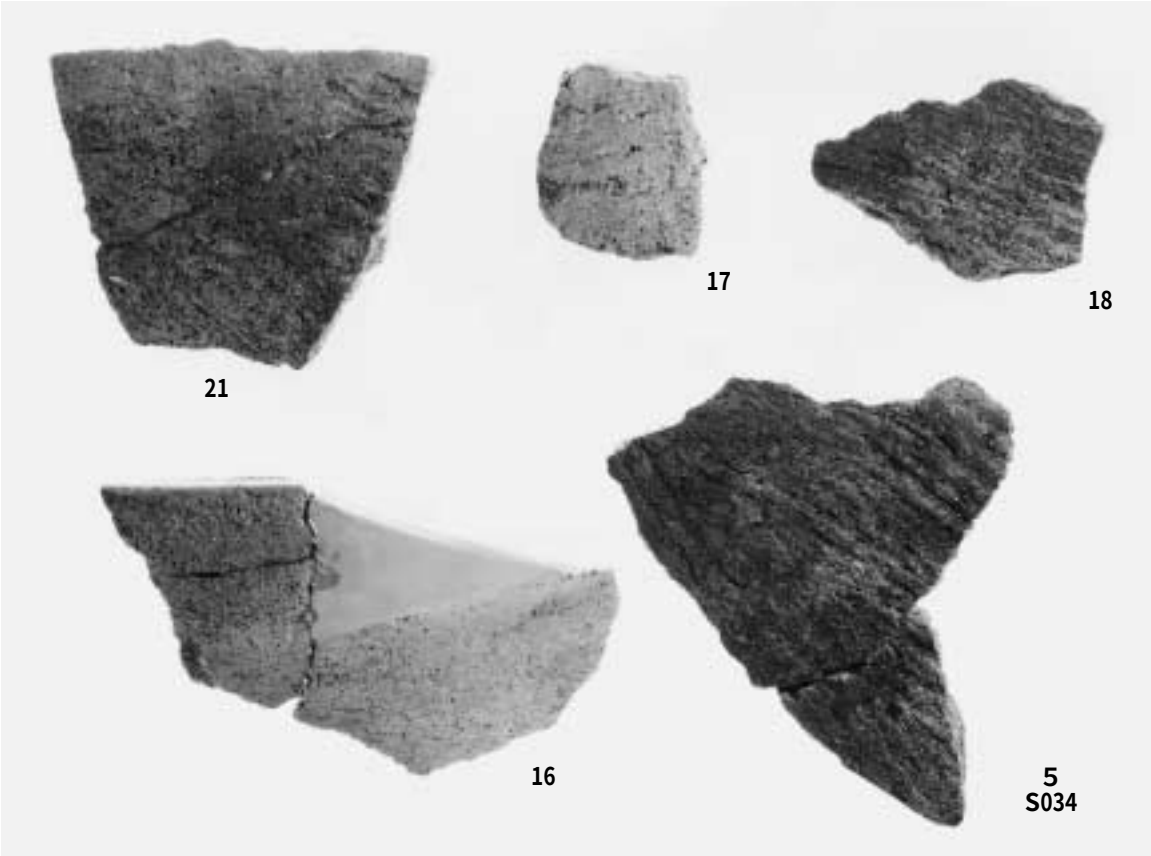
写真(PL)25　遺構内出土遺物（3：S020）　S＝約5/7



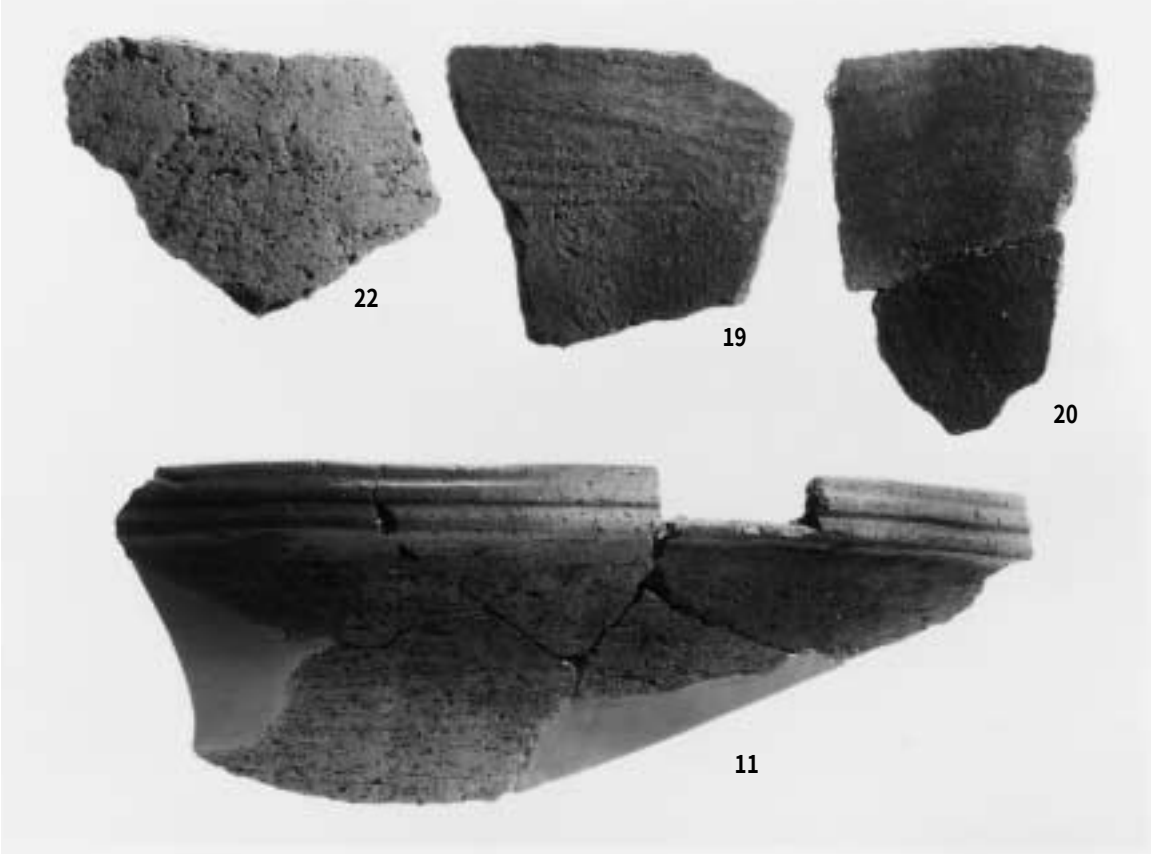
写真(PL)26　出土遺物　縄文（7：黒色磨研土器様式、8：凹縄文系土器、9：沈線刺突文系土器、10：磨消縄文系土器）　S＝約1/1



写真(PL)27　出土遺物　縄文（12～15：黒色磨研土器様式）　S＝約1/1

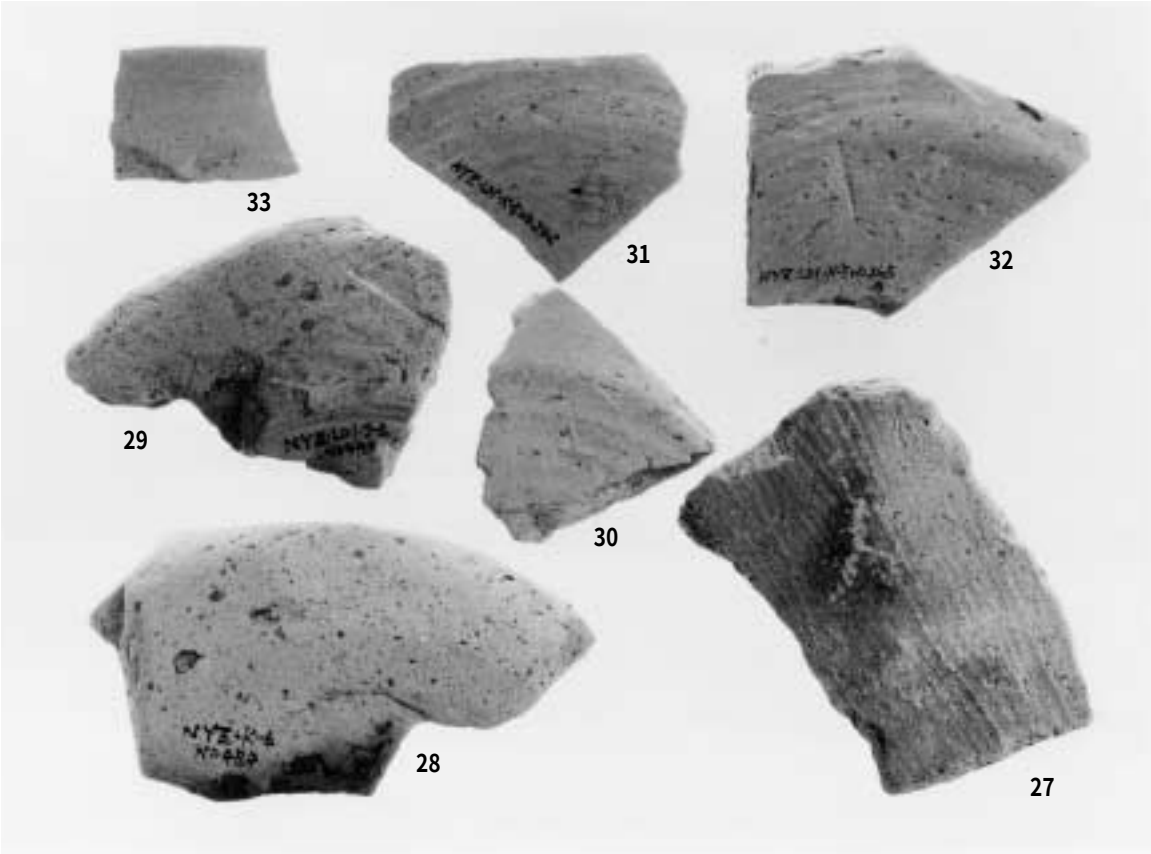


写真(PL)28　出土遺物　縄文（5,16～18,21：黒色磨研土器様式）　S＝約5/7

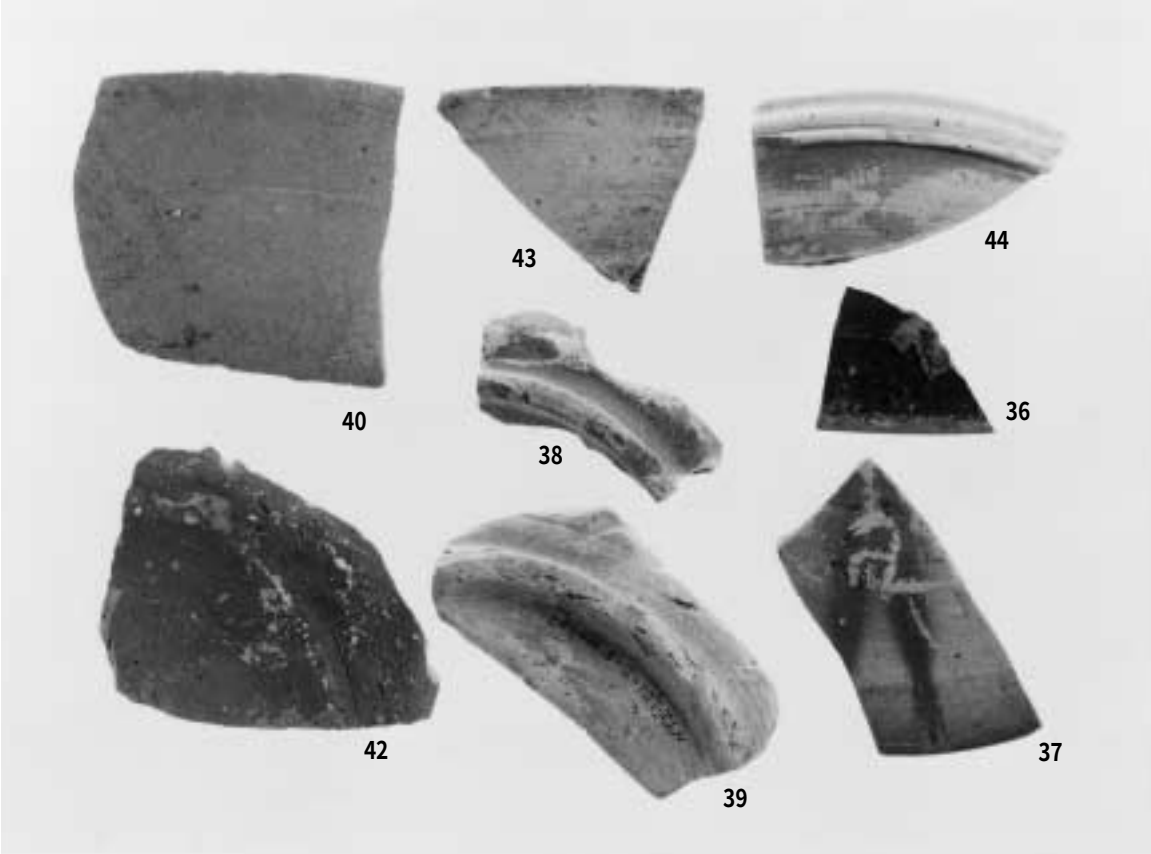


写真(PL)29　出土遺物　縄文（11,19,20,22：黒色磨研土器様式）　S＝約3/4

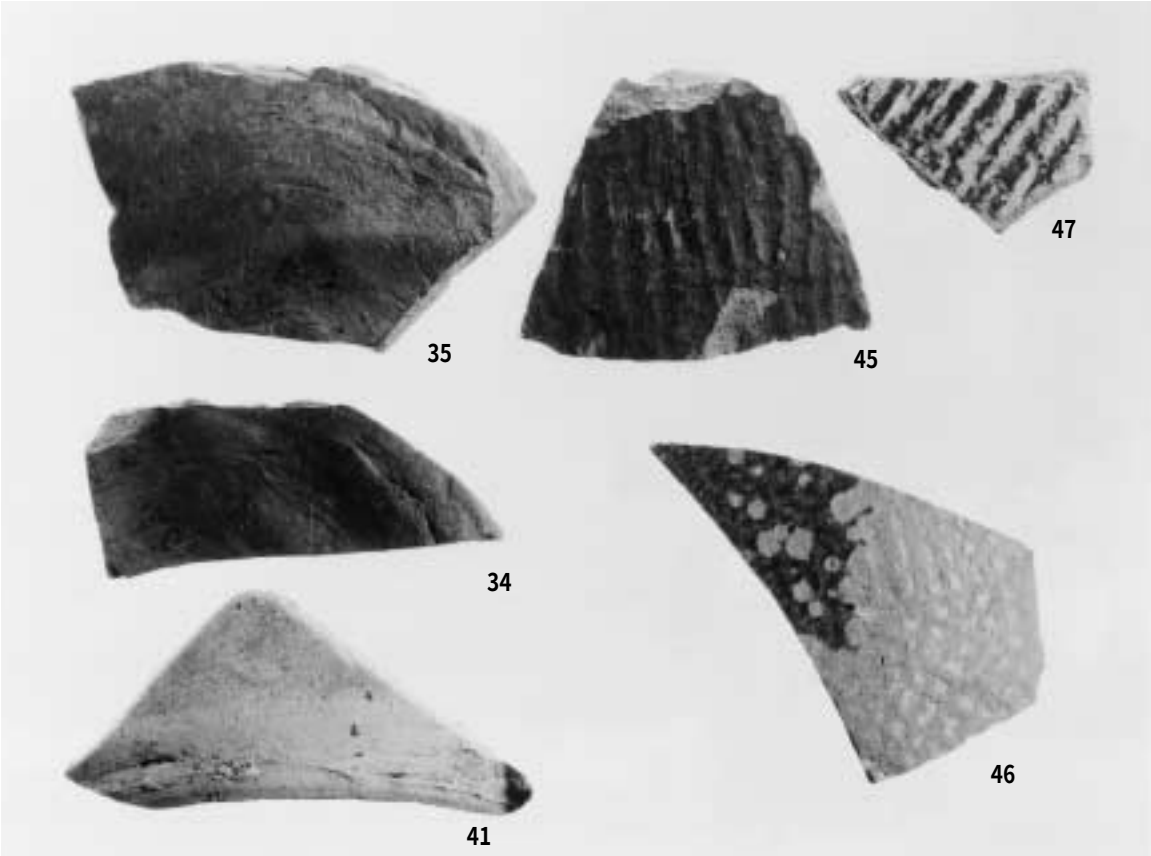
写真(PL)30　出土遺物（23：弥生後期、24～26：古墳）　Ｓ＝約2/3



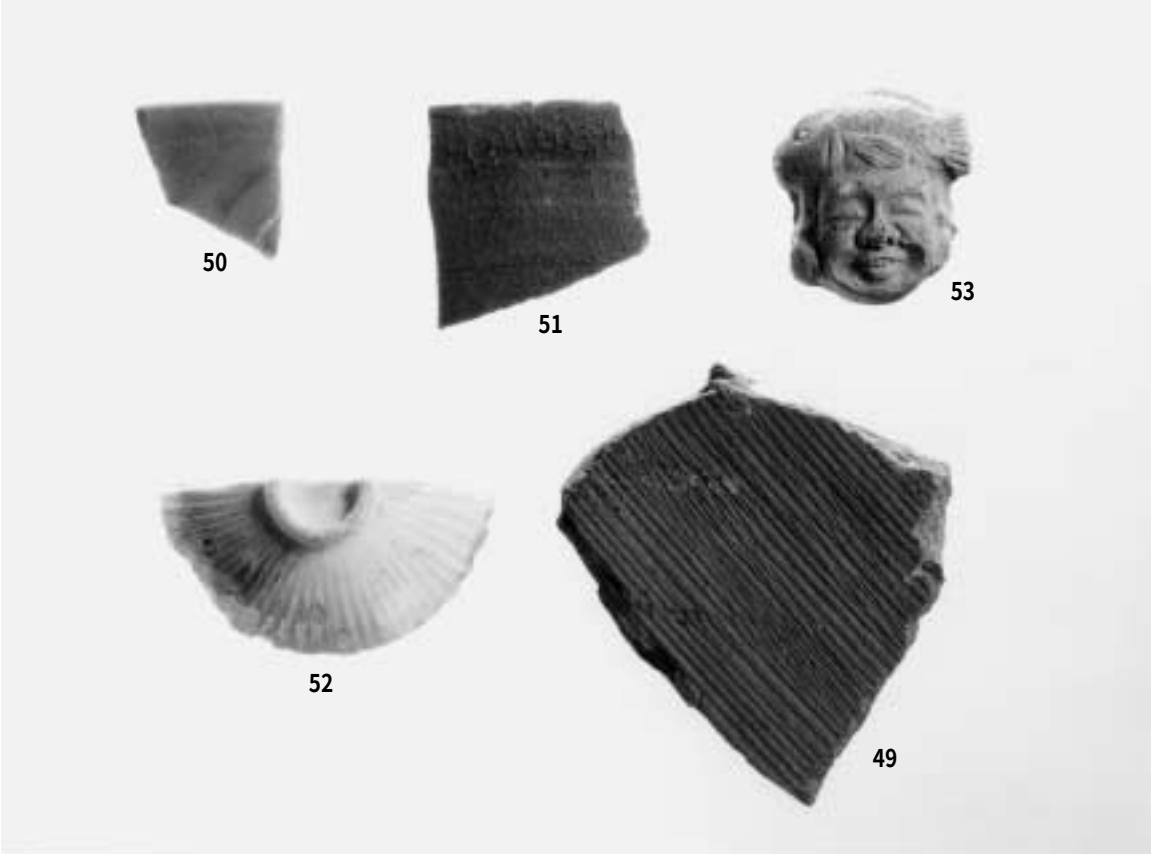
写真(PL)31　出土遺物　古代（27～33：土師器）　Ｓ＝約1/1



写真(PL)32　出土遺物　古代（34,35：黒色土器Ａ、41,45～47：須恵器）　Ｓ＝約1/1

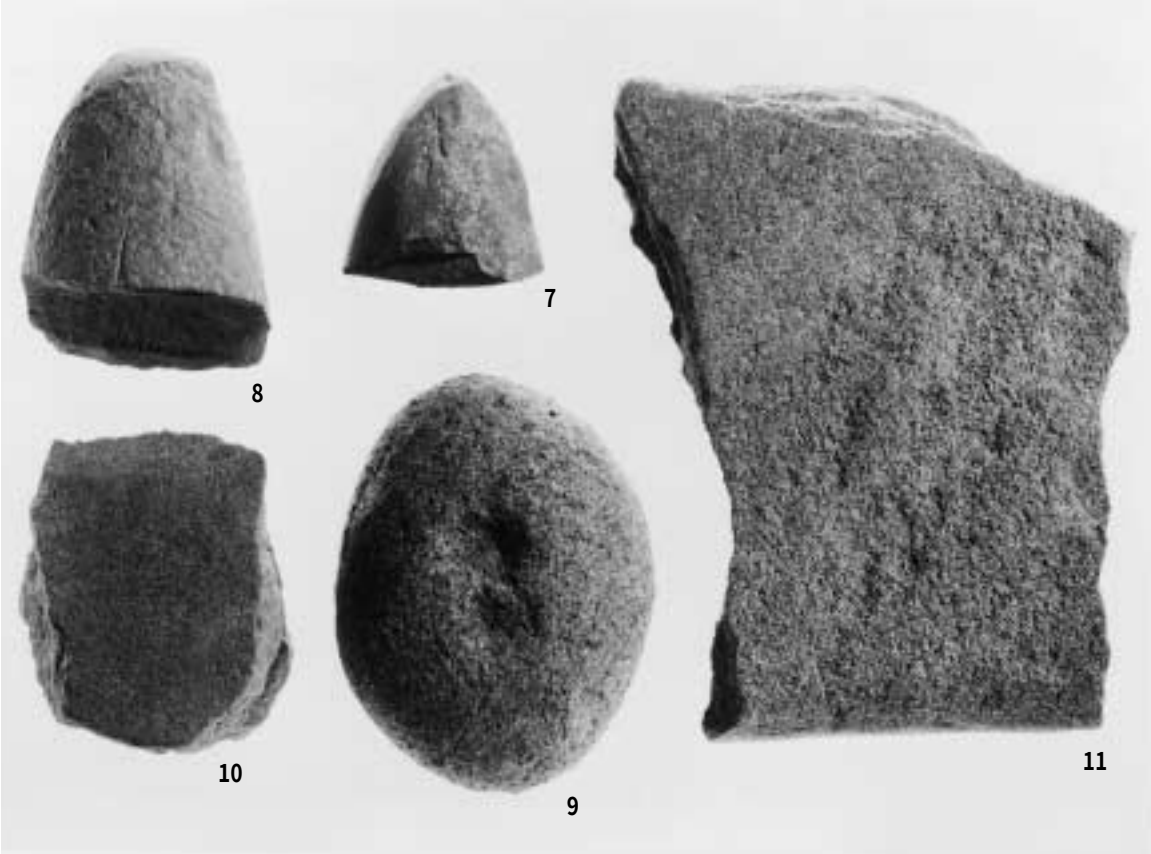


写真(PL)33　出土遺物　古代（36,40,42,44：須恵器）　S＝約1/1



写真(PL)34　出土遺物　中世(49：須恵器、50,51：青磁）近世以降(52：磁器、53：土人形）S＝約1/1

写真(PL)35　出土石器（1～6：打製石鏃）　Ｓ＝約1/1



写真(PL)36　出土石器（7,8：磨製石斧、9：凹石、10：磨り石、11：石皿）　Ｓ＝約2/3

あとがき

この遺跡は私にとって初めて主査として調査をさせていただいた遺跡でした。その前年は副査として埋蔵文化財の発掘調査とはどういうものかという経験をさせていただいたのですが、主査として調査をするにはまだまだ力量と経験が不足していることは明らかでした。実際、右も左もわからなくて、同遺跡の調査員であった安達武敏氏や河津攝氏をはじめ、県文化課の諸氏には本当にお世話になりました。また、あの暑い夏の最中、作業員として御協力頂いた木下政広氏、杉浦りえ子氏、中村藤子氏、堀野重子氏、河野義勝氏、松田計子氏、堀川貞子氏、溜渕俊子氏、森川　護氏、森川征子氏、森田　緑氏、田上次敏氏、田上利子氏、田島弘子氏、小沢健一氏、浅久野友和氏、河津恒平氏（順不同）には心から感謝申し上げます。

報告書作成にあたり遺物の水洗い、注記、接合をして下さった平成11年度の収蔵庫チームの皆さん、土器の拓本をして下さった塚本博子氏、淵上慶子氏、宮田日文氏、宇野玲子氏、上村孝子氏、遺物の実測やトレースなどをして下さった川井田久子氏、平川恵理子氏、平木智子氏、河合章行氏、戸田紀美子氏、林ゆり氏、緑釉陶器について御教示いただいた奈良国立博物館の高橋照彦氏、古代、中世の遺物について御教示いただいた熊本市教育委員会の美濃口雅郎氏、網田龍生氏、磁器について御教示いただいた竹田知美氏、英文要約の校閲をしていただいた村田百合子氏、そして報告書作成にあたり最初から最後まで私をサポートして下さった岡田基子氏及び池田朋生氏をはじめ文化課の諸氏に深く感謝致します。

調査から報告書作成までの一連の過程の中で私がいつも考えていたことは自分自身は本当にまだまだ力量不足だという事でした。そして、常に勉強が必要なこと、体力をつけなければこの仕事は続けられないという事を痛感していました。

今後もできる限り、諸氏に一歩でも近付けるように自分なりに努力していきたいと思っています。この報告書に関わって下さった皆さん方に感謝をして、結びの言葉とします。

ありがとうございました。

報　告　書　抄　録

フ　リ　ガ　ナ	ヌヤマヅイセキ
書　　名	沼山津遺跡
副　書　名	平成10年度一般県道小池竜田線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財の調査
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第２０３号
編　著　者	岡本　真也
編 集 機 関	熊本県教育委員会
所　在　地	〒860－0806　熊本県熊本市水前寺６丁目18番１号
発　行　年	2001年12月28日

フリガナ 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ヌヤマヅ 沼山津	ｸﾏﾓﾄ ｼ ｻｸﾗｷﾞ 熊本市桜木４丁目	43201	360	32 46' 04"	131 47' 03"	H.10.6. 1 ～ H.10.8.17	1,100㎡	一般県道 緊急整備 事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特注事項
沼山津	集落	縄文時代 中～後期 後～晩期 弥生時代 後期 古墳時代 ４～５世紀 古代 中世 近世 近代～現代 時期不明 (縄文～近現代？)	土坑２ 竪穴式住居跡１ 道路状遺構１ ピット317	阿高系土器 天城式土器ほか 石鏃、磨製石斧 凹石、石皿 壺形土器 土師器（甕） 土師器（甕、坏など） 須恵器（坏など） 緑釉陶器（香炉） 青磁(碗)・須恵器(甕) 磁器（紅皿） 土人形（畑人形）	１点だけ出土した緑釉陶器（香炉）は、京都の洛北で９世紀前半ごろに焼かれた物と判明。

熊本県文化財調査報告　第203集

沼　山　津　遺　跡

発行年月日　平成13年12月28日

編　集
発　行　熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市水前寺６丁目18番1号

印　刷　コロニー印刷
〒862-0051　熊本市二本木３丁目12番37号

Cultural Series of *Kumamoto* Prefecture № 203

The *Nuyamazu* Site

Excavation for Maintaining Prefectural Road
between *Koike* and *Tatsuda* Line in *Kumamoto* City

December 2001

Board of Education, *Kumamoto* Prefecture

13 教委 教文
② 004

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 203 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名： 沼山津遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話： 096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会
URL：http://www.kumamoto-bunho.jp/